2023 年度

異文化交流研修報告書

@マレーシア工科大学

目次

p.3　異文化交流研修によせて

p.4　参加者プロフィール

p.7　Course Information（シラバス）

p.9　渡航前グループ調査報告

p.25　UTM の基本情報

p.27　研修の日程

p.31　クアラルンプールでの活動

p.37　マラッカでの活動

p.40　ジョホールでの活動

p.47　UTM での講義の様子

P.49　コラム集

P.59　個人エッセイ

p.102　研修に関する Q&A

p.105　UTM のバディ紹介

p.108　編集後記

HITOTSUBASHI UNIVERSITY

異文化交流研修によせて

国際教育交流センター　講師　塚田英恵

2023 年度の異文化交流研修（春季・マレーシア工科大学）は通算 5 回目，そして私が担当教員を務めさせていただく 2 回目の研修となりました。今年はさまざまな興味関心をもった 14 名の学生（商 4 名，経 2 名，法 1 名，社 6 名，SDS 1 名）が参加しました。

この研修報告書には学生たちの目から見たマレーシアの文化や社会，そして学生がそれぞれの経験を通して考えたことや感じたことが詰め込まれています。私の指導が至らず，深め切れていない考察もあるかもしれませんが，学生たちが日本では考えられないような光景をマレーシアで目の当たりにして驚いたり，研修中の小さな出来事や発見から日本の社会や文化について考えてみたり，マレーシアの学生たちと試行錯誤をしながら交流することを通して考えたことや感じたことなど，現時点の等身大の学生たちの姿を記録できました。学生たちがこの研修をきっかけにこれからも成長し続け，いつか将来，この報告書を再び手に取って振り返った時，そこに懐かしい思い出とともに大きな成長の道のりが見られるようになっていることを願います。

この度の研修では前半のクアラルンプールの部分で新たな試みとして，マレーシアでグローバルな展開を行っている中国の厦門大学や日本企業の味の素社やパナソニック社などの視察先が新たに加わりました。さまざまなかたちでつながり合う世界を学生たちが実際に見て，自分の将来の姿を思い描くきっかけにしてほしいという願いのもと，これらの視察の実現に向けて，マレーシア工科大学（UTM）の Lee 先生をはじめとする多くの方々にご協力いただきました。中でも，マレーシア日本工科院で共同研究を行っているパナソニック社のラボの視察は，一橋大学如水会のクアラルンプール支部の方々のご厚意とご協力のもとに叶ったものでした。お忙しい中，この視察を実現するためにご尽力くださった同支部の灰谷充史様と同じく同支部の会員で Panasonic Manufacturing Malaysia 代表の杉原尚様，そしてラボのスタッフの皆様方には本研修関係者一同，心から感謝しております。本学の卒業生である先輩方が海外でご活躍されている姿は，学生たちにとって大きな刺激と励みになったものと思います。

この研修は他にも多くの方々に支えていただきました。UTS の上野様には昨年同様，旅行手配や渡航手続きでたいへんお世話になりました。また，UTM の Lee 先生と Ong 先生は，本学の希望を取り入れたプログラムの計画のほか，研修 3 週間を通して学生たちを温かく見守り，ご指導くださいました。そして，UTM の学生のバディさんたちも本学の学生たちのお世話に日々奔走して下さる傍ら，仲間としても交流を深めてくださり，参加者たちに本や講義では得られないような学びと思い出深い経験をたくさん与えてくださいました。皆様方にこの場をお借りして心より深くお礼申し上げます。

参加者プロフィール

3 週間，マレーシアで日々の行動を共にした，一橋生同士による他己紹介です！
2023 年度は，1 年生 4 名，2 年生 7 名，4 年生 3 名の計 14 名が参加しました。
（男：女＝6：8，商：経：法：社：SDS＝4：2：1：6：1）
研修中は，学部・学年の垣根を超えて授業や日常生活で協力し合い，楽しみました。

Daiki, I.　（社 1）
1 年生唯一の男子で，頻繁にトランプ大会を主催して寮での時間を盛り上げてくれた。主に恋愛や私生活に関して（謎の）自信に満ち溢れており，就職活動や社会人デビューを控えてナーバスなメンバーから大変羨ましがられている。

Junka, K.　（社 1）
帰国子女かと思うくらい英語がペラペラな，頼れる女子！班のメンバーはバディとの会話や最終プレゼンの準備などでも助けてもらってました…。 そんな頼れる彼女は美味しい物に目がなく，彼女が吸い込まれていくお店にハズレなし。またダンスサークルに入っていて，罰ゲームのダンスでも彼女の上手さが伝わってきた。

Mai, M.　（SDS 1）
1 年生とは思えない貫禄!大抵のことには動じない，頼れる仲間です。そしてプレゼンの原稿は書かないスタイル。それでも本番では堂々と発表できるのだから羨ましい限りです。ただ，そんな彼女にもクレイジーポイントが。独り言が多いのです，韓国語の。「単語によって出やすい言語が違うの～うふふ!」とのこと。

Yuka, B.　（社 1）
おそらくこの研修メンバーで一番しっかりしている一年女子。集合時間や場所，次の予定などを誰よりも把握しており，先輩からも頼られていた。そんな彼女だが，もふもふぬいぐるみを常に持ち歩き，各地で写真に収めるというとてもかわいい一面もある。

Kodai, K.　（商 2）

誰にでも気さくで優しい，ミスターサザンことこうだいくん！ある時はムードメーカー，またある時は頼れるみんなのリーダーと，オンとオフの切り替えもきちんとできるスーパーボーイ。いつでも明るく，場の空気を明るくしてくれる彼に元気づけられていた人も多いはず！カルチャーナイトで見せてくれた法被姿も素敵でした！

Kohji, K.　（経済２）

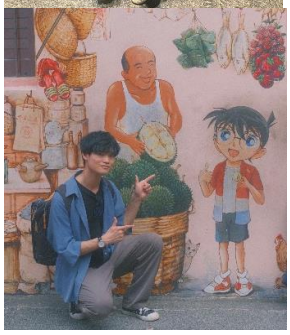
知的でクールな雰囲気の 2 年生。タイピングがめちゃくちゃ速く，講義中はそのタイピングスキルで着実に知識を増やしていた。一見大人しそうだが，実は大きな情熱と行動力を秘めていて，ジョホールバル最終日にはバディに直談判をし，日本人ひとりでバディを連れて観光していた。食べ物も人一倍食べていたし，1 番マレーシアを満喫していたかも…！

Haruna, O.　（社２）

国を問わず誰とでも仲良くなる愛嬌を持つ女の子。肝が据わっていて，即興の発表も難なくこなしていたのが印象的だった。初対面では大人しそうな性格と思っていたが，笑うときはかなり声の大きいゲラになる。日本でお笑い劇場に通い詰めて腹筋が鍛えられたからしい。参加者でトランプのダウトをした時に，エースを出すはずが 14 と言ってしまった天然っぷりが筆者のツボであった。

Marina, S.　（社２）

性格良し，成績良し，運動神経良しと辛口な筆者ですら欠点を見つけられない完璧な人。そんな彼女だが，マレーシアで最後の夕食を食べに行く際にタクシーの定員と手持ちの外貨が少ないことを理由に同じチームの Koji と Sota に「置いていってもいいですか」と非情な提案をする一面もある。



Masahiro, M.　（社２）

高身長ジェントルマンで知的な雰囲気を醸し出すのは，ブルーサングラスの似合うまさひろさん！スマホで写真を撮るときのアングルにこだわる彼，実はアニメを何周も観るほどの名探偵コナンガチヲタの一面を持ち，現地の聖地巡りには抜かりないお方でありました。ただし同じ班であるきょうかさんの家臣であった…！？

Nanaho, T.　（商２）

マレーシアで爆モテをかました超絶美少女！研修後半では 4 人のマレーシア男児から求愛を受けた。一見清楚に見えるが意外と破天荒な一面もある。毎日夜には宿舎の廊下でアイドルのダンスを必死に踊っていたクレイジーパーソン。

Taiyo, S.　（商２）

エピソードが多すぎてもはや何を語ればいいのかわからないのがこの人物。ドリアンでお腹を壊し，バディにホストみたいと誉められ（？），グループ LINE に彼専用のアルバムが作られ，UTM の教授と日本式乾杯をかまし，などなど。Most active person に選ばれるほどのコミュ力の持ち主である彼は，この研修に欠かせないムードメーカー。

Kyoka, A.　（商４）

サバサバしていながら気遣い上手な面も持ち合わせる頼もしきお姉さん。フィンランドへの長期留学経験もあり，英語も流暢である。プレゼンテーションでは，中心となってグループを引っ張り，見事一位に導いてくれました。そんなハイスペ具合とは裏腹に，「潮干狩り並みに浅い」という謎ツッコミを多用するのが印象的であった。

Meina, O.　（法４）

バディともすぐに打ち解けられる高いコミュ力と表現力をもつめいなさん。小さなことにもとびきりの笑顔で感謝を表し，みんなの心をぽっかぽかに温めてくれた。そんな優しさだけでなくユーモアも溢れるお姉さんであり，くるくると変わる表情と予想外の行動でシャッターチャンスを量産するため一瞬も目が離せない。

Sota, U.　（経済４）

そうたさんは 4 年生最年長の男子の参加者でこの研修全体の頼りがいのある兄貴のような存在です！研修中は僕も何度助けてもらいました！研修全体を通していつも一眼レフの高級カメラを持って，みんなのイイ写を供給してくれました！その頼り甲斐と優しい雰囲気から後輩みんなから慕われていました！

Course Information（シラバス）

開講時期	2023 年　冬学期
時限	水曜日４時限（15：15～17：00） 必要に応じて５時限（18：55）まで
教員	国際教育交流センター 講師 塚田英恵

コース目的と概要

冬学期の渡航前授業を経て，春季休業期間中に３週間（２月中旬～３月上旬）マレーシアに渡航し，環境を考慮した経済発展など，持続可能な開発目標（SDGs）に関連した施設訪問・講義・グループワークなどを行います。研修期間の３週間を通してマレーシアの三都市（クアラルンプール，マラッカ，ジョホールバル）に滞在し，マレーシアのダイナミックで多様な文化や社会に触れながら，マレーシア工科大学の現地学生との交流を継続することで異文化間交流を深め，異文化・多文化の環境で他者と共生・協働できる自信を育むことを目指します。

最初の１週間は，クアラルンプールにおいて環境庁施設やグローバル企業の訪問（予定）などを行った後，マラッカで歴史視察を行います。その後の２週間は，ジョホールバルにおいて，SDGs に関連した講義とプロジェクトワークを行います。

渡航前授業スケジュール

日付	授業内容
11/8/2023	渡航前授業 1：参加者自己紹介，研修概要，旅行業者による渡航手続き
11/22	渡航前授業 2：マレーシアの文化と社会
12/13	渡航前授業 3： ・文化と異文化間コミュニケーション ・グループ・プロジェクトと報告書作成準備（パート１）
12/20	渡航前授業 4：マレーシアからの留学生ゲスト・トーク
1/10/2024	渡航前授業 5： ・多文化・グローバル社会における言語 ・グループ・プロジェクトと報告書作成準備（パート２）
1/17～	渡航前授業 6：グループ発表
1/24	危機管理オリエンテーション（オンデマンド形式）
2/7	渡航前授業 7：最終確認打ち合わせ
2/18～	異文化交流研修期間（3 週間）

3/10	
4/21	プログラム振り返り会
～7 月	報告書作成

成績評価方法

● 渡航前授業への参加（グループ発表を含む）：20%

➢ ３回以上欠席した者はＦとします。10 分以上の遅刻が 2 回あった場合には，欠席 1 回分とみなします。）

● 研修先でのパフォーマンス（UTM から課された課題やグループ発表など）：40%

● 報告書作成（グループ・ペーパー，個人エッセイ，その他担当原稿の執筆、編集作業など）：40%

成績評価基準

A＋	A	B	C	F
96-100	90-95	80-89	70-79	0-69

課題

1. 渡航前授業の課題（マレーシアに関するグループ発表およびペーパー執筆を含む）
2. 個人エッセイ：研修後、研修を通しての自分にとって一番大切な学びや成長にまつわるテーマやトピックを決め、それに関する内省的考察に研修中の具体的な経験を交えたエッセイにまとめること。「報告書原稿テンプレート 2023」を使用し、2 枚程度。
3. 報告書作成（コラム等担当原稿の執筆と編集作業）
4. UTM から課された課題（UTM からの指示に従うこと

マレーシアの多文化社会

――宗教とブミプトラ政策――

文責：Kodai, Nanaho, Junka, Masahiro

はじめに

今回の渡航の目的の一つとして，多文化社会が特徴的なマレーシアで 3 週間生活することを通して，コミュニケーションや，宗教をはじめとする異文化への理解を深めることが挙げられる。マレーシアは，日本人にとってあまり馴染みのない多民族多宗教社会であり，マレーシア社会への理解を深めるには，宗教と社会政策の密接な関わり合いを理解する必要がある。よって，以下ではマレーシアにおける宗教とマレー人および先住民優遇政策である「ブミプトラ政策」を中心に話題を展開する。

マレーシアの宗教

2020 年の国勢調査によれば，マレーシアの宗教の分布は，イスラム教が 60.3%，仏教が 19.8%，キリスト教が 9.2%，ヒンドゥー教が 6.3%という内訳となっている。本セクションでは，このように多様な宗教が共存するマレーシアにおいて，宗教と政治がどのようにかかわっているのか，憲法の規定とイスラム教の国政への影響を踏まえてみていきたい。

まず，連邦憲法 3 条を見てみると，イスラム教が「連邦の宗教」つまり国教として定められており，最大多数派のイスラム教を保護し，特別な地位を与えることが認められている。このことは，モスクの建設に公的な予算が組まれたり，学校教育科目にイスラム教の科目が導入されたりといったことに現れている（鳥居 2023）。また，マレーシアの憲法では，マレー人の定義に関する規定が存在するが，そこではイスラム教の信仰が一つの要件になっている。このことは，ブミプトラ政策に挙げられるようなマレー人の社会経済的地位の向上が要求される時，そこにイスラム教の公的支援の拡充が含まれることを意味する（鳥居 2023）。

マレーシアのように，イスラム教を国教に据える国においては，その教義をどの程度国政に反映させるかということがしばしば問題となる。マレーシアの場合，イギリスの植民地統治支配を引継ぎ，法制度に関してもイギリスをモデルにしているという背景もあり，その程度は非常に限定的であると言われている（鳥居 2023）。しかしながら，既存の枠組み内でのイスラム教に関する事柄が選挙や議会で争点となることは多い。具体的には，ムスリムに適用される民法に関してや，学校教育におけるイスラム教や民間のイスラム教に関する支援などが挙げられるが，こうした争点は，イスラム教徒が党員の多数を占める政党によって提起されてきたものがほとんどである（鳥居 2023）。そもそも，マレーシアの政党は民族を基盤とする民族政党が基本であり，与党に関しても，マレー人，華人，インド人をそれぞれ基本とする 3 つの政党の連立政権となっている（金丸 2015）。このように，多様な民族

および多様な宗教を持つ議員で構成されるマレーシア議会では，税制や刑法，外交などの政治の中核を担う部分に関してまで，イスラム教の教義を反映させるのは難しく，このこともまた，教義の反映の程度が限定的となっているひとつの要因であると考えられる。

ブミプトラ政策について

宗教と同様に，マレーシアの社会を語る上でブミプトラ政策を無視することはできないだろう。ブミプトラ政策とは，全人口の 70%を占めるマレー系の生活水準向上を目的としたマレー人優遇政策である。この政策は，マレー系と特に中華系の人々の間の経済的格差を是正するために 1971 年に開始された。まず，ブミプトラ政策が開始されるまでの経緯について，マレーシアにおける他民族社会の形成の歴史を交えながら説明する。

15 世紀までのマレーシア周辺の地域は，中国とインドやアラビア半島との中継地として発展した。そして交易を通じて多様な文化を受容し，特にムスリム商人との交易が盛んだったことからイスラム教を受容するようになった。16 世紀に入るとヨーロッパでは大航海時代が始まり，マレーシアにも欧米諸国の影響が及んだ。最終的にはイギリスの影響力が強くなり，貿易の中継地として発展し，またゴム農園の建設や錫鉱脈の開拓なども行われた。この時期に現在のような多民族共生の文化が誕生したのである。すなわち，イギリスの影響下で，マレー系の人々が農業や林業に従事し，中華系の人々が貿易などを取り仕切り，そしてイギリスによって労働力として送り込まれたインド系の人々がゴム農園に従事するという社会構造が完成したのである。

このように，イギリスの影響下におけるマレーシアにおいては，各民族は分離された状態で生活していた。しかしその後，マレーシアは第二次世界大戦の後にイギリスから独立し，経済発展の必要性に迫られた。主な理由としては，主要産業であった天然ゴム産業が合成ゴムの誕生によって競争力を失ったことや，日本をはじめとする東アジアの国々で高度経済成長が進行していたことが挙げられる。したがって 1960 年以降，マレーシアでは工業化と経済成長のための政策が数多く施行されることとなった。ブミプトラ政策はそのような政策の代表的なものの一つである。

前述したように，ブミプトラ政策の必要性が生じた理由は，産業構造を改革する上でマレー人の生活水準を向上させる必要があったためである。独立以前，マレー人はイギリスの統治下で一次産業に従事していたが，この構図は独立後も継続していた。中華系が金融や保険などの高所得職に従事し，インド系は主に製造業や建築業を担う一方で，人口比率が最も多いマレー系は農村部で農業に従事していた。また，1965 年にマレーシアから独立したシンガポールでは中華系が人口の 75%を占めており，当時のマレーシアの都市部において中華系の影響力が大きかったことを示唆している（外務省 2024）。そして独立以降，マレー系と特に中華系の間の所得格差が拡大した結果，マレー系の不満が増大し，1969 年には反華人暴動のような事件も発生した。このような状況を踏まえた上で，農村部に暮らすマレー系の地位を向上させ，労働力の需要が高まっている二次産業や三次産業を担うべきであると

いう流れが生じた。その結果，ブミプトラ政策が施行されることとなった。

ブミプトラ政策による教育と雇用への影響

実際のところ,「ブミプトラ政策」という名前の政策があるわけではなく，1971 年に登場した新経済政策の中の「貧困の撲滅」と「社会構造の再編」の部分がマレー人を優遇する政策であり，一般的に「ブミプトラ政策」と呼ばれるものにあたる。この政策は経済面などマレーシアに様々な影響を与えたが，特に教育と雇用に多大な影響を与えた。

ブミプトラ政策の教育と雇用への影響を見る前に，まず，その中の「貧困の撲滅」と「社会構造の再編」を説明しよう。ブミプトラ政策の中の「貧困の撲滅」とは、国民所得水準を引き上げ，雇用機会を増やすことで民族を問わず貧困の撲滅をはかるという内容を指している。この政策は、「民族を問わず」としているが、実質的には対象となる人の 80%以上がマレー人であるため，マレー人の地位の改善を第一の目標としていることになる。また「社会構造の再編」とは，新経済政策の根幹をなしているものであり、近代部門への進出比率の最も低いマレー人の地位を引き上げることを狙いとする内容である。都市における経済活動が拡大する中で，マレー人による商業，工業部門への参加を促すことが重要な目標となった。具体的な目標の例としては，第二次産業の雇用におけるマレー人の比率を制定当時の 1970 年には約 30%だったのを 1990 年には約 50%まで高めるというものや，管理・経営職種におけるマレー人の雇用比率を 1970 年から 1990 年にかけて，約 25%から約 50%まで増やそうといったものが挙げられる（小野沢 2012）。

そして，こうした新経済政策の導入とともにさまざまな特権や特別な地位が，教育面においてもマレー人に対して付与されるようになった。ここで雇用と同じように教育の格差是正が重視されているのは，教育と雇用は関係性が深く，実際にマレーシア政府や企業の重要なポストに占める中華系の割合が大きいことが理由に挙げられる。すなわち，雇用の格差是正は短期的なものだが、教育の格差是正は長期的な対策と言える。

まず，ブミプトラ政策の教育への影響について説明する。戦後のマレーシアでは，独立当初に民族間でバラバラだった教育の国民的統合を図るために，例えば，教育言語はマレー語を中心とするなど，全体的に教育内容や制度を統一的に整備した。しかし，これはマレー人を優遇するためではなく，あくまでも国民全体を統合するための統合であった。ところが新経済政策の導入によりこの統一的整備と連動して教育面で様々な特権がマレー人に付与されることとなった。例えば，一部のマレー人はエリートを養成するための全寮制中学校への入学の権利を得ることができる。この全寮制中学校は，マレー人生徒一人当たりに対する国家予算が普通の学生の三倍であったり，奨学金制度が充実していたりする。また，自分の希望する大学に進学しやすい制度もある。さらに大学予科教育課程という，進学を希望する大学に付属されている課程への入学の権利も与えられる。加えて，各国立大学に民族別の割当制が設けられるためマレー人にとっては有利な定員枠が与えられる。この枠によってマレ

一人と非マレー人の国立大学入学の難易度の差は非常に大きい（鐘ヶ江 2002）。

次に雇用について，先述したように戦後のマレーシア独立当時は先住民であり国民の約 6 割を占めるマレー人の多くは農業に従事し、 商業などの経済活動は中華系の華人が取り仕切る傾向があった。その結果としてマレー人の平均所得は中華系の約半分だった。このような民族間の所得不均衡を均衡するために，ブミプトラ政策では様々な対策が考えられた。例えば，民族別雇用比率を全マレーシアの人口構成比に見合った割合に再編するというものや，商工業分野におけるブミプトラ企業の育成を図るために政府が代行して参入するといった対策が講じられた。また，マレー人が企業の設立や租税の軽減で優遇されるという策も出された。これらの策を実施した結果，マレー人の平均所得水準は 1970 年に中華系の約 44%だったのが 1990 年には約 60%まで上昇し，民族間での格差はなくなったとはいえないものの縮小はした。また，製造業におけるマレー人の就業比率は，1970 年に約 20%であったのが 1990 年には 55%と中華系の華人を上回るようになり，人口構成比に見合うという目標をほとんど達成した（小野沢 2012）。

以上のように，教育と雇用という面でブミプトラ政策を考えた際に，この政策によって 20 年間でマレー人の経済的地位は着実に向上したといえる。

ブミプトラ政策の今後の展望

1971 年に NEP が登場した後にもマレーシア政府は様々な政策を打ち出した。この章では，その過程の中で迎えた 2 つの大きな転換点についてみていく。

1 つ目の転換点は m1991 年のマハティール首相による「2020 年ビジョン」発表である。NEP の期限である 1990 年が近づくと，NEP の継続に関してブミプトラと非ブミプトラの間で意見が二分した。しかし，マレーシア政府は 2020 年までに先進国の仲間入りをする目標を掲げ，エスニシティに重点を置きすぎた開発アプローチを軌道修正することに決めた（小野沢 2012）。例えば，マレー人を一律に優先するのをやめ，ブミプトラ企業を選択的に支援するなど，政府はブミプトラ優遇政策を緩和した。この 2020 年ビジョン発表の背景には，景気の不振がある。マハティール首相は景気不振期に成長と効率重視を強調し，ブミプトラ政策に安住するブミプトラの態度を厳しく警告した（小野沢 2012）。また，ブミプトラの反発が容易に想像される中で 2020 年ビジョンへの転換に踏み切れたのは，前章で述べた NEP の「貧困の撲滅」と「社会構造の再編」を 2020 年ビジョンも継承していたことが大きい。政府は最終目標である先進国の仲間入りを目指す過程で，この 2 つの部分を実現することを強調した。つまり，ブミプトラ優遇政策を継承した政策という性格を前面に押し出したのだ（労働政策研究・研修機構　2013）。

2 つ目の転換点は 2010 年のナジブ首相による新経済モデル（NEM）の発表である。NEM とは 2020 年ビジョンを引き継ぎ，民族とかかわりのない包括的経済成長を目指したものである（小野沢 2012）。例えば，民族に関係なく所得下位 40%に焦点を当て支援していくべきだとした（小野沢 2012）。この背景には，マレーシア経済が安価な非熟練労働力への依存

から脱却できておらず，一層の変革を伴う新しい経済モデルの構築の必要性が認識されたことがある（自治体国際化協会 2018）。

1971 年からの約 50 年間で，政府は度々エスニックベースではない政策の実施を提言してきた一方で，マレー人優遇政策の継続を示唆している。例えば，2003 年にアブドラ新政権の下でブミプトラ政策へ逆戻りしたり（小野沢 2012），2013 年に政府がマレー人優遇政策を継続及び強化するとの方向性を示したりした（畝川 2016）。このようにマレーシア政府は様々な政策を打ち出したが，未だに国民の合意は得られていない。大きな転換点に注目してみてきたが，ブミプトラの優遇が廃止されることはなく，やはりマレーシア政策の軸はいつの時代も民族，特にマレー人であると言えるのではないだろうか。

おわりに

これまで見てきたように，マレーシアは様々な民族，文化，宗教を抱える国家としてブミプトラ政策という独自の政策を導入し，多民族の共生を目指している。現在日本には異文化をもつ人々も少なくなく，今後も増加することが予想される。政策において民族に重点を置きすぎないようにする姿勢は，日本でも大事になると思うが，マレーシアと日本では宗教や経済，民族が増えた背景など異なる点が非常に多いため，日本がブミプトラ政策を真似しても，まったく異なる問題に直面し，日本独自の政策の必要性が認識されると考える。ブミプトラ政策の今後や意義を考える上では，マレーシアの歴史，宗教，経済，政治体制など民族以外の様々な要素を考慮に入れるべきであり，さらなる調査と考察が必要である。

参考文献

一般財団法人自治体国際化協会, 2018, 「2020 年までの先進国入りを目指すマレーシア経済産業政策の歩み」『Clair Report』471（2024 年 7 月 7 日取得, https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/471.pdf）.

小野沢純，2012「ブミプトラ政策」『マレーシア研究』（1）（2024 年 7 月 7 日取得 http://jams92.org/pdf/MSJ01/msj01(002)_onozawa.pdf）.

外務省, 2024,「シンガポール基礎データ」，外務省ホームページ，（2024 年 1 月 22 日取得,https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/singapore/data.html#section1 ）.

鐘ヶ江弓子, 2002, 「マレーシアの教育政策と学校教育制度」『共栄大学研究論集　創刊号』（2024 年 1 月 23 日取得，https://core.ac.uk/download/pdf/228685541.pdf）.

国際協力銀行，2014, 「マレーシアの投資情報、概観」国際協力銀行ホームページ,（2024 年 1 月 22 日取得, https://www.jbic.go.jp/ja/information/investment/image/inv_Malaysia01.pdf）.

鳥居高編，2023,『マレーシアを知るための 58 章』明石書店.

金丸裕志，2015，「多民族国家における民族間協調と自由民主主義：マレーシアとシンガポールの比較」『和洋女子大学紀要』 No35: 25-35.

畝川憲之，2016「多民族国家マレーシアの国家建設――政府主導による国民統合の限界」『Journal of international studies』1(1) (2024 年 7 月 7 日取得，https://cir.nii.ac.jp/crid/1050001202557874176)．

Malaysia Business Connection，『ブミプトラ政策とは？経緯から 2022 年の現状まで』マレーシア ビジネス情報サイト「CONNECTION」

（2024 年 1 月 23 日取得，https://connection.com.my/malaysia_report/id=1416)．

宮本謙介，2007，「マレーシアの日系企業と労働市場、クアラルンプル首都圏の事例分析」北海道大学，（2024 年 1 月 22 日取得，https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/25164/1/ES57(1)33-46.pdf

労働政策研究・研修機構，2013，「マレーシアの労働政策――中長期経済政策と労働市場の実態」『JILPT 海外労働情報』

（2024 年 7 月 7 日取得，https://www.jil.go.jp/foreign/report/2013/pdf/2013_1114.pdf)．

日本とマレーシアの文化と歴史

Kyoka, Daiki, Meina, Yuka, Mai

初めに

本研修での目標の一つは，日本，中国，マレーシアから様々なバックグラウンドを持つ学生が集まり協力し共に学ぶ中で，チームワークとコミュニケーション能力を習得することである。この目標を達成するためには，自分と異なる複数の文化を理解することは必要不可欠であり，本稿は日本とマレーシアの 2 つの国の文化の違いを超えて，異文化理解の端緒を掴むことを目的としている。その目的を達成するため，我々は歴史，言語文化，祭り文化，食文化に焦点を当て，各観点において，日本とマレーシアでの背景の違いから異文化理解の手がかりを考察していく。

また本稿では，主に 4 つのゴールを見据えて文化の考察をする。1 つ目は文化を考察することを通して，自らの文化を客観的に見ることが可能になることである。2 つ目は広い視野と思考の柔軟性が得られることである。3 つ目は異文化への共感や尊重ができるようになることである。4 つ目は新たな視点やアイデアが生まれることである（金原 n.d. ，大和 2023，吉澤 n.d. ， Survival Anthropology 2020）。

歴史

本稿の主題である異文化の理解促進には，歴史の理解が大きく役立つ場合が多い。なぜならば，文化とは歴史上の人々の生活や商業，時には戦争や占領などの歴史的出来事によって複数の世代間にわたり形成されるものだからである。例えば今日のマレーシアが多民族国家と言われ，様々な文化が共存することとなったきっかけとして，マレーシアがそもそも海上交易で栄えた港市国家であった上に（岩井 2012），イギリスの占領時代にゴムのプランテーションのために中華系・インド系の労働者が多く流入したということがある（澤田ほか 2023）。本稿で比較する 2 カ国についての歴史を全てここで述べることは叶わないが，本研修をきっかけに，本稿で考察する文化の表層的な相違の背後に根付く歴史について学びを深め，考えていきたいものである。

言語文化

異文化間のコミュニケーションでは，言語体系や日常会話の表現の違いから違和感や不快感が生まれてしまうことがしばしばある（稗田 2016）。例えば，マレーシアと日本では言葉の使い方に違いがあり，その差異を客観的に理解することは，コミュニケーションにおける誤解をできるだけ予防し異文化交流を促進することにつながる。そのために本稿で言語文化を取り上げる。

コミュニケーションで誤解が起きるひとつの例としては，マレーシア人が相手に善意を

もって行った言語表現が，日本人にとっては失礼な表現とされるというようなことである。例えば，自分の誘いや提案を相手に断られたとき，マレーシア人は相手に断る理由を詳しく聞く傾向があるのに対して，日本人はそのようにあれこれ理由を聞かれることに不快感を持つ傾向がある（稗田 2016）。こうしたすれ違いの背景には，マレーシアではこの行動が相手の話に関心があるということを示すため好まれるのに対して，日本人は個人的な情報を話すことに抵抗を感じるという違いがある（稗田 2016）。よって，日本人は普段より相手の話を詳しく聞く態度を示すことによって，マレーシアの現地の方とより親密になれることが予想される。

マレーシアで日本人にとって違和感がある言語行動に直面した時，それを違和感で終わらせるのではなく，一つ一つ向き合ってその背景を考えることで相手の文化や習慣の理解につながる。さらにその文化に合わせた対応をするなどして，異文化交流はより有意義なものになり得る。

祭り文化

我々は研修参加にあたって，左手での握手は禁止など宗教上の規則に注意しなくてはならない。現地の人の宗教的価値観を尊重し受け入れるために，以下，日本とマレーシアの宗教観の違いを，宗教的行事である祭りの開催形態を通して再認識したい。

日本の祭りの特徴は，宗教的規則に基づかない参加者が多いことである。それは季節に基づいて開催する，個人の意思で参加を決める，地域単位で開催するという特徴に表れている。まずは，なぜそう言えるのかをマレーシアと比較しながら考えてみたい。日本では特に宗教的規則はないものの，日本三大祭りが 5 月や 7 月に開催されるなど大きな祭りは夏に多い。しかし，マレーシアでは季節に関係なく一年中大きな祭りが行われる。なぜならイスラム教，仏教，ヒンドゥー教などが各宗教で決められた日に，信者が国全体で祝うからだ。また，イスラム教のハリラヤ・プアサやヒンドゥー教のディパバリなど大規模な祭りでは家族で集まって祝うことが多い。これは同じ宗教を信仰する共同体の最小単位が家族であるためだと考えられる。一方日本では，基本的に各地の神社が開く祭りに地域の人が参加する。国で決められた祭日は第二次世界大戦後に廃止されており(カレン堂 2023)，国を挙げて開催する公的な祭りは存在しない。国家規模の決まりがないのと同様，参加義務もないため参加は個人の自由である。

このような祭り文化の違いの背景には，宗教観が関係しているのではないだろうか。では，日本における宗教観を形成するものは何であろうか。歴史的観点に着目しマレーシアと比較して考えてみよう。マレーシアは現在，イスラム教を国教とするものの，仏教徒やキリスト教徒，ヒンドゥー教徒も数多く存在する。これは中華系労働者とインド系労働者が流入したときに民族ごとに分業され，民族間に一定の距離があったために複数の宗教の共存が生じ，維持されたと考えられる。一方，日本では無宗教と答える人の数が 64%にのぼる（小林 2019）。しかし，多くの人が参加する日本の祭りは神道の祭事である。神道国際学会の

梅田（2009）によると，神道は教祖・教典・教団をもたない日本土着の宗教である。さらに，日本にはあらゆるものに神が宿る，八百万の神々という考え方があり，神道信仰と仏教信仰が「融合した信仰形態とその現象である」神仏習合も生じた（東海林 2013)。そのため，自分が無宗教であると回答する人であっても，キリスト教やイスラム教のように教典に基づき特定の神を崇拝するよりも神道的な考え，すなわち教典や教祖などに縛られずとも神を信じ，感謝できると考える傾向があるのではないだろうか。つまり，マレーシアは既存の宗教の共同体が一定の距離を保ちながら共存を始め，それを継続してきたため，各宗教が規則に則り祭りを開催するが，日本は土着の思想が柔軟だったために仏教のように流入してきた思想にも規則をつくることなく受け入れ，それが現代にも通じているのだと考えられる。

食文化

文化について知る際に，食文化は非常に重要な役割を果たす。なぜなら，「食」文化は全人類の生活に根付いており，他文化を理解する入り口になり得るからである。そのため，本稿の目的である自文化の客観的な理解や他文化への共感や尊重に役立つのではないかという思いから，ここでは食文化に注目する。

マレーシアの食文化の特徴としてまず挙げられるのは，食に多民族社会を反映した多様性があるということである。マレーシアには中華料理やマレー料理，インド料理など様々な食文化の影響を受けた料理が数多く存在し，多様な食文化を取り入れた食事の方法，手法がある。多様な食文化があるのと同時に，日本との相違点として「国民料理」の意識が乏しいという点を京都大学のレポート(今井 n.d.)が示している。つまり，マレーシア由来の有名な料理はあるものの，日本でいう寿司のようなその国を代表していると言えるような国民料理がないようである。

共通点として，アジア圏の国に多く見られるもので，米が主食であることや，中国の影響を受けて一部では箸が使われていることなどが挙げられる。さらに，食事マナーにおいても似たようなところがあり，年長者や位が高い人に対して座席や食べ初めのマナーが存在する。また前述したマレーシアの多民族性から生まれる料理の多様性は，日本の東日本，西日本の味付けや料理法の多様性，東北や四国などの地域料理の多様性とも類似している。

このようにマレーシアには様々な食文化の特徴があり，それらの特徴はマレーシアの文化の多様性によるものであるといえる。このような日本の食文化との共通点，相違点を通して分かることは，日本の食文化は中国や西洋の国々の影響を受けつつも，確立した日本の代表食と言えるような料理が形成されていることである。マレーシアとは異なり，日本でこのような代表食の確立したことの要因としては，マレーシアのような民族的多様性が比較的少ないことや，日本の多くの地域は植民地支配を受けたことがなく，他文化の流入が起きにくい環境にあったことが挙げられるのではないだろうか。このような比較を通して本研修ではマレーシアでの食事体系を実際に体験し，自文化への新たな食の発見やマレーシア文化の理解へと繋げていきたい。

まとめ

本稿ではマレーシアと日本の違いを歴史，言語文化，祭り文化，食文化という点で比較した。本稿で取り上げることのできた観点は少ないが，私たちは研修の中でさらに多くの文化の相違点に遭遇するだろう。その際に，ただ違いとして受け流すのではなく，本稿のようにその相違点が生まれた背景に注目することで，自文化の客観視や，他文化への共感や尊重，柔軟な発想や広い視野の獲得，そして新たなアイデアの創造に役立てることができると考える。

参考文献

今井明日美, n.d., 『マレーシアにおける「国民料理」の形成過程』, 京都大学, (2024 年 1 月 29 日取得, https://www.iasu.kyoto-u.ac.jp/wp-content/uploads/2015/01/35e0db83cabce0c498d876c0c843e942.pdf) .

岩井淳, 2012, 「『交易の時代』の港市国家マラッカ —空 間軸 と時間軸 か ら考える」静岡大学学術レポジトリ, 19-32, （2023 年 1 月 20 日取得, https://shizuoka.repo.nii.ac.jp/record/5196/files/6-0019.pdf ）.

梅田善美, 2009, 「神道とは」, 神道国際学会, (2024 年 2 月 14 日取得, https://www.shinto.org/wordjp/?page_id=2)

外務省, 2024, 「一般事情　4　民族」,マレーシア基礎データ,（2024 年 1 月 29 日取得, https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/malaysia/data.html）.

金原瑞人, n.d,「「文学」を通じた異文化体験で社会を考察—多彩な作品・人との関わりから自分と人間社会を探求」, HOSEI ONLINE(2024 年 2 月 14 日取得, https://yab.yomiuri.co.jp/adv/hosei/research/vol06.php)

カレン堂, 2023,「『祝日と祭日の違い」について調べてみた」, (取得日 2024 年 2 月 14 日, https://calendo365.com/blog/holiday/#:~:)

国土交通省, n.d.,「マレーシア」,（2024 年 1 月 29 日取得, https://www.mlit.go.jp/common/000116964.pdf）.

小林利行, 2019,『日本人の宗教的意識や行動はどう変わったか ISSP 国際比較調査 「宗教」・日本の結果から.』, *放送研究と調査* 69, 4-53.

澤田大吾・小河浩・呂本武典・田上敦士・金子春生・下田旭美・小川春樹, 2023, 「近現代史シリーズ マレーシア ——Recent Contemporary history Malaysia——」『広島商船高等専門学校紀要　第 45 号』広島商船高等専門学校, 27-41, (2023 年 1 月 20 日取得, www.jstage.jst.go.jp/article/hiroshimashosenkiyo/45/0/45_03/_pdf/-char/ja ）.

稗田奈津江, 2016,「日本語とマレーシア語における 「勧誘」の言語行動 —ディスコース・ポライトネス理論の枠組みに基づいて」（2024 年 2 月 14 日取

得, https://www.cocopb.com/download/2016_13_hieda.pdf ）
大和博, 2023,「異文化理解の必要性-海外とコミュニケーションする人へ-」, ビジネス英語の必要性, (2024 年 2 月 14 日取得,https://ushikubou.com/cross-culture)
吉澤（渡 ）小百合, n.d,「異文化の認識と理解」, 星薬科大学, (2024 年 2 月 14 日取得, https://stella.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=852&item_no=1&attribute_id=22&file_no=1)
Survival Anthropology, 2020,「文化人類学ってどんな学問?」, (2024 年 2 月 14 日取得, https://survivalanthropology.com/2020/11/16/aboutanthropology/)

日本と一橋における環境問題と対策

文責：Sota, Haruna, Koji, Marina, Taiyo

本研修では「持続可能な経済発展」をテーマに，UTM の学生と議論・発表を行う。本研修での学びを最大化するためには, 持続可能性を目標としている Sustainable Development Goals（SDGs）への基礎的な理解が不可欠である。また，私たちは日本の一橋大学の代表として参加するため，事前に私たち自身について知ることも重要である。そこで，本稿ではまず世界が注目する SDGs とはどのようなものなのかを概観し，日本と一橋大学の両方の観点から SDGs 達成に向けて取り組んでいることをそれぞれ掘り下げ，これから経済を担う私たちができることについて考察したい。

SDGs とは，2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指すために作られた，17 の国際目標のことである（国際連合　2015）。特に環境問題に関しては，近年地球温暖化により豪雨や干ばつなどの異常気象が続いていることから, SDGs の重要性はますます高まってきている。本稿では，このような状況を踏まえ，SDGs の 17 の目標のうち「7 : エネルギーをみんなに，そしてクリーンに」と「15 : 陸の豊かさも守ろう」に着目し，それに関連する省エネ政策と緑化について，日本と一橋大学がどのような取り組みを行っているかを述べていく。

日本の省エネの取り組み

日本は 1970 年代のオイルショック以降，省エネを推進してきた。省エネとは，エネルギーの消費効率を高めること，消費エネルギーの量を減らすことと定義されている。（朝日新聞デジタル　2023）。日本が省エネを重要視する理由は三つある。第一に，地球温暖化を防止することができる。省エネにより消費エネルギーを減らすことは即ち温室効果ガス排出の削減につながる。第二に，日本における温室効果ガス排出量の最も大きい割合を占めるのが発電部門である。資源エネルギー庁によると，2019 年における日本の二酸化炭素排出量約 11 億トンのうち, 最も割合の大きいエネルギー転換部門 4.3 億トンの 90%を占めるのが発電である（資源エネルギー庁　2020）。第三に，日本は電気を作る化石燃料の多くを輸入に依存している（朝日新聞デジタル　2023）。省エネで消費エネルギーを減らすことは，環境だけでなくエネルギー安全保障の観点からも望ましい。

実際に日本が省エネについて具体的に取り組んでいることとして，日本独自のトップランナー制度がある（資源エネルギー庁　2018）。気候変動に関して話し合われた Conference of the Parties 3（COP3）を受けて 1998 年に導入され，年平均 1%以上のエネルギー消費原単位の削減を目標としている。エネルギー消費原単位とは，ある一定の生産活動に対するエネルギーの使用量を表す単位である。トップランナー制度によって，日本は GDP 向上とエネルギー効率の改善の両立を達成し，世界でも高水準のエネルギー効率を実現するとい

う成果を残している。しかし，2013 年から 2030 年までに石油換算で 5030 万 kl のエネルギーを削減するという目標のうち，2018 年度時点の進捗率は 26.6%にとどまっている（資源エネルギー庁　2020)。2013 年度の数値から 2030 年度の目標値を直線で結んだ場合の進捗率である標準進捗率は，2018 年度においては 33.3%である。そのため，目標達成の状況は遅れていると言わざるを得ない。また，家庭部門のエネルギー消費は高止まりしており，かつ日本の温室効果ガス排出量は世界 5 位という高順位にとどまる。2050 年カーボンニュートラル宣言もある中で，日本はさらなる省エネを進めていく必要があると言える。

一橋大学の省エネの取り組み

それでは，私たちが通う一橋大学は省エネに関してどのような取り組みを行っているのだろうか。一橋大学は 2021 年に中長期的な観点からエネルギー対策と地球温暖化対策を推進していくことを宣言している（一橋大学　2021 年度省エネ計画)。数値目標として，エネルギーの使用に係る原単位を 2019 年度（基準年度）から毎年度平均で 3.5%以上を削減させることを目指している。

一橋大学の大規模な取り組みとして，省エネルギー化に資する建物及び設備の改修を計画的に進めている。インフラ長寿命化計画（個別施設計画）等に基づき，建物の大規模改修を実施する際には，老朽改善とあわせて消費電力の少ない LED 照明設備や，高効率空調設備の導入等を実施した（一橋大学　2021)。また小規模な取り組みとして次のようなことを行った。①太陽光発電の導入(2022 年 3 月までに国立キャンパス 5 棟と小平国際キャンパス 1 棟)，②エネルギー使用が増加する夏季と冬季に，施設課職員が空調設定温度の適正化や昼休みの消灯等をチェックする省エネパトロール，③大学 HP に毎週の電力使用量の予測及び実績の掲載を行っている。

2021 年度には，新型コロナウイルス感染拡大防止策を採用し，可能な限り多くの科目を対面授業となった。その結果，電気と都市ガスの使用量が増加した。具体的な数値として，2021 年度のエネルギー使用量（電気，都市ガスなどを熱量 GJ に換算したもの）は前年比で 9.6%増の 86,682GJ となり，原油換算では 2,236kL となった。ただし，2019 年度と比較すると 16.1%減少し（年率換算で 8.4%減)，これは 2019 年度（基準年度）から毎年 3.5%以上の削減を目指す目標を大きく上回る結果となった。まさに，SDGs の「7：エネルギーをみんなに,そしてクリーンに」を実行していると評価できる。今後も削減目標を達成し，SDGs の模範となるような環境に配慮した持続可能なキャンパスを実現させることを期待したい。

日本の緑化

日本では近年緑化を進める動きが活発化してきている。そもそも緑化とは，一定の場所に草や木を植えたり，木を生やしたりすることであり，緑化の目的は環境を改善して景観を美化することなどである。緑化には主に 3 つのメリットがある。1 つ目は都市気候の改善だ。

建物の屋根や壁に緑を取り入れることで屋内の温度を制御し，屋外の温度上昇を最小限に抑えることができる。国土交通省の調査によると，屋上緑化をしている場所としていない場所では最大で 17.8 度の気温差があるという（国土交通省　2008）。2 つ目の効果は建物の保護だ。建築物は紫外線や酸性雨にあたり，温度変化で起こる膨張・収縮によって劣化が進んでしまうが，緑化を行うことでこれらの原因を抑制し，建物の保護をすることができるのだ。3 つ目の効果は都市の快適性が向上することである。ビルが多い都市部でも，緑豊かな場所で自然を感じることでリフレッシュでき，

快適な気持ちになれる。

日本には様々な緑化を推進するための制度がある。その例として SEGES（社会環境貢献緑地評価システム）がある。これは企業によって創設された良好な緑地と活動への取り組みを評価し，社会環境に貢献している緑地を認定する制度である。この制度はステークホルダーからの信頼を向上させる手段となり，企業が緑地を推進して緑化が進むといった効果が得られる（SEGES　2023）。また，緑地協定制度という制度も存在し，これは土地所有者等の合意によって緑地の保全や緑化に関する協定を締結する制度である（国土交通省　2008）。この制度の効果としては，街の景観が向上するといった効果がある。これらの政策が効果を発揮し，日本全国の都市緑地の面積は徐々に増加しており，日本のすべての都道府県で都市緑地の面積が増加している。例えば，東京都の都市緑地の面積は，1975 年にはわずか 120ha であったが，2020 年には 1,220ha に達し，約 10 倍に増加した（GRAPH TO CHART　2021）。

一橋大学の緑化

一橋大学は東京都国立市に位置している。国立市緑の基本計画によれば，一橋大学の緑地面積は国立市全体の緑地の 10.8%を占めている（国立市　2018）。緑地面積をみても，一橋大学は緑にあふれた大学であり，日本が注力する都市部での緑化に重要な役割を果たすと言える。学内の緑化への取り組みは，一橋大学植樹会が中心となっている。一橋植樹会とは，一橋大学の緑化推進，環境保全を目的として，卒業生，学生，教職員が一体となって 1973 年に発足した組織で，ボランティアで週に一回伐採や清掃活動を行っている。ここでは，一橋大学の緑化の具体的な取り組みについて，成果を上げた二つの要因を述べる。

一つ目はボランティアによる支援である。伐採や清掃活動などは植樹会のコアメンバーである，定年退職を迎えた 20 人の卒業生を中心として，募集されたボランティアにより行われている。これにより植樹会は必要な人件費を最低限に押さえることができ，半世紀に渡って美しいキャンパスの構築に大きく貢献している。

二つ目は合理化された管理計画である。植樹会は戦略的な活動を推し進めるために，2004 年「一橋大学国立キャンパス緑地管理計画」を策定した（一橋植樹会　2015）。一橋大学国立キャンパスは緑化の管理体制が整っていなかったため，弱った木々が増えていた。そのため管理目標と植物群層の構成に焦点を当ててキャンパス内の緑を分類し，それぞれの緑地に対して持続可能な管理計画をたてた。ここで管理目標とは，その緑地に期待する効果の達

成であり，例えば図書館前の中庭ゾーンはキャンパス内で最も人々が利用する場所であることから，修景効果を高めることとなっている。管理目標と植物群層に基づいた緑の分類は，ゾーニングマップとしてまとめられており一目で現状が把握できるようになっている。 そして，分類された緑地ごとに作成した管理計画は植樹会を中心に実行に移され，定期的に計画の達成度を加味した見直しがなされている。これによって持続的な管理体制の構築が可能になっている。

このように，一橋大学では植樹会を中心として約 50 年にわたって緑化に取り組み，四季折々の自然豊かなキャンパスを享受できる環境が整備されてきた。彼らの活動により，東京の都市空間の中でも自然を残すことで，SDGs の「15：陸の豊かさを守ろう」を実践していると言える。

結論

以上から，日本と一橋大学は共に SDGs に貢献するような環境対策を行い，一定の成果を上げてきたが，家庭部門のエネルギー消費が高止まりしているなど，依然課題が残っていることがわかった。本研修では，これまで日本と一橋大学で行われてきた取り組みを踏まえ，文化背景の違うマレーシアの学生たちとアイデアを共有し，新たな発見と刺激を得ながら持続可能な経済開発の可能性について議論していきたい。そして，本研修が未来を担う私たちにとって，日々の行動から将来のキャリアまでを捉え直す絶好の機会になることを願っている。

参考文献

国際連合，2015，「17 のゴール」（2024 年 1 月 20 日取得，https://sdgs.un.org/goals）

資源エネルギー庁，2020，「令和 2 年度エネルギーに関する年次報告」（エネルギー白書 2021）HTML 版」（2024 年 1 月 9 日取得，https://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/2021/html/1-2-3.html）

朝日新聞デジタル，2023，「省エネとは？　重要性や取り組み事例，企業・個人ができることを解説」（2024 年 1 月 9 日取得，https://www.asahi.com/sdgs/article/15069559）

資源エネルギー庁，2018，「省エネ大国・ニッポン ～省エネ政策はなぜ始まった？そして，今求められている取り組みとは？～」（2024 年 1 月 9 日取得，https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/tokushu/ondankashoene/shoenetaikoku.html）

資源エネルギー庁，「事業者クラス分け評価制度」（2024 年 1 月 14 日取得，https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/enterprise/overview/institution/）

資源エネルギー庁，2020，「日本における省エネルギー政策の動向について」（2024 年 1 月 14 日取得，202012172029506326.pdf）

資源エネルギー庁，2023，「エネルギーの使用の合理化等に関する法律に基づくベンチマーク指標の実績について」（2024 年 1 月 14 日取得，https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/benchmark/pdf/benchmark_2022.pdf）
一橋大学，2021，「環境報告書 2021」（2024 年 1 月 9 日取得，https://www.hit-u.ac.jp/guide/information/pdf/R3/environmentreport2021.pdf）
一橋大学，2021，「一橋大学インフラ長寿命化計画（個別施設計画）」（2024 年 1 月 9 日取得，https://www.hit-u.ac.jp/guide/information/pdf/infra_kobetsushisetu.pdf）
国土交通省，2003，「みどりの政策の現状と課題」（2024 年 1 月 9 日取得，https://www.mlit.go.jp/singikai/infra/city_history/city_planning/park_green/h18_1/images/shiryou06.pdf）
SEGES，2023，「都市緑化機構，SEGES とは概要」（2024 年 1 月 9 日取得，https://seges.jp/outline.html）
国土交通省，2008，「霞が関官庁街における建物の緑化の現状について」（2024 年 1 月 9 日取得，https://www.mlit.go.jp/common/000022567.pdf）
国道交通省，2008，「公園とみどり：緑地協定制度」（2024 年 1 月 9 日取得，https://www.mlit.go.jp/toshi/park/toshi_parkgreen_tk_000067.html）
GRAPH TO CHART，2021，「グラフで見る東京都の都市緑地面積は広い？狭い？（推移グラフと比較）」（2023 年 1 月 9 日取得，https://graphtochart.com/japan/tokyo-area-of-city-green-zone.php）
国立市，2022，「緑の基本計画」（2024 年 1 月 2 日取得，https://www.city.kunitachi.tokyo.jp/material/files/group/47/GAIYO.pdf）
国立市，2018，「7 つのテーマによるまちづくり」（2024 年 12 月 30 日取得，https://www.city.kunitachi.tokyo.jp/material/files/group/51/47270188.pdf）
一橋大学緑樹会，2015，「緑地基本計画レビュー」（2023 年 12 月 30 日取得，https://hitotsubashi-shokujukai.jp/wp-content/uploads/2022/11/ryokuchi_2016.pdf）

UTM の基本情報

文責：Meina

マレーシア工科大学は，マレーシアで最も古い歴史のある理系の国立大学であり(科学技術振興機構 2024)略称は UTM である。正式な設立は 1975 年だ(科学技術振興機構 2024)。学部課程では，5 つの学部にまたがるプログラムが提供されており，理系の学部以外にも人文科学や社会科学など文系色の強い学部も存在する(科学技術振興機構 2024)。学生数は学部生が約 25,000 人，大学院生が約 3,500 人である(Universiti Teknologi Malaysia 2023)。一橋大学の学生数が学部生 4,335 人，大学院生が 1,838 人(一橋大学 2023)であることと比べると非常に多いと言えよう。

マレーシア工科大学は，2024 Quacquarelli Symonds World University Rankings の分野別ランキングにおいて，建築及び建築環境の分野でマレーシア国内第 1 位の大学である(Universiti Teknologi Malaysia 2024)。2024 Quacquarelli Symonds World University Rankings の総合ランキングでも世界 188 位，アジア地域で 37 位(Universiti Teknologi Malaysia 2024)と高い順位にある。このことから，マレーシア工科大学は，マレーシア国内においてのみならず世界やアジアの中でもトップレベルの大学であると言える。日本語の教育にも熱心であり，日本語を話すことのできる学生も多くいるため，日本企業からも人気がある(ASIA to JAPAN 2021)。さらに，クアラルンプール・キャンパス内にはマレーシア日本国際工科院やパナソニックの研究所も設置されている。マレーシア日本国際工科院では多くの日本人教員が教鞭をとるなど(科学技術振興機構 2024)，学術的にも日本との交流が盛んである。実際バディの中にも，日本語を話したり聞き取って理解したりすることのできる学生が存在したため驚いた。

UTM にはクアラルンプールとジョホールバルにキャンパスを持つ。メインキャンパスは，シンガポールに近接したジョホールバルに位置している。ジョホールバルはマレー半島の南端にある。ジョホールバルとシンガポールはコーズウェイ橋という全長約 1 キロメートルの橋で繋がれており，陸路で国境を越えることができる(Tropia 2023)。

マレーシア工科大学の大きな特徴の一つは，そのキャンパスの広さである。メインキャンパスの面積は 11,480,000 平方メートル(科学技術振興機構 2024)と，東京ドーム約 245 個分の広さである。私たち研修生が滞在していた際も，移動は基本的に車であった。大学側が用意した学生のためのタクシーサービスが提供されており，キャンパスの外で夕食を食べる際はそのタクシーを利用することが多かった。キャンパス内にはグラウンドや図書館はもちろん，立派なモスクや大きなカフェテリア，ナイトマーケットを開催しているイベントスペースなどもあり，私たちの通う一橋大学とは大きく異なっていた。スカラー・インという学生寮もキャンパス内にあり，私たち研修生はそこに滞在した。広いキャンパスで過ごすことは，非常に新鮮な経験であった。広々としたキャンパスで多くの人と交流した UTM での日々は，私にとって大切なマレーシアでの思い出である。

参考文献

ASIA to JAPAN, 2021,「マレーシア工科大学」, ASIA to JAPAN, (2024 年 4 月 24 日取得, https://asiatojapan.com/post/introduction-utm/).

科学技術振興機構, 2024,「マレーシア工科大学」,Science Portal Asia Pacific, (2024 年 4 月 24 日取得, https://spap.jst.go.jp/resource/university/2050035.html).

Toripa, 2023,「ガイドブックの情報だけじゃない！マレーシア「ジョホールバル」の魅力」, Toripa, (2024 年 4 月 24 日取得, https://www.nta.co.jp/media/tripa/articles/I1lUy).

一橋大学, 2023,「教員数・学生数」, (2024 年 4 月 24 日取得, https://www.hit-u.ac.jp/guide/data/pdf/data_g_1.pdf).

Universiti Teknologi Malaysia, 2023, “Facts and Figures,” Universiti Teknologi Malaysia, (Retrieved April 24,2024, https://www.utm.my/about/facts-and-figures/).

Universiti Teknologi Malaysia, 2024, “University Ranking,” Universiti Teknologi Malaysia, (Retrieved April 24,2024, https://www.utm.my/about/achievements/).

プログラム日程

文責：Meina

日付	時間 （現地時間）	予定
第 1 週：クアラルンプール，マラッカ		
2024/2/18(日)	19:00 22:00	クアラルンプール国際空港（KLIA）に到着 UTM のバディが空港でお出迎え クアラルンプールのホテルにチェックイン
19(月)	10:00 12:30 14:00	ツアー：環境に配慮したモスクの見学 昼食 味の素マレーシア工場への訪問
20(火)	10:00 12:15 14:00 16:00 17:00	ツアー：UTM クアラルンプールキャンパス及びマレーシア日本国際工科院を訪問し，パナソニックの研究所を訪問 昼食 アイスブレイク，挨拶とグループ分けとディスカッション ホテルに戻る ツアー：クアラルンプール中心街を散策
21(水)	9:30 10:15 11:45 13:30 14:00	厦門大学（あもいだいがく）を訪問 厦門大学の紹介と持続可能な社会に関する講義 昼食 厦門大学を出発 自由行動（@クアラルンプール）
22(木)	11:30 14:00 17:30	ホテルチェックアウト マラッカに向けて出発 昼食 マラッカのホテルに到着，チェックイン 休憩 ツアー：マラッカの街を散策

23(金)		自由行動 @マラッカ
24(土)	12:00 16:00	チェックアウト UTM に向けて出発 昼食 スカラー・イン（UTM の学生寮）にチェックイン
第 2 週：UTM（ジョホール）		
25(日)	9:00 11:00 12:30 14:00 15:00 15:50	本研修における発表内容等の説明とミニゲーム 昼食 ツアー：UTM グリーンキャンパスツアー アクアポニック（循環システム）の見学 U T M 内のモスクを見学 チャンセラー・ビルディング（理事長のいる建物）の見学 スカラー・インに帰寮
26(月)	9:30 12:00 16:30	マレーシア文化村を訪問 ツアー：ジョホール・バルの街を散策 スカラー・インに帰寮
27(火)	9:00 11:00 11:15 13:15 15:15 17:15	講義：脱炭素社会の概要と SDGs の説明（Dr.Ken） 休憩 講義：学術的な発表及び文章の書き方に関する講義（Prof. Lee） 昼食 チームごとに，それぞれの最終発表に向けた議論 スカラー・インに帰寮
28(水)	9:00 11:00 11:15 13:15 15:15	講義：脱炭素社会の発展ついて（Prof. Ho） 休憩 講義：持続可能な消費活動及び製品について（Dr. Ong） 昼食 チームごとに，それぞれの最終発表に向けた議論

	17:15	スカラー・インに帰寮
29(木)	9:00	チームごとに，それぞれの最終発表に向けた議論
	10:30	UTM を出発
	11:30	ツアー：環境に配慮した建築物を見学
	12:30	ツアー：フォレスト・シティー（環境に配慮した観光及び居住のための施設）を見学
		昼食
	15:00	コタ・イスカンダル（ジョホール州の新州政府機関）を見学
	18:00	夕食（@エコ・ガレリア）
	20:00	スカラー・インに帰寮
3/1(金)	10:00	バスでククップに向けて出発
		ククップに到着
	13:15	宿泊施設にチェックイン
	14:30	チーム対抗ゲーム
	16:00	休憩
	18:00	夕食
	20:00	カルチャー・ナイト
2(土)	11:00	ククップの宿泊施設をチェックアウト
		スカラー・インに帰寮
3(日)		自由行動
第 3 週：UTM（ジョホール）		
4(月)	9:00	講義：若者による環境保護活動を促進するにはどうするべきか
	11:15	休憩
	11:30	チームごとに，それぞれの最終発表に向けた議論
	13:30	昼食
	15:30	チームごとに，それぞれの最終発表に向けた議論
	17:30	スカラー・インに帰寮
5(火)	10:00	チームごとに，それぞれの最終発表に向けた議論
	12:00	昼食

	14:00 16:00	チームごとに，それぞれの最終発表に向けた議論 スカラー・インに帰寮
6(水)	10:00 12:00 14:00 16:00	チームごとに，それぞれの最終発表に向けた議論 昼食 チームごとに，それぞれの最終発表に向けた議論 スカラー・インに帰寮
7(木)	9:00 12:00 13:30 18:30 21:30	チームごとに，それぞれのテーマについて最終発表 結果発表と閉会式及び表彰 昼食 送別会とプレゼント交換 スカラー・インに帰寮
8(金)		自由行動
9(土)	10:00 12:00 19:00 22:25	スカラー・インをチェックアウト，シンガポールへ出発 シンガポールで観光 チャンギ空港に到着 日本に向けて出発

クアラルンプール

文責：Kyoka, Sota

1 日目

Green Mosque

マレーシア最初のプログラムはグリーンモスク Raja Haji モスクの見学だった。イスラム教徒が国民の 6 割を占める（外務省 2024）マレーシアではモスクは一般的なもので，この後の研修でも度々目にすることになるのだが，日本でモスクに訪れた経験が少ない参加者にとってはグリーンビルディングとモスクという二重に新しい経験であった。そもそもグリーンモスクとは「建物の人や環境への影響を最大限に抑えながら，資源の効率的な利用に注目した」建物（Greenbuildingindex Sdn Bhd 2022）で，私たちが研修で訪れたモスクや味の素の工場は「Green Building Index」という規格によって認定されていた。Raja Haji モスクは空調ではなく，その日除の構造によって建物内を快適な温度に保っていたり，モスク全体で水を濾過して再利用したりと電気や水の消費を抑えるための構造になっていた。訪れた当初は，普通のモスクを知らなかったため特に他のモスクとの違いを感じることができなかったが，他のモスクを訪れた後に考えてみると確かにファンがないのに建物全体が涼しかったり，館内の電気が LED で人感センサーによって管理されていたりと伝統的な建築を残しながらも最新鋭の設備であったと感じる。

グリーンモスク，直接日が当たらず涼しい設計になっている。

Ajinomoto Industrial Visit

Ajinomoto とはみなさんご存知のあの「味の素」である。なぜマレーシアまで行って日本企業の工場を見学しているのかと思われるかも知れないが，Ajinomoto Malaysia は 1961 年にマレーシアに誕生して以来，日本の味の素とはやや違った歴史を歩んできた。Ajinomoto Malaysia が販売する商品はナシゴレンの素やブラックペッパーソースの素などマレーシア料理のバリエーションが豊富なだけでなく，なんと全てハラル認証（イスラム教

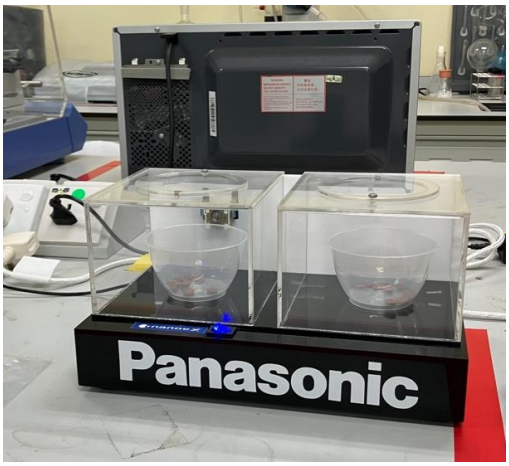
のルールに則って加工された食品や製品に与えられる認証，イスラム教徒はこの認証を受けた食品しか口にしない）を取得しているのである。Ajinomoto Malaysia はその製品をイスラム教の文化圏である中東に輸出するなど，日本の味の素とはまた違ったビジネスを行っている。私たちはこのような Ajinomoto Malaysia の歴史を学びつつ，後半は実際に Ajinomoto Malaysia の調味料を使ってナシゴレンと野菜炒めの調理実演・試食を行なった。余談だが，これらの調味料はスーパーで簡単に手に入り，嵩張らず，簡単にマレーシアの味を日本に持ち帰ることができるので大変オススメのお土産である。

2 日目

MJIIT の見学

2 日目の午前は，UTM のクアラルンプールキャンパスに位置する MJIIT（Malaysia-Japan International Institute of Technology）を訪問した。MJIIT はマレーシアにおいて日本式の理系教育を行う学術機関である。マレーシア・日本の両政府主導のもと，日本から JICA や大学コンソーシアムの技術援助を行い開校した（外務省 2011）。校舎内に日本の文化を学ぶための部屋があるだけでなく，日本の企業での研修もプログラムに組み込まれているとのことだった。中でも見学の目玉は，一橋大学の OB でパナソニックのマレーシア支社で Managing Director を務める杉原尚さんの講演と，同社が MJIIT と共同して研究を進めるラボの見学だった。杉原さんの言葉は今後海外のキャリアに興味がある学生にとって刺激的であり，ラボも文系の学生ではなかなか見学する機会がないため，全体を通して新鮮な見学となった。また，前日の味の素の見学や MJIIT の見学で日本の技術や商品が，マレーシアで認められている様子を目の当たりにするのは日本人として誇らしかった。

MJIIT の校舎



マイナスイオンの共同研究

Free Trail：マレーシアインド料理に挑戦

2 日目の午後は観光名所として有名なムルデカスクエアを散策した後，ママレストランで

夕食をとった。マレーシアと中華のミックスを「ニョニャ」というのに対して，マレーシアとインド文化のミックスを「ママ」という。マレーシアでのママ料理は安価でファストフードに近い店が多く，バディのような学生たちの溜まり場としても人気なのだという。頼んだコーヒーが全て甘く，逆に料理が全て辛い（これは店側のミス）というマレーシアの食文化の洗礼を受けて戸惑った日本人参加者も多かったが，筆者は薄くてピラミッド型の roti tissue にハマってしまった。ちなみにマレーシアでは何も言わなくてもコーヒー・紅茶・ミルクティに砂糖が入っており日本人メンバーを度々戸惑わせていたが，後半はバディがあらかじめ甘くない飲み物を頼むなど対処してくれた。マレーシアの肥満率が日本の 2 倍以上の 17.7%（Global Obesity Federation n.d.）なのも納得である…。

食後は夜市を訪れ，みんなでドリアンに挑戦した。マレーシアを訪れる前からホテルや寮にドリアンを持ち込むと罰金を支払わなければならないと聞いており，どんな食材か興味があった。最初は屋台の人に 7 人程度でドリアン丸々一つを薦められたが，それを断って 4 分の 1 サイズを 7 人で分けたことは今でも英断だったと思っている。人によって苦手な人ととても苦手な人に分かれるので味はぜひ読者自身で味わっていただきたいが，まずは小さなサイズから始めることをお勧めする。ドリアンはこの後の研修でも度々見かけるほどマレーシアではポピュラーなフルーツだが，慣れていないと受け入れ難いという点で，外国人が納豆を食べるとこのような気持ちになるのだなと実感した。

roti tissue

一生忘れられない味のドリアン

別のグループは，クアラルンプールの中心地にあるショッピングモール，パビリオンに向かった。日本で言う銀座のような高級ブランドが多数並んでいる場所で，学生である私たちはウィンドゥショッピングしかできなかった。ちょうど Chinese New Year の時期であったため，辰年にあやかってドラゴンの巨大模型が展示されていた。国教がイスラム教であるにも関わらず，盛大に中国の祭典を祝っていたことは，マレーシアが多民族国家であることを再認識する出来事であった。

ドラゴンに食べられる筆者

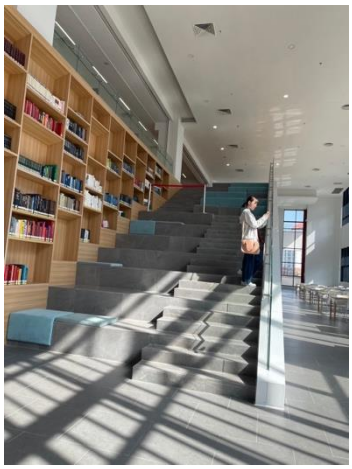
3 日目

Xiamen University Malaysia 訪問＆KL タワー

厦門大学マレーシア校（Xiamen University Malaysia）を訪れた。バスから降りた瞬間，キャンパスのスケールの大きさに一堂驚愕していた。同校の敷地面積は 1,400,000 平方メートルであり，これは一橋大学国立キャンパスの敷地面積の 288,214 平方メートルの約 5 倍である（Xiamen University　2019）。

記念撮影をした後，図書館を視察した。10 年前に建てられたため，図書館のデザインは現代的で洗練されており，勉強に集中できるような環境であった。厦門大学は総合大学であるため，経済学や法学だけでなく，物理学や天文学などあらゆる学問分野の書籍が所蔵されていた。厦門大学マレーシア校は 2016 年時点で，28 カ国の国と地域からの約 5,020 人の学生が在籍するインターナショナルな大学であるため，教授言語を英語としており，所蔵している書籍も英語で書かれていた。

キャンパス入り口での記念撮影



図書館

最後には,厦門大学の先生から厦門大学の紹介と sustainability に関する講義を受けた。現在 sustainability を評価するツールとして，Life Cycle Assessment（LCA），Life Cycle Costing（LCC），Social Life Cycle Assessment（SLCA）が存在しておりそれぞれ環境，経済，社会という異なる観点から評価を行っているとのことだった。その教授はそれらのツールを統合し，網羅的な評価ツールを完成させる研究をしていることを学んだ。

訪問後は，クアラルンプールを散策するフリータイムであった。Batu cave に行く予定だったが，途中でゲリラ豪雨が降ってしまい，1 時間以上の雨宿りを強いられた。そのため予定を変更し，KL タワーに向かった。KL タワーは，通信塔としては世界第 4 位の高さ（421m）で，クアラルンプールの象徴的な存在である。日本でいう東京スカイツリーのようなものだ。チケットはクレジットカードを使って窓口で簡単に買うことができた。あいにく展望台に登っても雨が降り続いていたので，クアラルンプールの景色を堪能することはできなかった。しかし，地上へ戻ると快晴になっており，バディと一緒に美しい写真を撮ることができた。地上にある広場は高台になっていて見晴らしが良いため，世界で 2 番目に高いオフィスビルである Merdeka118 を背景に写真を撮るのもおすすめである。

KL タワーと参加者の写真

4 日目

Batu Cave

午前中が自由行動であったため，昨日断念していた Batu Cave をリベンジした。Batu Cave はマレーシア国内で最も有名なヒンドゥー教の聖地で，19 世紀にヒンドゥー教寺院として建設された。先に述べたようにマレーシアの国教はイスラム教であるが，ここでも他の宗教を信仰する自由が認められていることを肌で感じた。この洞窟は 200 段以上の階段を登るのだが，至るところで猿が観光客の食べ物を狙っているため，猿を威嚇しないように目を合わせずに洞窟に向かった。洞窟の中は薄暗く，伝統的な建築物があったので，当時これがどのように建設されたのかに思いを馳せた。

Batu Cave

ヘナタトゥー

一方で，地上の敷地内にはお土産屋さんが多くあり，中でもヘナタトゥーと呼ばれるインドの伝統アートが参加者に人気であった。その後，ホテル近くで昼食を食べ，バスに揺られて次の目的地であるマラッカに向かった。

参考文献

外務省, 2024, 「マレーシア基礎データ」, （2024 年 4 月 11 日取得, https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/malaysia/data.html）.

外務省, 2011, 「マレーシア日本国際工科院（MJIIT）の開校」,（2024 年 4 月 11 日取得，https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/23/9/0906_06.html）.

Greenbuildingindex Sdn Bhd, 2022,“WHAT AND WHY GREEN BUILDINGS?”, （2024 年 4 月 11 日取得，https://www.greenbuildingindex.org/what-and-why-green-buildings/）.

Global Obesity Federation, n.d., “Ranking (% obesity by country)” Global Obesity Observatory, （2024 年 4 月 11 日取得, https://data.worldobesity.org/rankings/?age=a&sex=m）.

Xiamen University (Updated on 4 November 2019), Information on Xiamen University Malaysia,(2024 年 4 月 11 日取得, https://ice.xmu.edu.cn/en/info/1118/1151.htm#:~:text=XMUM%20welcomed%20its%20pioneer%20batch,%2C%20Kazakhstan%2C%20Turkmenistan%20and%20Uzbekistan)

マラッカ視察

文責：Yuka

マラッカについて

マラッカはクアラルンプールから車で 2 時間ほどの距離に位置する，2008 年に世界遺産として登録された街である(マレーシア政府観光局 2024)。東西交易の要所であるマラッカ海峡に面しており，複数の国に植民地支配をされた過去を持つ。そのため歴史的に重要な場所で，様々な種類の博物館や歴史的建造物が密集していた。

1 日目

クアラルンプールからバスで高層ビルの無い街に到着。ホテルはモスクの隣だったため，時折お祈りの声が聞こえた。オランダ広場には trishaw という人力車が数多く走っていた。ただし日本の人力車とは全く異なり，派手で，音楽を流しながら走っていた。まるで，いかに目立つかということだけを考えているかのような見た目であった。

図 1　Jonker street 2024 年 2 月 22 日　筆者撮影

その夜はジョンカーストリートを散策した。ジョンカーストリートはチャイナタウンであるため，いたるところに赤い提灯や龍の門などのチャイニーズニューイヤーのための装飾が施されていた。散策の途中で「マレーと中華が融合した『ニョニャ料理』」(JTB マレーシア支店 2020)を夕食に選び，夕食と一緒に名物料理のチェンドルも食べた。チェンドルはかき氷と緑色の短い麺が入っているスイーツである。緑色の麺にはパンダンの葉が使われており，食べるとパンダンの独特な風味がした。班員の中でも好き嫌いの分かれる味であった。

図 2. チェンドル Peranakan Place メニュー 2024 年 2 月 22 日　筆者撮影

店を出て，通りを歩くとチャイニーズニューイヤーのイベントの最中で，ライオンダンス(日本でいう獅子舞のようなもの)が見られた。ライオンの中で踊っていたのは小学生高学年ぐらいの男の子たちで，自分も小学生のときに地元のお祭りで和太鼓を叩いていたことを思い出し，次世代に伝統行事を伝えるためにすることは日本もマレーシアも同じなのだと思った。その後イベントの出し物をずっと見ていたかったが，人が多かったため早めにホテルへ戻った。

2 日目

2 日目の朝はジョンカーストリートにある中華系のカフェで朝食をとった。中華系マレー

シア人は朝にトーストを食べることが多いとバディに教わり，トーストを注文した。
日本と異なる点は，温泉卵をかき混ぜ醤油を加えたものにトーストをつけて食べるところである。ココナッツのジャムであるカヤジャムを塗ったトーストとしょっぱい卵が互いの味を引き立たせていた。

図 3 マラッカ海峡モスク　2024 年 2 月 23 日 筆者撮影

その後カフェからマラッカ海峡モスクに向かったが，モスクに入る際，宗教の決まりで女性は 5 リンギットでレンタル衣装を着る必要があった。長袖で暑かったが海風のおかげで，他に行ったモスクよりも涼しく感じた。モスクには本や机のあるキッズスペースがあり，モスクが日常生活で訪れる場所の一部であることが伺えた。

モスクを後にし，セントポール教会跡，海洋博物館と独立宣言記念館を見学した。マラッカはホテルから徒歩圏内に様々な博物館や歴史的建造物があり，全て歩いて回ることができた。教会跡は屋根がないものの，たくさんの墓石が残っており，多くの犠牲を出して争うほど交易に重要な土地であったことを再認識させられた。海洋博物館は外観が船の形をしている，子どもにも人気の観光スポットであった。マラッカ王国時代，ポルトガルやオランダに占領されていた時代などを海洋交易の観点を中心に学ぶことができた。筆者が最も驚いたのは，15 世紀～16 世紀初頭，84 言語がマラッカの港で話されていたことである。84 言語全てとは言わずとも，複数言語を使う商人が集まっていたと思うと衝撃的であった。そして同時に，マレーシア人が今も複数の言語を使いこなしていることにも繋がるのだろうかと考えた。

図 4　セントポール教会跡　2024 年 2 月 23 日　筆者撮影

次に向かった独立宣言記念館では,マラッカ王国建国から現在に至るまでの歴史を政治面から解説した展示がなされていた。その中には，日本軍の占領に関する部屋もあり，マレーシアにいる日本軍の写真や，日本の支配に対するイギリスの主張を書いた新聞などを見られて興味深かった。特に印象に残った経験は，当時発行された紙幣を見て，日本による支配の歴史があったことを生々しく感じたことである。日本がマレーシアを支配していたといっても，教科書では制度や人名に着目されるためあまり実感が湧かなかった。しかし，紙幣という生活に不可欠で，支配勢力を象徴する物を目にして日本がマレーシアを支配していた過去を再認識したのだ。

夕食には肉まん，小籠包といった中華料理を食べた。今回食べた肉まんは日本と違い，図 5 のように紙をはがしたときに紙に丸く皮が付かなかった。夕食を終え，ホテルに戻る前に

ジョンカーストリートのマッサージ店で一日中歩き回った足の疲れをとった。30 分の足用コースで 28 リンギット(約 950 円)と日本よりも安く受けられた。ただし施術者は客が来るまで店におらず，ラフな私服で現れたことは日本と大きく異なる点である。しかしマッサージ後は足が軽く，すっきりした感覚であった。

図 5　小肉包(肉まん) 2024 年 2 月 23 日　筆者撮影

まとめ

マラッカでは観光がメインの活動となり，班員と過ごす時間が長かったため，バディだけでなく一橋大学の参加者とも仲を深められた。博物館では，受験勉強で得た歴史の知識を共有したり，貿易面から解説した解説文を見て，そこには書かれていない政治的な側面から歴史を考察して話し合ったりと，受験の際に歴史をしっかり勉強してきた一橋大学の仲間と行くからこその経験ができた。マレーシアの歴史だけでなく，仲間のものの見方や考え方に触れた有意義な視察であった。

参考文献

JTB，2020，「マレーシア・伝統のニョニャ料理🔍について」(2024 年 4 月 1 日取得)，https://www.jtb.co.jp/kaigai_guide/report/MY/2018/08/nonya-cuisine.html

マレーシア政府観光，2024，「マレーシア基本情報/エリア情報」（2024 年 4 月 1 日取得，https://www.tourismmalaysia.or.jp/area/melaka_01.html

Johor での体験

文責：Koji, Mai

ジョホール基本情報

ジョホール （Johor）は，マレーシアの南端に位置する州である。マレーシアは東南アジアにあり，北はタイと，南はシンガポールと国境を接している。ジョホールは，その地理的位置からシンガポールとの経済的，文化的なつながりが非常に強い地域である。ジョホールの州都はジョホール・バル（Johor Bahru）で，シンガポールのすぐ隣に位置している。この都市は，ビジネス，ショッピング，観光のハブとして発展しており，シンガポールからの訪問者にとても人気の場所となっている。ジョホールは，美しい自然景観も有名で，特に東海岸にあるビーチや熱帯雨林が観光地として魅力的である。また，ジョホールは，伝統的なマレーシア文化と現代的なライフスタイルが融合しているのも特徴となっている。教育面では，ジョホールには多数の高等教育機関があり，国内外から多くの学生が集まっており，UTM のメインキャンパスもジョホールにある。

マレーシア地図

キャンパスツアー（Johor1 日目）

私たちがジョホールに到着した翌日，UTM のキャンパスツアーがあった。そのときに訪れた大学構内の複数の施設のうち，特に印象に残った Aquaponic の実験施設と，モスクを紹介する。

1. Aquaponic

Aquaponic の実験施設を訪れた時，事前知識がない状態であった。しかし，持続可能性

や自給自足に重要な側面を持ち合わせるこの Aquaponic を講義前に実際に見ることができたことは，Sustainable Development Goals (SDGs)の取り組みを身近に感じ，講義のモチベーションを得るいい機会となったと考える。なぜならこの実験は，私たちが普段の生活で行うことのできる節電や節水などの取り組みと比べてはるかに効果的であり，SDGs に貢献することにおいての自分たちの無力感が拭われたような気がしたからだ。

Aquaponic の装置

ここで Aquaponic の基本情報を紹介する。Aquaponic は，魚の養殖と植物の水耕栽培を組み合わせた持続可能な農業システムである。このシステムでは，魚が飼育される水槽と，水槽からの排泄物を利用して栄養を供給する植物の栽培ベッドが組み合わされ，淡水が循環している。魚が排泄物を排出すると，それは硝化プロセスを経て植物にとっての栄養素となり，植物はそれを吸収して，浄化された水を魚のいる水槽に戻す。このような循環により，水と栄養素の効率的な利用が可能になり，食糧安全保障と持続可能性の問題にアプローチすることができる(Kyaw & N. 2017)。

UTM の実験施設では，この装置の効率性を追求するために，条件を変えて様々な方法で装置を運用し実験していた。研究者の方によると，今や Aquaponic は大規模的に実用されており，水を十分に確保できない地域においても展開されているそうだ。なぜなら，Aquaponic は限られた水量で農作物を栽培できるためである。
この Aquaponic は工学や化学の分野のもので，文系大学に通う私たちの専門外だったが，研究者の方がクイズも交えて分かりやすく説明してくださった。また参加者も皆積極的に質問して，その仕組みを理解することができるように努めていた。

2. モスク

マレーシア滞在中にいくつかモスクを訪れたが，私はこの UTM 敷地内のモスクが最も印象に残っている。なぜなら，礼拝スペースまで入らせていただけたり，イスラム教の信者の方々から彼らの信仰について様々なことを教えてもらうことができたりしたからだ。

UTM 構内のモスク

まず，他のモスクと同様，入る前に女子参加者はお借りしたヒジャブを着る。その後，礼拝スペースに案内してもらい，ムスリムであるバディが礼拝の方法を実際に見せてくれた。私たち日本人参加者は皆イスラム教徒ではないため，このモスクの礼拝スペースに入ることに対して遠慮する気持ちもあった。しかし，モスクの関係者の方が私たちのためにお祈りをしてくださり，その信仰心の偉大さに感動した。

モスクの見学時間の後半には，モスクの関係者の方がコーランを見せてくださったり，イスラム教についての質問に快く答えてくださったりしたので，とても貴重な時間となった。モスクの関係者の中には英語をあまり話さない人もいらっしゃったが，懸命に私たちの質問に答えようとしてくださったことが印象に残っている。

Malay Cultural Village（Johor2 日目）

Malay Cultural Village は，その名の通りマレーシアの文化を体験できる施設である。この施設で体験したことで，特に記憶に残っているものを二つ紹介する。

1. パティックの体験

パティック（Batik）は，主にマレーシアやインドネシアで見られる伝統的な布地の染色技法である。この技法は，布に特定の模様を描き，その部分を蝋で覆い，染料が染み込むのを防ぐことで，独特の模様やデザインを作り出すことができる。蝋が施された部分は染料をはじき，未処理の部分だけが染色されるため，複雑で繊細なデザインとなることが特徴である。染色が完了した後，蝋を除去して布を洗い清めると，美しいパティックの模様が現れる。

実際に職人の方が見本で見せてくれたものは，色をきれいににじませることで，非常に良い味が出ていたが，実際に色をきれいに滲ませることが難しく，私の絵はただの塗り絵のようになってしまった。

パティック

2. マレーシアの伝統的な朝食

パティックを体験した後は，マレーシアの伝統的なロティチャナイとチャイティをいただいた。どちらもマレーシアでは主に朝食として食べられているそうで，味の濃いマレーシアの料理に対してあっさりした味で，チャイティはすっきりするような味わいだった。食べ

終わった後に，実際にチャイティとロティチャナイを作る体験をした。まずは，チャイティを高い所からこぼして下のコップでキャッチするという技を見せてもらった。実際に体験させてもらったが，案外難しく，こぼしている人も多かった。次は，ロティチャナイの生地を伸ばす体験をさせてもらった。生地を上手に伸ばすのは難しく，伸ばしているはずなのに，気づいたら生地が最初よりも小さくなっている人もいた。

ロティチャナイとチャイ　　体験会

他にも，マレーシアの伝統的なダンスの鑑賞，影絵の体験，マレーシアの植物の紹介，マレーシアの伝統的な家の紹介などをしてもらった。全体を通して，この施設での体験は，マレーシアの伝統や特色について触れる大変貴重な機会となったと思う。

Malay Cultural Village での体験

Forest City (Johor5 日目)

フォレストシティ(Forest City)は，マレーシア，ジョホール州のイスカンダル地域に位置する近未来都市である。フォレストシティは人工島に建設され，中国の不動産開発の大手である碧桂園(カントリーガーデン)とジョホール州の王族による出資を受けて，住宅・商業施設・教育機関などを含む環境に優しい持続可能な都市開発を目指し，国際ビジネスと観光のハブとしての役割を期待されている都市である (Melin 2023)。また，シンガポールと海を挟んでたった 2km という近距離に位置しており，他のアジアの主要な都市へのアクセス

の良さから，主に中国人のセカンドハウスとして多くの需要が期待されていた。

実際に，私たちがフォレストシティの近くに差し掛かった時に，日本でも見ないような多くの高層ビル群に迎えられ，フォレストシティはまさに近未来都市のようだった。しかし，たくさんの豪華な建物が立ち並んでいるにも関わらず，どこか寂しげな印象を受けた。というのも，フォレストシティ内でほとんど車や人を見かけなかったからである。実は，フォレストシティは新型コロナウイルスによる影響や中国の不動産市場の悪化により，入居者が集まらずゴーストタウン化していた。私たちは，フォレストシティの中心地にあるフォレストシティについての様々なパネルが展示されている施設に行き，そこで職員の男性から説明を受けた。フォレストシティはゴーストタウン化しているにも関わらず，私たちの案内をしてくれた職員の男性は，自信に満ちた様子でフォレストシティの素晴らしさについて語っていて，とても印象的であった。

その後の自由時間で施設の外を回ることができたが，中心地であるにもかかわらず人の少なさに驚きを隠せなかった。人のいない屋台，誰も乗っていないアトラクション，自分たちしかいなかったファストフード店など，街の充実具合に対して明らかに人がいなかった。私自身，この街が成功なのか失敗なのか判断をすることはできないが，施設の充実具合と人の少なさのギャップにどこか不気味さを覚えた。

Forest City の位置(左)と Forest City のミニチュア(右)

人気のない Forest City の様子

Kukup 滞在（Johor6 日目）

研修の 2 週間目の週末の Kukup 滞在は，日々の講義の癒しとなる 2 日間だったと思う。Kukup は，ジョホール州の南部に位置する漁村であると同時に観光地としても知られていて，私たちは水上住宅街にあるゲストハウスに宿泊した。ゲストハウスには，卓球台やカラオケ部屋，テーブルサッカーなどがあり，各々好きなことを楽しんでいた。特に麻雀台の周りには常に誰かがいた気がする。ティータイムやディナー，朝ごはんには，ゲストハウスのオーナーの方々がとても美味しいご飯を振る舞ってくださったので，常に満腹の状態の Kukup 滞在だった。

この日のメインイベントに，Culture Night があった。バディも私たち日本人参加者も各々の国や民族の伝統衣装を身に纏い，ファッションショーをしたり，お互いの文化についてプレゼンテーションをしたり，文化の違いについてディスカッションをしたりした。日本でも浴衣や甚兵衛を着る機会はなかなかなく，またバディたちは中華系やマレー系など各々の民族の衣装を着ていたので，とても特別で楽しい時間であった。伝統衣装を着た状態で記念撮影を楽しんだ後は，カラオケに麻雀に夜まで遊び尽くした。筆者は疲れて 11 時ごろに寝たが，一部の人は深夜 3 時ごろまで起きていたらしい。

ゲストハウス内の麻雀台（左）とカラオケルーム（右）

水上住宅街からの景色（左）とゲストハウスでのディナー（右）

参考文献

Anders Melin.“ゴーストタウンか理想郷か－碧桂園の 1000 億ドル事業，先行き見えず”. Bloomberg.2023/8/30.https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2023-08-30/S04O4HDWRGG001 (2024/4/24)

Kyaw, Andrew Keong Ng, 2017, “Smart Aquaponics System for Urban Farming,”; Energy Procedia, 143: 342-347.

UTM での講義の内容

文責：Haruna

はじめに

海外で理系の大学で講義を受けるなんて，ド文系の私にできるのか…？と不安に思いながら臨んだ UTM での講義。実際の雰囲気が伝わるように講義ごとに内容と感想を書いていこうと思う。

UTM での講義の流れ

講義は全部で 5 コマ，時間は一コマ 2 時間ずつ。いつもの一橋の 105 分講義より少し長いが，体感としてはあっという間だった。その理由は，講義が英語で行われる上に環境系の用語が複数登場するため，集中力を要し，また，わからない単語を調べながらメモを取る必要があるからかな，と感じた。こう聞くとすごく大変そうに感じるかもしれないが，ご心配には及ばない。きちんとリフレッシュの時間があるのだ。Tea break＆Lunch Time である！Tea-break は講義と講義の間の 30 分くらい。その時間で，マレーシアではお馴染みの甘いコーヒー，White　Coffee やお茶と，現地で人気のお菓子を楽しんで疲れた脳をしっかり休ませることができた。Lunch でも，UTM のバディが選んでくれたボリューム満点の絶品お弁当をいただいて元気をチャージできた。

←お弁当
（スープが袋に入っているのが
すごく新鮮だった）

チュロスみたいなお菓子→
（名前忘れちゃった…汗）

Lecture 1：Glossary on Low Carbon City & SDGs

SDGs という大きな目標に対して，全体像について知るとともに，教授の専門分野である水質改善について特に詳しく学んだ。マレーシアの川で実際に高い成果をあげた，ゴミ回収プロジェクトがあり，そこで使われた機械やその仕組みについて知ることができた。動画やスライドの視覚情報の助けもあり，内容としてはかなり理系寄りではあったが生粋の文系である筆者もしっかり理解することができた。

Lecture 2: Low Carbon City Development

SDGs に対し，脱炭素経済の達成という面からアプローチする場合，具体的にどんな取り組みができるかを学んだ。マレーシアの国単位での政策だけでなく，個人ができるグリーンアクションについてもそれが環境に優しいといえる仕組みから解説してもらえた。これが今後のフィールドワークやグループごとのプレゼンテーションの基礎知識となっていったので聞き逃し厳禁である。

Lecture 3: Competent Writing & Presentation Skills

UTM の教授によるプレゼンの資料作成，発表時の極意に関する講義だった。資料に載せるべき情報やその引用ルールといった知識面に加え，フォントや画像の選び方など技術面についても学び，その理解度をチーム対抗のクイズで確かめた。早押しクイズだったので，中国からの留学生やバディと英語で素早く相談する必要があった。どのチームも全力で早押ししていくので，くらいつくので必死という感じではあったが，ゲーム感覚で楽しめてさらに知識も身につくという嬉しい講義だった。

Lecture 4: Sustainable Consumption & Production

持続可能な生活スタイルとはどのようなものなのか，それを支える企業の製品とそのデザインについて特に注目して学んだ。この講義では D4S，Design for Sustainable という言葉がキーワードとなった。D4S とは持続可能なデザイン，つまり環境に優しい設計のことである。講義の中では，D4S の概要を学んだあと，グループごとに分かれて自分たちが思う D4S の例を挙げて発表した。班の中で色々に相談していくのだが，ファシリテーションをしてくれるバディやその意図を一瞬で理解して意見をあげる仲間に圧倒されて最初はアワアワしてしまった。しかし発表自体そんなお堅いものではないし，誰よりも楽しんでガンガン話してみようというスタンスで臨むべし，である。

Lecture 5: Empowering Green Action

UTM と一橋それぞれの代表の学生が，各々の国と大学が SDGs に向けてどんな取り組みをしているのかをプレゼンした。最初に UTM の学生がプレゼンをしてくれたのだが，スライドがあまりにもきれいで，研修中に撮ったのであろう写真やそれにまつわるクイズも満載の楽しすぎるプレゼンだった。

最後に

UTM での講義の様子は伝わっただろうか。ただ聞くだけでなく，常にアウトプットが求められるので，英語力という面ではリスニングだけでなくスピーキングの力もどんどん鍛えられることと思う。また，考え方や物事に取り組む姿勢など根本に関しても大いに学びの機会になった。研修に参加される方はぜひ積極的に質問したり，バディと議論を深めたりしてこのチャンスを最大限に活用していただきたい。

コラム①：マレーシアの日本の店や製品

文責：Daiki

マレーシアには意外にも，日本の製品や店が至る所にある。最も顕著な例を挙げると車やバイクである。マレーシアの車のシャアは１位がプロドゥア，２位がホンダ，３位がトヨタと多くのシェアを日本メーカーが占めている。１位のプロドゥアは国産メーカーだが２０％の株をダイハツが所有しており，販売されている車の多くはダイハツの姉妹車である。マレーシアのバイクに関してはヤマハ車が人気であり，マレーシアをアジアの製造拠点としている(JETRO 国際貿易振興機構 2023)。また，スーパーやコンビニを見てみても洗剤や石鹸，オムツなどの多くは日本製品であった。

マレーシアで売られている日本のおむつや洗剤

製品だけでなく，実店舗としてマレーシアに展開している日本企業も多くあった。例えば，UTM キャンパスに滞在中，買い物に行く場所といったらイオンであった。マレーシアのイオンは日本の店舗と違い，スーパーがメインとなっており，たくさんの日用品が売っていた。さらに，クアラルンプールの観光の中心であるツインタワーのショッピングセンターには ISETAN が入っており，たくさんの日系企業が展開されていた。クアラルンプール近郊にはららぽーとも営業しており，そこではダイソーなどの日用品店も出店しており，日本から持ってくるのを忘れたものも買うことができる。また，日本製品じゃないものにも日本語が書かれていることもよくある。「うまい」や「かわいい」などの日本語はマレーシアでもよく知られている。このようにマレーシアには様々な日本製品や日本の店があり，特に生理用品や洗剤などは多くが日本の製品であった。このようなところからも日本製品の質の高さが世界に評価されていることが分かった。

マレーシアのららぽーと，日本語が書かれたマレーシアのお菓子

参考文献

JETRO 日本貿易振興機構, 2023, 「2022 年の自動車販売台数，過去最高の 72 万台（マレーシア）」, JETRO 日本貿易振興機構ホームページ, (2024 年 5 月 24 日取得, https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2023/cfc5c857a85c29d1.html) .

コラム②：Buy ○○，Get ○○

文責：Daiki

日本で何かを複数個買うと一個無料でもらえるという商売を見ることはあまりない。しかし，マレーシアでは至る所でこの商売方法が使用されている。例えば，お土産屋を見てみると大半の商品に「buy 2 get 1」などと書かれたシールが貼られている。物によっては「buy 1 get 1」というように，一つ買うともう一つもらえるといったものもあった。この商売方法はマレーシアだけでなく，アメリカなどの日本以外の国で広く使われている。

この商売方法が日本以外で一般的な理由は複数考えられる。まず，仲介者が消費者の保護ためにものの値段は変更せず，ものの量を変えることによって価格を下げるプライスプロテクションの考え方が海外では強いことが挙げられる（倉林 2012)。割引される前に購入した消費者が損することに対して敏感であり，売り手と買い手が公平であるべきだという考えが強いのに対して日本では，割引することが当たり前になっているため，購入後に割引されることに対して損をしたという意識を持つ人が少ないことが考えられる。もう一つ考えられる理由としては，%による割引の計算が消費者にとって難しいということがある。日本では何割引の計算は学校の学習でも含まれているほど一般的であるが，海外では苦手な人が多い場合もあることが考えられる(倉林　2012)。OECD が行なっている学習到達度調査でも日本人は世界 5 位の数学力であるため，割引の計算ができる人が多いことが考えられる（国立教育政策研究所 2023)。このような理由からマレーシアや日本以外の国では割引ではなく，「buy○ get○」の商売方法が多く使われていることが推測される。ぜひ，マレーシアで買い物する際はこのサービスを利用してみるとよい。

マレーシアにおける「buy○◯，get○○」の販売例

参考文献

倉林拓也, 2012, 「「Buy one Get one Free！」の日本のプロモーションへの活用」, *Aduer Times*, (2024 年 4 月 10 日取得, https://www.advertimes.com/20120417/article62374/)

国立政策研究所, 2023, 「PISA2022 のポイント」, NIER 国立教育政策研究所, (2024 年 4 月 10 日取得, https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2022/01_point_2.pdf)

コラム③：マレーシアの交通事情

文責：Marina

はじめに

日本と東南アジアの交通事情が異なることをご存じの方は多いだろう。マレーシアは車社会であり，一家で複数台所有することも多く，自動者保有世帯は約 8 割に上るそうだ（田中 2018）。マレーシアに滞在中，自転車を見ることはほぼなかった。また，都市部では電車もあるが，人口が分散しているマレーシアでは日本のように全国的に鉄道網が整備されているわけではない。そんな日本とは異なる交通事情を持つマレーシアで体験した印象深い出来事を，本稿では紹介していきたい。

とにかく揺れる車

マレーシアでの研修期間，主な移動手段は UTM が出してくれるバスだった。かなり大きく，中も快適で一橋にもあればよいのにと思ったほどである。しかし，乗ってみると驚いたことに，とても揺れるのである。基本的に，通った道の一か所では必ず大きく揺れた。ひどいところでは，さながらディズニーシーのインディジョーンズ並みである。この揺れのせいで，道中気持ちよく寝ていた数人が起こされていた。運転手の腕もあるのだろうが，一番の要因は道路であろう。道路がぼこぼこしているため，定期的に跳ねるのである。マレーシアの道路のでこぼこさを実感したのは，最終日のジョホールバルからシンガポールへの移動時だった。ジョホール州内を走行しているときはひどい揺れで，車酔いをする人が出るほどであった。しかし，シンガポールへ入国すると，途端に車が跳ねなくなったのである。おかげさまで車内の日本人はほとんど寝ることができていた。マレーシアで移動中に快適に寝ることができたのならば，それは幸運だと喜んでよいだろう。

法定速度 50 ㎞超えの高速道路走行

マレーシアないし東南アジアでは，一般ドライバーが運転するタクシーのようなサービスである Grab を移動に用いるのが一般的である。滞在中，食事や観光に行ったりする際はよくお世話になったものだ。ある日，その Grab で移動中に高速道路に乗ったのだが，なにやら速度がおかしいのである。筆者たちが追い抜かしていく車が妙に多いと思ったら，速度メーターが時速 140km を指していた。衝撃である。最高速度はなんと時速 160km であった。しかも，前の車との車間距離が短い。追い打ちをかけるように雨も降ってきたので，Grab に乗っていた日本人参加者みんなで震えあがっていた。あとからバディに聞いたのだが，法定速度は時速 110km

メーターは 140km/h を超えている。（参加者撮影）

だそうだ。実に時速 50km オーバーの走行である。速度が速いのは高速道路だけでなく，一般道路でも同様である。渋滞が起きているときを除けば，基本的にスピードは速かった。毎回メーターを見ていたわけではないが，時速 60km はゆうに超えていたと思う。しっかりとシートベルトを締めることをお勧めする。ちなみに，シートベルトを発見できないこともしばしばなので，ご注意を。

渡ろうと思ったならそこが横断歩道だ

日本では，横断歩道以外の場所で横断する人はあまり見かけない。一方，マレーシアでは，外に出れば必ずと言ってよいほど，切れ目なく行きかう車の間を堂々と横断する人々を目撃できる。初めて見たときはとても衝撃的だった。さらに，自分も同様に車の行きかう中を横断することになったときは，非常に困惑した。いかにしてこの絶え間ない車の往来の中を抜けていけばよいのか？まず，手前の道路を走る車の列に切れ目ができたら，道路を渡り始める。次に，他の車線や反対車線のやってくる車を手で制止しつつ，急ぎ足で渡っていく。以上である。コツは，怖がって立ち止まらないで，思い切って進むことである。意外と車も止まってくれる。もちろん，進んでいる最中に止まってくれない車もいる。その際は危険なので突き進まず止まるべきである。ちなみに，バディによると，渡っている最中に反対車線から車が来たら，自分との距離が近い場合は車に道を譲るのが礼儀なのだそうだ。はじめのうちこそ隙間をかいくぐって渡るのは怖かったが，慣れてしまえばなんら問題ない。日本でもマレーシアと同じように渡ってしまわないか心配になるほどには慣れることができた。

このような交差点を渡ることも少なくない（筆者撮影）。

おわりに

マレーシアの交通事情は日本とかなり異なるため，はじめのうちは困惑することが多いだろう。ここでは詳しく述べなかったが，呼んだ Grab が迎えにやってくる直前で契約をキャンセルしたり，朝晩の通勤時間帯には身動きが取れないほどの大渋滞が毎日発生したり等，様々な驚くべき事実が存在する。一見不便に見えるような交通事情だが，横断の場面や走行速度では，譲り合ったり互いの行動を尊重したりしていることが読み取れた。交通事情は違えど，車社会では譲り合いや他者への思いやりの精神が重要なのは日本と共通なのだろう。

参考文献

田中麻理，2018，「マレーシア 省エネ車最前線」，独立行政法人日本貿易振興機構，（2024 年 4 月 21 日取得，https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2018/16a7442989a3a3e7.html#:~:text=%E8%87%AA%E5%8B%95%E8%BB%8A%E3%82%92%E4%BF%9D%E6%9C%89%E3%81%99%E3%82%8B%E4%B8%96%E5%B8%AF,%E7%B4%848%E5%89%B2%E3%81%AB%E4%B8%8A%E3%82%8B%E3%80%82）).

コラム④：マレーシア料理はなぜ辛い？

文責：Marina

辛いマレーシアの料理

マレーシアは，グルメ大国といわれるほどに料理が多彩である。マレー系，中華系，インド系などの多民族国家であることも起因しているだろう。しかし，多種多様な料理にも共通する点がある。それは，「辛い」という点である。Mee Goreng（マレーシア版焼きそば），Nasi Goreng（マレーシア版炒飯），Laksa（マレーシアの麺料理），Tomyam（トムヤムクン）など，マレーシアの料理は，その多くが辛い料理である（もちろんチキンライスやロティなど辛くないものもある）（マレーシア政府観光局　2024）。たとえ料理自体が辛くなくとも，辛い調味料が付け合わされることがほとんどだ。

さて，ここで疑問が生じる。辛いものを食べると，暑くなる。そして，マレーシアは暑い。筆者自身，マレーシアで辛いものを食べる機会は多かったが，辛いものを食べれば必ず汗をかいた。外で食べようものならかなり暑くなる。冷たいチェンドル（マレーシアのかき氷）が食べたくなったものだ。なぜ，暑い中暑くなるようなものを食べるのか？

ところで，マレーシアの人々は辛いものが好きなようであある。バディはマレー系と中華系だったが，おすすめの料理の多くは辛い料理で，バディ自身も”I like spicy one”と言っていた。バディの何人かにこの疑問をぶつけてみたところ，「小さいころからずっと食べていたから好きになっていた。なぜ暑いのに辛いものを食べるのかはわからない」と言っていた。そこで，本稿では暑いマレーシアでなぜ辛い料理が発展したのか考えていく。

Tomyam と Laksa

唐辛子の 4 つの効能

そもそも，マレーシア料理が辛い理由は，その調味料にある。マレーシア料理の辛さはサンバルという調味料から来ており，主な材料は唐辛子，玉ねぎ，にんにく，砂糖である（古川　2015）。辛さは唐辛子由来である。この唐辛子には，主に 4 つの効能がある。これらの

効能こそが暑いマレーシアで辛い料理が食べられる理由ではないかと考える。

効能 1：発汗作用

唐辛子には，発汗作用がある（中谷 2002）。辛いものを食べることで汗をかき，汗が蒸発することで肌の表面の温度が下がる。そのため，涼しく感じることができるというのである。筆者は冷房の効いた中で辛いものを食べたら，むしろ寒くなってしまった。

効能 2：防腐作用

唐辛子には，食べ物が腐るのを防ぐ作用がある（Tewksbury et al. 2008）。歴史的にも，唐辛子などのスパイスは多く用いられ，広く波及している。今でこそ冷蔵庫等が発達しているが，年中常夏で屋台文化のあるマレーシアでは，食べ物が腐らないようにすることは重要である。それゆえに，防腐作用のある唐辛子が多く用いられているのだろう。

効能 3：防虫作用

唐辛子には，虫がよるのを防ぐ作用がある（Tewksbury et al. 2008）。常夏のマレーシアでは，ハエなどの虫がとても多い。筆者も，いたるところでハエが料理の上を飛んでいるのを見かけた。ハエなどの虫が料理につくのは不衛生である。そのため，虫がよらないように辛くしているのだろう。実際，辛い料理を食べているときはあまり虫がよってこなかったように思う。虫によられるのが嫌な人は辛い料理をオーダーするとよいかもしれない。

効能 4：食欲増進

これは有名な効能だが，唐辛子には食欲を促進する働きがある（中谷 2002）。暑い夏に食欲がなくなった経験はないだろうか。年中暑いマレーシアでは，食欲がなくなることもあるだろう。そこで，辛い物を食べることで食欲を復活させ，栄養をきちんと取れるようにしたのだろう。筆者も初めこそ辛いものを食べるのは大変だったが，だんだんと慣れ，しまいには進んで食べたくなるようになった。

おわりに

以上，暑いマレーシアで辛いものを食べる理由として①汗をかいて涼しくなるため，②料理が腐るのを防ぐため，③虫が寄るのを防ぐため，④食欲を増進させるため，の四つを挙げた。一方でバディが言っていたように，習慣的に好んで食べているという面も大きいだろう。さらに，唐辛子がマレーシアで生産されることも要因の一つだと考えられる。なぜそのようなものが存在するのか考えてみると，身近なものでも見え方が変わって面白いかもしれない。

参考文献

中谷延二, 2002,「香辛料の機能性成分」,『生活科学研究誌』, 1:1-10, (2024 年 3 月 10 日取得, https://dlisv03.media.osaka-cu.ac.jp/contents/osakacu/kiyo/DB00010955.pdf).

古川音, 2015,「マレーシア料理に大事な三つの調味料。サンバル，ブラチャン，グラ・マラッカ」，一般社団法人日本エスニック協会ホームページ，（2024 年 3 月 10 日取得,

https://ethnic-as.net/selection/gourmet/78/).
マレーシア政府観光局，2024,「グルメ」，マレーシア政府観光局本国サイト, (2024 年 3 月 10 日取得), https://www.tourismmalaysia.or.jp/enjoy/gourmet_01.html).
Joshua J. Tewksbury et al., 2008, “Evolutionary ecology of pungency in wild chilies”, Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America, 105(33):11809-11811, (2024 年 3 月 10 日取得, https://www.pnas.org/doi/epdf/10.1073/pnas.0802691105).

個人エッセイ目次

- ハラル認証からみる多民族国家のあり方　Kyoka A.
- マレーシアでの生活を通してみる日本での暮らし　Daiki I.
- 車社会・マレーシアが目指す未来　Sota U.
- Chinese New Year からみる多民族国家マレーシア　Haruna O.
- 異文化交流における音楽の重要性　Meina O.
- マレーシアの経済と SDGs　Kodai K.
- 異文化交流における共通語　Junka K.
- マレーシアの社会問題である肥満率について Kohji K.
- マレーシアの天候と人々の気質の関連性　Marina S.
- マレーシアの喫煙事情　Taiyo S.
- 食事から見るマレーシアの多様性　Nanaho T.
- 外に出て初めて気がつく「当たり前」 Yuka B.
- 採光デザインを通じた SDGs の実践的取り組みと生活の快適さの両立　Mai M.
- なぜ日本人は長期滞在先としてマレーシアを選ぶのか　Masahiro M.

ハラル認証から見る多民族国家のあり方

文責：Kyoka A.

はじめに

本稿では研修中にマレーシアで見かけたハラル認証マークについて取り上げる。ハラル認証マークとは,「宗教と食品衛生の専門家（ハラル認証機関）がハラルかどうかの検査をしてハラル性を保証する制度」によって認証を受けた飲食店や商品に与えられるマークのことで(ハラル・ジャパン協会 n.d.), イスラム教徒が国民の過半数を占める(外務省 2024) マレーシアでは日常的に見かけるものとして印象に残った。本稿ではハラル認証マークが導入された背景からマレーシアでイスラム教徒と他の宗教を信仰する民族の共存の様子を考察し, 身近な例である日本と比較していく。

図１ハラル認証マーク

JAKIMのハラル認証マーク

ハラル・ジャパン協会ホームページより

ハラル認証マークから見るマレーシアの多民族共存

皆様はハラル認証マークをご存知だろうか？日本では未だ頻繁に見かけるとは言い難いが, マレーシアでは飲食店はもちろんスーパーマーケットで購入する食材, 調味料, 薬に至るまであらゆる場所でこのマークを見つけることができる。そもそもイスラム教徒はハラル基準に沿って調理・加工された食材しか食べられないという宗教上の規則があり, 彼らは日々の外食や買い物でこのマークを常に基準としている。実際にイスラム教徒のバディが口にしていた醤油の小分けパックにもハラル認証マークがついており, その浸透ぶりに驚いたものである。

私が意外だと感じたのは, このハラル認証マークがイスラム教発祥の地域である中東ではなく, イスラム教が伝播し広まったいわばイスラム教後進国であるマレーシアで始まったことである（世界史の窓 n.d.)。その理由は, 国民の大半がイスラム教徒である中東諸国

ではイスラムの規則に従って生活することが当たり前であるのに対して, イスラム教徒だけでなく中華系やインド系の民族が共存しているマレーシアでは様々な生活スタイルが混在しイスラム教の規則に沿わない商品が多く含まれているためだと考えられる。実際に私たちが研修中に訪れたレストランの半分ほど, 特に中華系の飲食店はハラル認証を受けていないお店で, イスラム教徒のバディは同行しなかった。

マレーシアでは異なる文化を持つ人々がそれぞれの文化やルールを尊重しながら生活するためにハラル認証マークのような工夫があるが, そのほかにも多民族共存には様々な形がある。例えば日本では, 北海道に先住していた少数民族のアイヌ民族に対して, 彼らの風習の禁止や日本語習得を勧めるなどの同化政策が進められた（国立アイヌ民族博物館 n.d.)。これは多様な民族が同一のルールや習慣の元で暮らす「単一民族国家」を理想とした政策と言える。一方で, マレーシアにおいてはイスラム教のモスク, 中華系寺院, ヒンドゥー教寺院が街中に立ち並びそれぞれの民族が互いに多民族の伝統を尊重しているように見えた。初等教育もマレー語に加えて中国語・タミル語で行われ中華系・インド系マレーシア国民もそれぞれの言語を習得する。ハラル認証も国の公的機関であるマレーシア連邦政府総理府イスラーム開発庁によって行われており, 政府がこのマークを通してイスラム教徒は宗教規則を守りながら, 中華系民族はハラル規則に縛られず自由な食事や輸入品を楽しむことができる仕組みを制定している。

私の個人的なイメージにはなるが, 前者の日本で取られたような同化政策を日本の色一色に塗りつぶすような政策だとすれば, 後者のマレーシアの政策はサラダボウルのように様々な色が共存しつつも混ざり合うことがない状態と表すことができる。

日本の移民政策の今後について

無論どの民族共存のやり方が優れているという話ではない。政策や制度の良し悪しはその国の経済状況や文化的状況に大きく左右されるもので, 例えばマレーシアにおけるプミプトラ政策は未だに議論の対象となっている（私は自分が生まれた環境, 人種や民族のみによって自分の努力とは無関係に立場が不利になるという経験はありがたいことに未だしたことはなく, 中華系のバディがマレー系の学生に対して使った「Privileged」という言葉は忘れられない)。しかしその中でも, 日本が従来の「日本は単一民族国家であるべきである」という幻想から変化を迫られていることは確かである。その背景には日本における外国人居住者の比率の増加がある。人口減少に際して日本における外国人比率は 2022 年の 2.4%から 2070 年には 12.4%まで増加することが見込まれている（野村総合研究所 2023)。実際にブラジル人コミュニティを舞台にした映画が制作されたり, 埼玉県におけるクルド人コミュニティと地方自治体との関わり方が報道されたり (NHK 2024)と, 外国人居住者に関する話題が人々の口に上る機会が増えてきたように感じる。今後さらに移民の与える良い影響・悪い影響は顕在化し, 日本における移民との関わり方を考えることは日本に住む全員にとって避けて通れない話題となるだろう。

そのような場合に，日本よりはるかに昔から移民を受け入れ共存を模索してきたマレーシアの失敗・成功から学ぶことは多い。今回の研修でハラルマークをはじめとする多文化共存のための工夫を目にし，異なる宗教・文化を互いに尊重しながら生活しているバディと知り合うことによって多民族共存には様々な形があることを実感できた。今後私が日本で生きて外国人との関わり方を模索していく中で，この経験で得た鮮烈な経験を心にとどめ，画一的ではなく何が日本の文化や状況に適しているのかに注意しながら移民政策について考えていきたい。

参考文献

国立アイヌ民族博物館，n.d.,「お問い合わせ・よくある質問」，（2024 年 3 月 25 日取得，https://nam.go.jp/inquiry/）.

一般社団法人ハラル・ジャパン協会，n.d.,「ハラル認証について」，（2024 年 3 月 25 日取得，https://jhba.jp/halal/certification/）.

外務省，2024,「マレーシア基礎データ」，（2024 年 3 月 25 日取得，https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/malaysia/data.html）.

木内登英，2023,「『外国人 1 割社会』で日本経済は再生できるか？」，NRI，（2024 年 3 月 25 日取得，https://www.nri.com/jp/knowledge/blog/lst/2023/fis/kiuchi/0626）.

世界史の窓，n.d.,「東南アジアのイスラーム化」，（2024 年 5 月 10 日取得，https://www.y-history.net/appendix/wh0503-017_0.html）.

マレーシアでの生活を通してみる日本での暮らし

文責：Daiki I.

初めに

この異文化交流研修を通して学んだことはマレーシアのことだけではない。つまり，マレーシアだけではなく，日本のことを改めて学んだ研修となった。これまで私は自己の思考を日本という社会や文化を通してしかみることができなかった。そのため，日本というただの一国に過ぎない国での暮らしが絶対化され，標準化されていた。しかし，この研修を通して新たな価値観や日本と異なった生活があることを知り，日本の暮らしが相対化され,「普通」ではないことがわかった。このエッセイではマレーシアだけに焦点をあげるのではなく，日本について再考する機会としたい。

働き方の違い

マレーシアに着いて，最初に気づいた日本の特徴はよく言われることではあるが，働き方についてである。私がパーキングエリアに降りて，ご飯を食べようと屋台に寄った時，店員がタバコを吸っており, 5 分ほど待たされたことがあった。このようにマレーシアにいる間，買い物をする場面で店員が電話やタバコを吸っていて，会計ができないという状況が多々あった。これは日本に住んでいたら考えられないことだろう。マレーシアの人々は働くということに対する考え方が違うように感じられた。日本では就業時間中は電話するどころか携帯電話を触ることするすらタブーである。しかし，マレーシアでは当たり前のように勤務中にタバコを吸ったり，スマホを操作したりしている。つまり，日本の方が勤務中にたとえ暇な時間であっても勤務以外のことをすることに否定的であり，マレーシアの方が寛容であることがわかる。このことは両国のホスピタリティの違いから生まれていると考えた。日本のホスピタリティに根幹にあるものは「おもてなし」であり，これは他国のホスピタルティとは違うものである。桃山学院大学の論文（岡村知香,n.d.）によると「おもてなし」は目に見えない心を大切にするという意味が含まれている。つまり，日本の接客は上辺だけの業務を行うだけでなく，相手を不快にさせないことも重要視している。マレーシアの働き方をみて，日本では働き方そのものに「おもてなし」の心が含まれており，常に相手の心を気遣う習慣が身についていることに気づいた。それに対してマレーシアの接客はあくまで労働対価と接客態度が正しく比例しており，少し高級な店に行くと接客態度がより丁寧になり逆に屋台やコンビニなどの大衆店は接客態度が（語弊があるかもしれないが）雑であるように感じた。

街並みの違い

次に気づいたこととしてはマレーシアの街並みが日本と大きく違っていることである。マレーシアではコンドミニアムという高層住居ビルやリンクハウスと呼ばれるマレーシア式

長屋などの集合住宅が圧倒的に多い。一方，日本の住宅街を見ると多くは，一軒家が並んでおり，集合住宅も小さいアパートやマンションくらいしかない。今まで私は豊かさの象徴は高層ビル群だと思っていた。しかし，マレーシアでは高層住居ビルやリンクハウスが安く売られており，日本のようなオーダーメイドの家やオリジナリティのある建売住宅が高く売られていた。また，下の表は 150 メートル以上あるビルが 100 棟以上ある都市が並べられている。この表から発展途上と呼ばれる国からも多くの都市が現れているのがわかる。反対に，一般的に先進国と言われるドイツやフランスなどのヨーロッパ諸国の都市は順位に入っていない。すなわち，先進国だから日本の東京のような高層ビルが立ち並ぶ大都市をもつわけではないのだ。このようなことから高層ビルが立ち並ぶ都市を持つことが必ずしも豊かさの象徴ではないことが分かった。そして，日本とマレーシアの街並みの違いからもう一つ考察できることは経済成長のタイミングである。日本が高度経済成長を経験したのは 1960 年ごろからであり，その時は現在あるような高層ビルを建築する技術がなく，高層ビルの建築が地方都市や住宅街まで及ばなかったことが考えられる。一方，マレーシアでは 1980 年台から経済成長が始まったため，日本などから高層ビルを建築する技術を学び，低層建築物より高層建築物の方がさらなる経済効果を得られる可能性が高いために高層ビルを各地に建築した背景が考えられる。1980 年台ごろから経済成長が始まった中国も同じようにたくさんの高層ビルを持つ都市が多いことからも経済成長の時期が街並みに影響することがわかる。まとめると，高層ビルは必ずしも豊かさを象徴しているのではなく，マレーシアと日本の街並みの違いは経済成長の時期などが影響していると考えられた。

都市	800m≧	700m≧	600m≧	500m≧	450m≧	400m≧	350m≧	300m≧	250m≧	200m≧	150m≧
昇順に並べ替え	–	–	–	–	1	2	4	6	16	97	657
深圳	–	–	–	1	1	2	11	16	52	161	513
ニューヨーク[3]	–	–	–	1	2	6	9	16	36	97	421
ドバイ[4]	1	1	1	1	1	3	13	28	70	127	395
広州	–	–	–	1	1	2	4	11	25	58	254
上海[5]	–	–	1	2	4	7	11	5	26	63	250
クアラルンプール	–	–	1	1	4	4	4	5	10	62	211
重慶	-	–	-	–	–	–	2	5	13	58	205
東京	–	–	–	–	–	–	–	1	4	60	200
武漢	–	–	–	–	1	2	3	5	11	56	183
シカゴ[6]	–	–	–	1	1	2	3	7	18	37	178
成都	–	–	–	–	–	–	–	0	1	42	127
バンコク	–	–	–	–	–	–	–	4	8	30	115
ジャカルタ	–	–	–	–	–	–	1	2	12	49	114

日常生活の違い

マレーシアで過ごして，最も多かった日本の大きな特徴は綺麗さを好む点である。マレーシアでは道路が舗装されていないということが多々あった。しかし日本に帰ってみると舗装されておらず，ガタガタしている道はほとんどなかった。さらに，飲食店を見てみると，日本はどの飲食店に行っても食器は綺麗に洗浄された状態で出されたが，マレーシアでは熱湯と共に食器が出され，煮沸消毒する必要があるところがあった。これらの要因と

して一つは先ほどあげた豊かさが現れていると考えた。日本は先進国となってから日が長く，道路の舗装に充てる資金があった。一方，マレーシアは一般的にはまだ発展途上国であるため，細かいインフラ整備が行き届いていないことがある。飲食店での衛生観念という点では日本は先ほどもあった「おもてなし」文化が働いており，店側が客の心が不快にならないようにという気遣いが働いることが考えられる。もう一つ考えられる日常生活の違いの原因は，マレーシアと日本の価値観が違い，衛生観念やインフラ整備よりも業務の効率性や利益を追求しているということである。マレーシアでの飲食店ではエアコンや空調設備が全く整なっていないところがほとんどであった。つまり，設備や快適性に投資するよりも利益を追求する価値観を持っていることが日本との違いを生み出しているのではないかと考察できる。

まとめ

この研修は私にとって日本という国を相対化し，客観視する機会となった。この経験を通してこれからも様々な国々へ渡航し，日本という国を見つめ直していきたい。

参考文献

岡村知香,n.d.「世界に注目される日本の『おもてなし』」,桃山学院大学

"...their eleventh proper skyscraper, that is by definition buildings above 150 meters", 2007 , skyscrapernews.com (2007 年 12 月 3 日取得, http://www.skyscrapernews.com/news.php?ref=1244)

車社会・マレーシアが目指す未来

文責：Sota U.

はじめに

私は，学士論文で日本のインフラ事情を研究した経験から，発展途上国であるマレーシアが持続可能な経済開発をどのように推進しているのかを学ぶために，この研修に参加した。Xiamen University や UTM の教授の講義から SDGs に関しての取り組みを多方面から理解することができ，大変有意義な時間だった。しかし，交通手段に関しては温室効果ガスを大量に排出する車を使った移動であり，講義やツアーでも車社会を是正する取り組みについてはほとんど触れられておらず，具体的な施策を学ぶことができなかった。そこで本エッセイでは，マレーシアが車中心の社会になっている現状を統計的に説明し，講義で学んだことを参考に車社会の是非について検討する。その後，本研修の最終プレゼンテーションのトピックの１つであった大規模都市開発「イスカンダル計画」がインフラ面でどのような整備を行っているかを眺めた上で，マレーシアの課題を述べて結びとする。

車社会・マレーシア

マレーシアは世界でも有数の自動車大国である。2014 年の測定会社のニールセンの調査によると，マレーシアは自動車保有率が世界第 3 位（93%），複数台保有率も世界第１位（54%の世帯が 2 台以上の自動車を保有）であった（Nielsen 2014）。実際に研修中に利用したのは自動車ばかりであった。参加者全体のツアーは UTM のスクールバス，小さなグループの移動は Grab などの配車アプリを使い，自分自身の車を所有しているバディに運転してもらう機会もあった。また電車を利用したのは，クアラルンプール市内のホテルから中心地への観光の一度だけであった。ここまでマレーシアで自動車が普及した理由について，私たちに講義をしてくださった UTM の Ho 教授は，マレーシアでは建物と建物の距離が離れていて，徒歩での移動が困難であることを指摘していた。日本は住宅が密集しているため，１つの駅で多くの需要を満たすことができるとも述べていたが，それは東京などの大都市にのみ当てはまることであって，地方圏はマレーシアと同じような状況であると筆者は見ている。また，道路の在り方も車社会を反映したものであった。車道沿いには歩道がほとんどなく，横断歩道も UTM キャンパス内でしか確認できなかったため，一般道ではほとんど歩行者を見かけなかった。

一方，自動車よりも一度に大量に人員を輸送できる鉄道はあまり普及していない。右の地図を見てわかるように，平野部を示す黄緑部分でも電車が行き届いていると言えない（Malaysia Trains 2024）。目的地を目指す上で結局自動車を使わざるを得ない状態が，自動車が選ばれる理由のひとつであるだろう。

３つの視点から見る車社会の是非

持続可能な経済開発の条件として，環境・経済・社会の３つの観点から将来世代の便益を損なわずに需要を満たすことであると学んだ。ここでは３つの観点に注目して，車社会がもたらす正と負の側面について改めて考えてみたい。

まず環境面に着目すると，自動車は多くの二酸化炭素を排出する交通手段である。日本の統計ではあるが，輸送量あたりの二酸化炭素の排出量（旅客）（単位は CO2 原単位［g-CO2/人 km］）は自家用乗用車が 132，航空が 124，バスが 90，鉄道が 25 である（国土交通省 2023）。つまり，自家用乗用車は環境的に最も非効率な交通手段と言える。経済面では，自動車は個人の移動においては一般に最も安価な交通手段であるが，渋滞による経済損失が大きな問題である。渋滞による損失は膨大であり，全国の渋滞による損失は約 38.1 億人時間，貨幣換算すると約 12 兆円に上る（国土交通省 2006）。それゆえ，トラックなどの車両は物流に不可欠であるが,交通量自体を減らす取り組みが求められる。さらに社会面では，車社会においては遊歩道や都市空間が圧迫され，車を持たない人々の移動機会が制限される可能性がある。以上のことから，車社会は多方面で負の影響をもたらす。それでは，マレーシアはサステナビリティを目指すために，交通に関してどのような取り組みを行っているのか。

イスカンダル計画におけるインフラ整備

マレーシアでは，首都のクアラルンプールだけでなく，シンガポールの対岸に位置し，国内第二の都市であるジョホールバル（人口 134 万人）を中心としたイスカンダル計画が進められている。これはマレーシア・シンガポール両国政府の共同の計画で，中国の「香港-深圳」のような相互補完関係をイメージして巨大経済特区を作り出すことを目的としている。イスカンダル計画では主に２つの交通政策が進められている。１つ目はバス高速輸送システム（BRT：Bus Rapid Transit）である。計画区域内の人口の 90%をカバーすることによって，車移動から公共交通機関への転換を期待している。2025 年までの運用を目指して開発が進められている。２つ目の政策は，ジョホールとシンガポールを結ぶ第三のリンクとして RTS Link の建設が進められている。現在は 1998 年に完成した約 2km の六車線道路橋「第 2 マレーシア・シンガポール連絡橋」を使って毎日約 40 万人が国境を行き来している。しかし，十分な輸送量を確保しているとは言えず，筆者がシンガポールに移動した際の連絡橋は大渋滞を起こしていた。RTS Link が完成することで安定的な国境間の移動が実現されるはずである。

結論

本エッセイでは車社会にスポットを当てて，マレーシアの交通社会とそれに対する是正策を調査した。マレーシアは持続可能ではない自動車に依存している現状を受け止め，バスや鉄道など低負荷で大量輸送が可能な交通手段の普及に尽力していることがわかった。しかし，徒歩や自転車など人々の健康を促進して Well-being を向上させるような取り組みは，現時点ではなされていないのが課題である。つまり,環境面と経済面では有効な政策を実行しつつあるが，社会面を解決する糸口をまだ見出せていない。また,政府や研究機関では持続可能な経済開発が重要視されているが，マレーシア国民全体にその意識が広まっているわけではないことを実地で目のあたりにした。

私はこの春からインフラに関わる業界に就職する。この研修で学んだフレームワークを活かし，真の持続可能な開発は何なのかを常に念頭に置きながら,Well-being を向上させるような仕事をしていきたい。

参考文献

Nielsen，2014，「今後 2 年間，中間層の増加が世界の自動車需要を牽引する」（2024 年 3 月 24 日取得, https://www.nielsen.com/ja/news-center/2014/rising-middle-class-will-drive-global-automotive-demand/）

Malaysia Trains，2024，“Malaysia Train Map”（2024 年 3 月 24 日取得, https://malaysiatrains.com/malaysia-train-map/）

The Political Economy of Development，2016，“Sustainable development: economy, society, environment”（2024 年 3 月 24 日取得, https://peofdev.wordpress.com/2016/10/18/sustainable-development-economy-society-environment/）

国土交通省，2023，「運輸部門における二酸化炭素排出量」（https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_tk_000007.html）

国土交通省，2006，「効果的な渋滞対策の促進」（2024 年 3 月 24 日取得, https://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-perform/h18/07.pdf）

国際建設技術協会，2022，「「債務の罠」に用心深いマレーシアの大規模交通インフラ」（http://www.idi.or.jp/wp/wp-content/uploads/2022/07/202207_891.pdf）

Chinese New Year からみる多民族国家マレーシア

文責：Haruna O.

はじめに

我々の研修期間はちょうどマレーシアにおける Chinese New year，春節の時期に重なっていた。研修中に遭遇できた春節からマレーシアの多民族国家を支える考え方の片鱗を感じたため，本レポートではそれをさらに考察していきたい。

春節とは

ニュースでもよく取り上げられるため，ご存じの方も多いかもしれないが，春節とは，旧暦上の 1 月 1 日のことである。中国本土や台湾，韓国，香港，マレーシア，シンガポール，ベトナムなど多くのアジアの国では祝日として設定されている。2024 年は 2 月 10 日から 2 月 17 日の一週間が春節の期間となっていた。各国の多くの中華系の人は,，この期間で一週間ほど休みを取り，新年のお祝いをする。街は赤色の提灯やその年の干支の動物で装飾され，歌や花火で盛り上げられる。人々は親戚や家族と集まり，イーサンと呼ばれるおせちのような郷土料理を楽しむそうだ。中華系のバディによれば，マレーシアは日本に比べると大家族が珍しくなく，親戚の数も把握できないほど多いため，春節の集まりで初めて会う親戚もいるという。

マレーシアにおける春節の立ち位置

マレーシアは主に中華系，マレー系，インド系，その他の少数民族からなる多民族国家であり，それぞれの民族がそれぞれの文化を保持したまま一つの国に共存している。そのためマレーシアには主な休みは 1 年間で 4 つあり，①1 月 1 日の年始，②イスラム教の断食明けのハリラヤ・プアサ，③ヒンドゥー教のディパバリ，そして，④中華系のための春節である。中華系マレーシア人にとって春節は一年で最大の催事である。しかし，ほかの民族が春節を祝うことはほとんどない。マレー系のバディに，春節で何かお祝いをすることはあるのか聞いたが，ショッピングモールなど街中にあふれる飾りとともに写真を撮る程度で，中華系の人のようにお祝いをしたり休暇を取ったりすることはないそうだ。あくまで中華系のためのお祝いであり，自分たちにはまた別のお祝いがある，というスタンスのようだった。同じ国でもそこまで生活が違うということは，日本では想像しにくいことだった。

感じた日本との違い

私は，なにか日本の文化や慣習を説明するときには，「日本人は室内では靴を脱ぐよ」というよりも，「日本では室内では靴を脱ぐよ」のように日本という場所を示して，この国の説明をしようとすることが多いように感じる。しかし，バディの多くは春節や宗教について

語る際にいつも「私たち中華系マレーシア人は…」や「私たちムスリムは…」のように民族や宗教で分別された主語を使っていた。これは多民族国家ならではの感覚や意識を如実に表しているのではないだろうか。同じ国に住んでいても，民族が違い，それによって生活や文化が違う。それが当たり前の世界だからこそ民族意識がしっかりしていて会話中の主語にも表れるのだろう。

最後に

多民族国家が成り立つためには，民族の違い，文化の違いを認め合って共存することが不可欠である。バディの中には，中華系もマレー系もインド系もいて，宗教も様々だった。特に生活への影響が傍目にもわかりやすいのはムスリムのバディで，一日の中でもお祈りにいったり，食事で口にできる食材が決まっていたりした。それに対して，他のバディは「今はきっとお祈りの時間だから返信返ってこないかも」，「これは豚肉を使うお店だから今回はやめておこう」というように，ムスリムのルールを理解してごく自然に配慮していた。このように，お互いが違いを理解していれば，文化や慣習が異なっていたとしても同じ国の中で共生することはできるのである。共存や共生と聞くと，みんなが手を取り合って同じ方向を向いている図を想像してしまうが，同じマレーシア人として同一視することが解決方法ではない。マレーシアをみれば，民族間の違いがくっきりと残されていることは明らかである。同一視と平等，特別視と不平等を履き違えないことが，多民族国家を成り立たせる鍵になるのだろう。

この学びは，言語や宗教といった大きな枠組みをはじめ，多くの人と文化的背景を共有している日本では気がつきにくい。グローバル化という言葉も新鮮さを失うほどには，日本でも異文化に触れる機会は増えているし，生活の多様化も進んでいるだろう。しかし，暗黙の了解，あるあるが成り立つことからも，集団としての同一性は高く，違いよりも共通項が優位にある。本当の意味での多様化には，違いを超えた共生・共存に必要なことを，マレーシアをはじめとした他国から学び取る必要があるといえる。

参考文献

大松千紘，白畑正江，竹中文都，多田悠季, 2018,「学生グループ共同研究報告」，奈良県立大学，『マレーシアから見る多文化共生の在り方』, 157-163.

JTB Corporation, 2023,「鮮やかな赤に染まる！！マレーシアのチャイニーズニューイヤー」, (2024 年 3 月 10 日取得, https://www.jtb.co.jp/kaigai_guide/report/MY/2023/01/263_310819_1671183384.html)

異文化交流における音楽の重要性

――マレーシアのバディの間で人気のアーティストに関する調査――

文責：Meina O.

本エッセイでは，私が今回参加したマレーシアでの異文化交流研修及びその他の異文化交流を目的として海外に向かう学生に対し，音楽を介した交流によって現地の学生との関係構築を行うことができる旨を示すことを目的とする。さらに，マレーシアの現地学生に対して私が行ったアンケートの結果を基にして，マレーシアの大学生の間でどのようなアーティストが人気であるのかを示し，今後マレーシアに行く学生が現地の学生との交流をより円滑なものにすることに役立ててもらいたいと考える。最後に，音楽を通して交流を深めるという経験をしたことによって生じた自分の中での変化について述べたいと考える。

上記のような内容を書きたいと考えた理由は，私自身が同じ一橋の生徒や現地のバディとの関係を築くことに難しさを感じていたものの，それを共通の音楽の話題を通して乗り越えたという経験があったためである。初めて会う人と仲良くなることは難しかったが，本研修ではそれを乗り越えて関係性を築いてこそ，真の異文化交流が実現できると考え試行錯誤した。結果，私はバディを含めた本研修のメンバーと仲良くなる方法として，お互いに好きな音楽を共有し合う方法が有効であると考え，実践した。文化圏が違うと共通の話題を見つけることはいくぶん難しいが，音楽は世界共通であるため話しやすいのではないかと考えたのだ。結果，今回のマレーシア研修でも音楽の話でバディたちと盛り上がることが多々あった。

1 つ目の主題である，音楽を介しての交流によって現地の学生と関係性構築を行うことができるということを示すために，私が音楽の話題を通してバディと関係性を築くことができた具体的な場面を 2 つ紹介する。一つ目は，研修第 1 週目，クアラルンプールのレストランにおいてである。当初，研修が始まってまだ 1 週間も経っていないということもあり，まだバディとの関係性を築けておらず，日本人のみで話すことも少なくなかった。しかし，クアラルンプールのオールドタウンコーヒーというカフェレストランで日本人とバディとでお互いのスマホ音楽アプリを見せ合い好きな音楽を共有すると，非常に会話が弾んだ。結果，そのバディから積極的に話しかけてもらえるまで関係が深まった。2 つ目は，ククップの宿泊施設に設置してあったカラオケにおいてである。私はそれまで自分のグループのバディとしか交流がなかった。しかし，ククップのカラオケで自分自身もバディも知っている音楽を一緒に歌うことで，自然とそれまで話したことのなかったバディとも打ち解けることができた。結果として，その後のプレゼン準備の時間等で積極的に他のグループのバディとも話すことができた。以上の経験より，私は音楽を共通の話題とした関係性構築の重要性を感じた。

しかし，上記のような音楽の重要性を感じるとともに，渡航前にマレーシアの学生の間で人気のある歌手や楽曲を知っておくべきだったと後悔をした。私は音楽鑑賞が好きではあるものの，洋楽や中国語で歌唱する歌手の曲を知らず，そのため一緒に歌うなどすることは難しかったからである。

そこで，2 つ目の主題の通り，私はこれから本研修でマレーシアに渡航する学生の方々には，ぜひ現地のバディ達が普段触れている音楽について学んでからマレーシアに渡航してもらいたいと考える。そのために，以下では現地の学生のあいだで流行っている曲やアーティストを調査しその詳しい情報を皆さんにお伝えしようと思う。そのために私は現地のバディ 8 名にアンケートを取った。アンケートの項目は，好きなアーティストを 5 人挙げてもらうというものである。結果は以下の表の通りになった。

歌手名（国）	該当アーティストを挙げたバディの人数	歌手名（国）	該当アーティストを挙げたバディの人数
Namewee（馬）	1	Yorushika（邦）	1
Mwy Day （台）	1	Chase Atlantic（豪）	1
Eric Chou （台）	2	Taylor Swift（洋）	3
Wei Bird（台）	1	Charlie Puth（洋）	2
Wakin Chau（台）	1	Avicii （洋）	1
Jay Chou （台）	2	Coldplay（洋）	1
Crowd Lu（台）	1	Tank（洋）	1
G. E. M（香港）	1	Justin Bieber（洋）	1
Jason Zhang（中）	1	Ed Sheeran（洋）	1
Na Ying（中）	1	Ariana Grande（洋）	1
Joker Xue （中）	1	Travis Scott（洋）	1
GOT7（韓）	1	Backstreet boys（洋）	1
Jackson Wong（韓）	1	JVKE（洋）	1
Gidle（韓）	1	Paris the Prince（洋）	1
Ado（邦）	2	Post Malone（洋）	1
Radwimps（邦）	1	Shawn Mendes（洋）	1
Yoasobi（邦）	1	Sza（洋）	1

※カッコ内は、洋→洋楽／その他の国名→アーティストがデビューした国または地域
　アーティスト名は全てアルファベット表記

このアンケート結果から，以下，3 つのことが言える。1 つ目は，Taylor Swift という洋楽の歌手がマレーシアのバディの間では比較的人気だということである。2 つ目は，日本の歌手では YOASOBI や Ado，ヨルシカが人気だということである。3 つ目は，中華系のアーティストでは，May Day（以下，「五月天」）というグループが人気であるということである。ククップのカラオケで歌った際には，特に多くのバディが上記で挙げた Taylor Swift，五月天などの曲を盛り上がりながら歌っていたため，いくつか有名な楽曲を聴いておくと関係性を深めるのに役立つと考える。

帰国後，上記のような音楽を介した異文化交流の経験を振り返ることで，私は 3 つ目の主題として挙げた自分の中での変化に気がついた。本エッセイの執筆に際し，私は以前テレビ番組で知ったロックミュージックがベルリンの壁の崩壊に与えた影響について考え直していた。それは，西ベルリンで行われたロックミュージシャンのコンサートが東ベルリンの人々にも届き，彼らが自由へと向かう一つの要因となったという話である。テレビ番組を見た当時の自分は，音楽がそこまでの影響力を持つとは思えずその内容を聞き流していた。しかし，マレーシアでの経験を通して音楽の持つ力を実感した自分にとっては，その内容はよ

り身近で，現実味のあるものとして感じられ，当時の東ベルリンの人々に共感するに至った。そして私は，マレーシアにおける音楽を介した異交流を通して，自らの視野が広がったと感じた。

本エッセイでは，音楽を介しての交流によって現地の学生と関係性構築を行うことができる旨を自らの経験を基に示した。さらに，マレーシアの大学生の間でどのようなアーティストが人気であるのかをアンケート結果を基に示した。最後に，音楽を介した異交流という経験をしたことによって生じた自分の中での変化について述べた。私は自分自身の経験から，初めて会う他国の大学生と関係を構築することは容易ではないと考える。しかし，広く世界中の人々が慣れ親しんでいる音楽の力を生かして，どうかより充実した異文化交流を実現していただきたい。そして，その経験から少しでも学びや発見を得ていただければ幸いである。

マレーシアの経済と SDGs

文責：Kodai K.

はじめに

このマレーシア研修の目標として，SDGs に関する理解を深めることが挙げられる。実際に私たちは講義やフィールドワークを通して，マレーシアの取り組みについて多くを学んだ。このような機会は，SDGs と日常生活を結びつけながら理解できるという点で非常に有意義であったと同時に，SGDs の課題に気づくきっかけとなった。すなわち，経済成長と環境対策のバランスを保つことは，マレーシアなどの途上国にとっては困難なのではないか，という課題である。例えば，各国の SDGs パフォーマンスを評価する機関が公表しているランキングを見てみると，上位は先進国がほとんどである（SDG Transformation Center 2023）。しかし，このような先進国の多くは，過去に環境を無視した重工業化による発展を遂げ，その発展による恩恵を用いて現在環境対策に取り組んでいると言える。すなわち，先進国は経済が安定しているからこそ，SDGs に取り組む経済的・精神的な余裕があり，「環境先進国」となることが出来ていると考える。したがって，環境保護と大規模な経済成長を両立した事例は極めて少なく，途上国は SDGs に取り組む際，発展と環境保護を両立するモデルを模索しなければならない。しかし，途上国が持続可能な経済成長のモデルを模索しているうちに，先進国との格差は環境面においても開いていくだろう。このような課題を解決するため必要なことを，研修を通して学んだことを踏まえて述べる。

マレーシアの現状

先述したように，研修中，私たちは様々なフィールドワークを行なった。太陽光発電と電力の集中管理により環境負荷を軽減しているモスク（画像・左下）や，魚が排出する糞などの有機物を利用した aquaponic（画像・右下）の見学など，文系の私にとっては非常に貴重な体験であった。この時点においては，マレーシアの環境対策は想像以上に先進的であり，世界的な地球保護のプログラムは案外順調なのではないかと考えていた。

（モスク）

（Aquaponic）

しかし実際に街に出てみると，マレーシアではこのような先進的な環境対策は少ない。例えば，マレーシアは自動車大国であるが，電気自動車の普及率は 2023 年の総販売台数に対してわずか 4.8%である。ちなみに，環境先進的と言われる EU２７ヵ国の平均が 22%で，日本は 3.6%である（IEA 2024)。したがってガソリン車の排気ガスの影響から，クアラルンプール市内では大気汚染が問題となっている。さらに，マレーシアの電力供給は火力発電が最大であるにも関わらず，都市部は派手なイルミネーションで照らされ，大量の電力を消費しているのを見て，先述したような視察先での環境先進的な様子との対照的な現実に衝撃を受けた（画像・左下)。そして，それよりさらに衝撃的だったものが Kukup である。クアラルンプールなどの都市部や観光地ではインフラの整備やゴミの分別の取り組みが進展している一方で，地方集落の Kukup は SDGs とは程遠い光景が広がっていた。水上の集落である Kukup は，下水やゴミを海に排出しているため街全体が異臭に包まれており，海には缶やプラスチックなどが浮かび，海の水は見たことがないほど濁っていた（画像・右下)。

このように，マレーシアの実情は，環境先進国とは程遠いものであった。確かに，大学や国の施設などでは取り組みがなされていた。しかし，現状は経済成長を優先して，環境対策の取り組みは十分ではないと感じた。

（KL のイルミネーション）

（Kukup の海の様子）

結論

このようなマレーシアの SDGs の実情を体験して感じたことは，環境対策を万全に行う余裕は，途上国にはまだないということである。というのも，例えば電気自動車など，環境対策を行うには高価なものが多いためである。したがって，解決策の一つは先進国による援助である。すなわち，大規模な援助を行うことにより，環境対策を行う余力を生み出すことが必要である。現在の環境問題は先進国の過去の発展の遺産であり，先進国は途上国に SDGs を押し付けて経済成長を抑制するのではなく，財政援助によって促進すべきである。また私たち個人レベルでも，ゴミの分別や 4R(Reduce, Reuse, Recycle, and Refuse)の実践など，環境対策に向けた意識付けを行うことが重要である。というのも，先進国の国民は経済的・精神的にも途上国より環境対策を行う手間をかける余裕がある人が

多いからである。

この研修を通し，私の国が，様々な面で整備された国であることを再認識することができた。フランクな言い方にはなるが，「自分の周りはせっかくこんなに整備されているのだから，ちょっとくらい手間がかかっても，少しずつ環境保全の取り組みを実践した方がいい」という学びを得ることができた。

参考文献

IEA, Global EV Data Explorer, n.d. （2024 年 5 月 15 日取得）
https://www.iea.org/data-and-statistics/data-tools/global-ev-data-explorer

SDG Transformation Center, n.d. "Sustainable Development Report Rankings 2023." SDG Transformation Center Data Hub. (2024 年 3 月 26 日取得 https://datahub.sdgtransformationcenter.org/rankings/sustainable-development-report)

異文化交流における共通語

文責：Junka K.

はじめに

マレーシアでの異文化交流研修は 3 週間という短い期間だったが，すべてが新鮮で多くの学びであふれていた。多様な民族からなるマレーシアで，マレーシア工科大学のバディをはじめとする様々な人に会い，異文化交流をしたことで，国際共通語と言われる英語への見方が変わった。本稿では，異文化交流における共通語について研修中の具体的な経験を交えながら考察し，国際共通語としての英語のあり方について自分なりに検討していく。

異文化交流と言語

私にとって，マレーシアでの研修は異文化交流における共通語について考える良いきっかけとなった。私は，マレーシアでの研修中にコミュニケーションをとるとき，どの言語を使うかいつも悩んでいた。なぜなら，私の周りには常に自分とは異なる言語を使う人がいたからだ。マレーシアは，マレー系約 70%，中華系約 23%，インド系約 7%と多様な民族からなる国家であり，国語であるマレー語をはじめ，中国語，タミール語，英語が話されている（外務省　2024)。そして，一橋大学からの日本人参加者は日本語を母語として英語も話す。加えて，今年は中国の大連大学から中国人が複数人参加していた。彼らの多くは中国語と英語を話すが，中には英語が苦手な者もいた。研修中は，マレーシア工科大学の現地学生，一橋大学からの日本人参加者，大連大学からの中国人参加者がそれぞれ複数人ずつ混ざったグループが作られ，ツアーやご飯を食べるとき，自由行動のときは基本的にこのグループで行動した。使用する言語は英語が多かったが，バディ同士やバディと中国人参加者が会話をするときは中国語が多かった。しかし，私は中国語が全く分からなかったため，彼らの話の内容も分からず，ただその場にいることしか出来なかった。逆も然りで，グループ行動をしていた時，私が日本人参加者と日本語で会話するとバディが不安そうな顔をしていてハッとしたことがある。私は，一切悪気なしに，たわいもない会話だから相手さえ理解してくれればよく，わざわざ英語で話す必要はないだろうと判断したのだが，疎外感を感じさせてしまったことに気付き反省した。

このような体験を通して，共通語としての英語の便利さを感じると同時に，その異文化交流の場での立場に疑問を感じた。異文化交流には共通語が必要不可欠だと考える人も少なくないが，私は，共通語はあくまで交流を補助するようなものだと考える。異文化交流において，共通語だけを使って交流することは完全な異文化交流とは言えないのではないかと思う。なぜなら，言語も文化であり，相手の言語を知ることで価値観や歴史，さらには自国の言語についても知ることができるが，共通語を使うとこの機会を失うように思われるからだ。また，コミュニケーションには言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーシ

ョンがあり，言語による情報伝達は約 3 割程度であるといわれる（田中豊裕　2019）。実際にマレーシア研修でも，英語のほかに表情や擬音，ジェスチャーなどを駆使して，何とか自分の伝えたいことを伝える場面が非常に多かった。たとえば，英語が苦手な中国人参加者とお互いの学校の話をしたときは簡単な英単語と，沢山の写真を見せあって会話をしていたし，バディと漫画の話をしたときも物語の展開やキャラクターの行動について言いたいときは，身振り手振りと擬音で伝えた。しかし，非言語的コミュニケーションも言語的コミュニケーションと同様に，文化を強く反映しており異なる文化を持つ者の間では誤解を招きやすい。たとえば，私のバディはよく眉間にしわを寄せながら“Hah？” と言っていたため少し怒っているように感じていたが，実際は全く怒っておらず，ただ聞き返しただけだったという経験をした。共通言語を補助的に使い，言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションをあわせて会話することで，より円滑に，かつより的確に意思疎通が出来るのではないだろうか。

最後に，現在国際共通語として広く認識される英語について考えたい。日本では，アメリカ，イギリスを中心とした英語がホンモノ英語とされ，その他の英語はニセモノ英語とみなされる（吉武正樹　2007 : 80）。確かに日本ではアメリカ英語やイギリス英語を学ぶのが主流であり，これらの英語が話せる人は多くの人から褒められる。また，流行歌や英会話教室の宣伝など社会における英語の持ち上げは趣味や娯楽に限らず，経済システムとも密接に関わっている（吉武　2007 : 86）。私は，こうした社会的要因に無意識に影響され，可能な限りアメリカ人のように英語を話したいと思っていたし，それが流暢に英語を話すということだと思っていた。しかし，マレーシアでの異文化交流を通してどのような英語でも等しく正しいと感じた。マレーシアではマングリシュといわれるマレーシア独特の英語が話される。発音も言い回しも私が学校で習った英語とは異なるが，長い歴史の中で独自に発展した言語であり，守るべき大切な文化であった。日本英語のようなお国柄をもった英語は日本人というアイデンティティを表す重要な手段であり，恥じるものではない（吉武　2007 : 82）。異文化交流の際は，日本人という誇りと自分の英語に対する自信を持っていきたい。

おわりに

これまで，マレーシアでの 3 週間の異文化交流の経験を踏まえて，異文化交流における共通語，そして英語のあり方について考察した。研修を通して，共通語は異文化交流を円滑にし，誤解を減らすため便利だと感じた。しかし，同時に言語も大事な文化であり，アイデンティティを表すため，共通語が異文化交流の場でどの程度使われるべきか現時点では一概には答えられない。マングリッシュもアメリカ英語も等しく正しく，その国独特の英語を大切にするべきだということを身をもって感じたことは非常に貴重な経験になった。3 週間の研修と渡航前授業のおかげで，異文化交流に対する新たな視点やそのあり方について考えるきっかけを得たが，まだ自分の中の考えがまとまりきらない部分が大きい。今後の課題としては，日本国内外での異文化交流に積極的に参加し，自分の中に無意識に植え付けられ

ていた英語に対する偏見を見つめ直していきたい。

参考文献

伊佐雅子監修・池田理知子・灘光洋子・今井千景・吉武正樹・山田美智子・岩隈美穂/エリック・M・クレーマー・丸山真純・伊佐雅子，2007，『多文化社会と異文化コミュニケーション』三修社

外務省，2024，「マレーシア基礎データ」，外務省ホームページ，（2024 年 3 月 26 日取得，https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/malaysia/data.html）.

田中豊裕，2019，『異文化理解とオーストラリアの多文化主義』大学教育出版.

マレーシアの社会問題である肥満率について

文責：Kohji K.

はじめに

私はマレーシアに 3 週間滞在し，いつかマレーシアに移住したいと思うくらいマレーシアが好きになった。首都のクアラルンプールは東京に劣らないほど発展しており，たくさんの高層ビルが立ち並んでいた。また，一食あたりの値段も日本よりずっと安かったし，Grab という日本のタクシーよりもずっと安い個人タクシーが普及しており，移動も安価であった。マレーシアは熱帯であるため，その暑さには最初は慣れなかったものの，徐々に適応することができ，最終的には半袖であれば快適であると思えるようになった。このように，私はマレーシアでの 3 週間を通じてマレーシアを大変気に入った。

しかし，そんな良い環境で過ごすことができた 3 週間であったが，唯一困ったことがあった。それは，マレーシアの食事が健康的でないことである。以下の写真を見てほしい。これらは私がマレーシアの生活で良く口にした料理や飲み物である。マレーシアには，油っぽい料理と甘い飲み物があふれており，私も自然とこれらを口にすることになってしまった。また，日本にはどこにでもあるサラダなど野菜がメインの食事はほとんど見かけなかった。このような食事からある程度想像できるかも知れないが，マレーシアは肥満率の高さが社会問題になっている。

そこで，このエッセイではマレーシアにおいて問題となっている肥満の要因について私がマレーシアで体験したことを元に考察する。ここで注意してほしいのは，このエッセイでは，医学的な観点から肥満について言及しており，各自の体型に対する批判する意図はないという点である。文化的・地域的に望ましいとされる体型は異なり，筆者はそのような体型への考え方は尊重されるべきだと考える。また，マレーシアよりも肥満率の高い国は欧州，アフリカ，オセアニアにおいて多数存在しているため，肥満率はマレーシアだけの問題ではなく，世界的な問題である。このように，世界的な問題となっている肥満率の高さの要因を考察するためのケーススタディとして，このエッセイではマレーシアを取り上げている。

マレーシアの肥満率における基本情報

マレーシアでは，成人の肥満率（BMI：Body Mass Index 25 以上）が日本（4.5%）の 4 倍以上に達していて，東南アジアの国の中で最高となっている。また，マレーシア保険相の指摘によると，小児や 10 代の若者の糖尿病症例が増加しているとのことで，特に 18 歳～35 歳の年齢層でみると糖尿病患者数は過去 15 年で 300%増加しており，若者の間で糖尿病患者が増加している。このような状況を危惧した政府は，マレーシア人を健康的なライフスタイルに導くために「砂糖税」の徴収を導入するなど対策を行っている(坂上 2019)。

マレーシアの肥満率の高さの要因の考察

マレーシアが東南アジア最高の肥満率を誇る要因は複数存在していると考えられる。マレーシアの肥満率が高い要因の一つには，私が前述したような油っぽい食事や砂糖の多く含まれた飲み物を頻繁に摂取していることが挙げられる。そして，二つ目は運動不足にある。日本のように公共交通機関が発達した日本とは異なり，マレーシアは車社会であるため，移動には基本的に車を活用する。また，Grab といった安価な配車サービスも充実しており，目的地にほとんど歩くことなく移動するのが一般的となっている。そのため，人々の間で運動をする機会がほとんどなく，運動不足が国民の間で蔓延していると考えられる。

民族ごとの肥満率の違い

以上から，マレーシアは肥満になりやすい要素が複数存在していることが分かった。しかし，私はそのような要素があることを認識していたものの，実際にマレーシアの肥満率がそこまで高いとは思っていなかった。なぜなら，観光地やショッピングモールなどの私たちが向かった場所の多くで中華マレーシア人を見かけることが多かったが，その人達は日本の標準的な人と変わらない体型であった。このことから，私は多民族国家のマレーシアにおいては民族ごとに肥満率に差があるのではないかと考えた。表 1 はマレーシアのコタキナバルという都市で大学生を対象に行った調査である(佐井・Kaur　2016)。表 1 を見ると，マレー系の BMI(Body Mass Index)が一番高くなっていて，カダザンドゥスン(マレーシア，サバ州における先住民族)，中華系，インド系という順番で BMI が高くなっている。

表 1. コタキナバルとカンガーにおける調査参加者の人口統計情報

調査地	民族	N	(男性, 女性)	年齢 平均（±SD） [最小，最大]	身長（cm） 平均 （±SD）	体重（kg） 平均 （±SD）	BMI 平均 （±SD）
コタキナバル							
	華人系	41	20, 21	21 (±0.93) [19, 24]	166.9 (±9.57)	57.6 (±9.25)	20.7 (±2.56)
	マレー系	29	9, 20	21.9 (±3.07) [18, 35]	159.7 (±12.0)	62.2 (±23.8)	24.3 (±7.54)
	インド系	2	1, 1	22.0 (±1.85) [21, 23]	169.0 (±8.49)	55.5 (±2.12)	19.5 (±1.41)
	カダザンドゥスン	14	5, 9	21.2 (±0.7) [19, 24]	160.4 (±7.31)	50.2 (±17.9)	22.9 (±4.79)
	合計	86	35, 51	21.4 (±2.06) [18, 35]	163.5 (±10.6)	57.6 (±9.25)	22.2 (±5.32)

表 1　佐井・Kaur (2016,p6. 多民族社会マレーシアにおける
オーストロネシア諸語集団の文化的多様性・身体観と肥満 ）より

身体的価値観と肥満率の関係

それではなぜマレー系の肥満率が一番高いのだろうか。食生活やライフスタイルなども肥満率に影響を与えていると考えられるが，肥満率の違いを考察したものとして特に興味深かったものを紹介する(佐井・Kaur　2016)。それは民族ごとの身体的価値観が肥満率に関係があるというものである。以下の表 4 はマレー系の学生の BMI 区分ごとの身体的価値観，表 5 はカダザンドゥスンにおける BMI 区分ごとの身体的価値観をそれぞれ調査したものである。以下の表を見ると，BMI≧25kg/m2 の学生において自身を肥満であると思っていない人の割合，そして自身の体型に対して気にしない人の割合はマレー系の方が高いことが分かる。このことからマレー系においては肥満であっても気にしない人が周りに多いため，その影響を受けて自身の過体重を受け入れるという身体的価値観が形成されているというのである。

表 4. マレー系における調査地と BMI 区分ごとの身体的価値観
$^{*}p < 0.05$ $^{**}p < 0.01$ $^{***}p < 0.001$ by Fisher's exact test.

質問	コタキナバル		カンガー	
	BMI ≧ 25 kg/m^2 (N = 9)	BMI < 25 kg/m^2 (N = 20)	BMI≧ 25 kg/m^2 (N = 14)	BMI < 25 kg/m^2 (N = 18)
あなたは過体重、肥満だと思いますか？				
はい	6** (67%)	2** (10%)	10*** (71%)	0*** (0%)
いいえ	3** (33%)	18** (90%)	4*** (29%)	18*** (100%)
NA	0	0	0	0
あなたは自身の体型について気にしますか (body type)？				
はい	6 (67%)	18 (90%)	14 (100%)	18 (100%)
いいえ	3 (33%)	2 (10%)	0 (0%)	0 (0%)
NA	0	0	0	0
あなたは他者があなたの身体についてどう思うか気にしますか (body type)？				
はい	5 (56%)	16 (76%)	11 (79%)	14 (78%)
いいえ	4 (44%)	4 (24%)	3 (21%)	4 (22%)
NA	0	0	0	0

表 5. カダザンドゥスンにおける調査地と BMI 区分ごとの身体的価値観
$^{*}p < 0.05$ $^{**}p < 0.01$ $^{***}p < 0.001$ by Fisher's exact test.

質問	コタキナバル	
	BMI ≧ 25 kg/m^2 (N = 5)	BMI < 25 kg/m^2 (N = 9)
あなたは過体重、肥満だと思いますか？		
はい	4 (80%)	2 (22%)
いいえ	1 (20%)	7 (78%)
NA	0	0
あなたは自身の体型について気にしますか (body type)？		
はい	5 (100%)	8 (89%)
いいえ	0 (0%)	1 (11%)
NA	0	0
あなたは他者があなたの身体についてどう思うか気にしますか (body type)？		
はい	5 (100%)	8 (89%)
いいえ	0 (0%)	1 (11%)
NA	0	0

表 4（左）　佐井・Kaur (2016,p10. 多民族社会マレーシアにおける
オーストロネシア諸語集団の文化的多様性・身体観と肥満）より

表 5（右）　佐井・Kaur (2016,p11. 多民族社会マレーシアにおける
オーストロネシア諸語集団の文化的多様性・身体観と肥満）より

まとめ

私は当初，マレーシアの肥満率の高さを知って，その要因は油っぽい食事や車社会に伴う運動不足によるものだと考えていた。しかし，それではマレーシアの民族ごとの肥満率違いを説明することができず，より根本的な要因として民族ごとの身体的価値観の違いがあるようである。私は，マレーシアは多民族国家であるため，様々な民族が分け隔てなく仲良くしていると考えていたが，実際は同じ民族同士で仲良くしているシーンを見る方が圧倒的に多かった。そのため，肥満率が低い民族と肥満率が高い民族において異なる身体的価値観が形成されている可能性は十分にあると考えられる。食生活や運動習慣は意識的に変えることは可能であるが，身体的価値観は簡単に変えることができるものではない。そのため，政府としてマレーシアの肥満率を低減する政策を実施する場合は，民族ごとの身体価値観を尊重した上で，健康的なライフスタイルを促進するための手段を取る必要があるだろう。

参考文献

Malay Dragon (2023)「18 歳以上の糖尿病患者 約 390 万人」，海外情報ナビ，（2024 年 3 月 25 日取得，https://global-biz.net/southeast-asia/malaysia/diabetes-390m/）．

佐井旭（京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究科）& Nirmal Kaur（Sabah State Health Department）(2016)「多民族社会マレーシアにおけるオーストロネシア諸語集団の文化的多様性・身体観と肥満」，（2024 年 3 月 25 日取得，http://www.jsos.net/nlpapers/NL119_01-15.pdf）．

坂上大樹 (2019)「マレーシア政府，7 月 1 日から砂糖税を導入（マレーシア）」，独立行政法人農畜産業振興機構，（2024 年 3 月 25 日取得，https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002475.html）．

マレーシアの天候と人々の気質の関連性

文責：Marina S.

はじめに

マレーシアでの 3 週間は，私にとって発見の多いものとなった。その中でも，特に印象に残ったのがマレーシアの人々の性質とスコールの激しさである。マレーシアでは，おおらかで些細なことにとらわれない人々が多いように感じられた。また，マレーシアでたびたび遭遇したスコールには，マレーシアは日本とは異なる環境であることを大いに実感させられた。これらの一見相異なる事象を発見したとき，和辻哲郎（1979）の風土論が思い出された。和辻は，風土の類型によって人々の存在の仕方を説明した。マレーシアにおいても，天候がマレーシアの人々の気質に影響を与えている面があるのではないかと感じた。本稿では，人々の気質と天候の関連について考察する。

マレーシアの人々

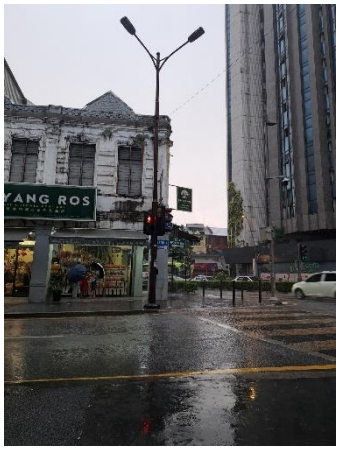
マレーシアで遭遇した出来事から見ていこう。マレーシアで印象深かった出来事として，店員の接客をまず挙げたい。マレーシアにいる間，ほぼすべての店舗でスマホをいじっている店員を見かけた。また，接客をしている時でさえも店員どうしで談笑している光景を見ることもしばしばだった。これらは私にとってとても驚きであった。日本では客に失礼になるため，ほとんど見ない光景だからである。他の出来事として，スケジュールの不正確さを挙げたい。マレーシアでは移動の際に Grab や UTM のバスを利用したが，時間通りに来ないこともあった。また，予定がかなり押したり早まったりすることもよくあることだった。これらの出来事は私にとって馴染みのないものだったが，マレーシアでは通常のことらしく，マレーシアの人々に特に気にする様子は見られなかった。これらを通じて，マレーシアの人々は良い意味で他人を気にしすぎていないように感じた。言い換えると，個々人の行動を互いに尊重し合っている結果，他人が何をしているかに干渉していないように思えた。実際，バディとの会話の中でバディから“It’s up to you”（あなた次第だよ）と言われることが多かった。この言葉はまさに，他人を尊重していることの表れだろう。

マレーシアの天候

マレーシアの天候で真っ先に挙げるべきことはスコールだろう。熱帯に属するマレーシアでは，よくスコールが発生する。スコールとは，短時間で多量の雨が降る現象のことである。研修中も，何度もスコールに遭った。特にジョホールバルでは，毎日のように午後からは大雨だった。スコールの勢いはすさまじく，日本でいう大型台風がまさに直撃している時の雨風を想像してもらえるとよいだろう。初めてスコールに遭った時は，日本人の参加者はみなそのすさまじさに驚愕していた。一方で，マレーシアの人々にとっては慣れた現象であ

るため，特に慌てる様子はなかった。雨がぽつぽつと降りだすとすぐに建物の中や屋根の下へと避難していた。そのため，スコールが本格的になる頃には街中に人を見かけることはほとんどなかった。

バスの車窓から。UTM の教室からスカラーインへ帰るときのこと。



クアラルンプールでのスコール。この時はみんなでランドリーから出られなくなった。

天候と人々の気質の関連性

マレーシアの人々が全体的に他人を気にしすぎないのは，多民族・多宗教国家であり，他人を尊重することが重要であることが大きな要因の一つだろう。しかし，それだけでなく，マレーシアの天候も影響しているのではないだろうか。私がこの考えに至ったのは，スコールに遭った際のマレーシアの人々の行動を見たことがきっかけである。スコールに遭った時，彼らには雨が降ってきたことを特に気にする様子がなかったのだ。激しい雨でスケジュールの変更を余儀なくされたのにも関わらず，である。バディも，スコール自体はうっとうしいと言っていたが，そこまで気にしていないようだった。マレーシアに滞在して実感したことだが，スコールはわりとすぐに止むが，降り始めてしまうとどうしようもない。雨風激しいため，外に出られなくなってしまう。予定を変更しなければいけなくなるのは通常のことである。その上，スコールはいつやってくるかわからないため，気にしても仕方がない。バディのスコールに対する態度には，先述のような良い意味で他人を気にしすぎない普段の彼らの態度と似たものが感じられた。この共通性は，気にしても仕方がない天候が人々の普段の態度に影響を与えていることの表れであると考える。

和辻哲郎（1979）によれば，人々の精神構造やその特質は風土から理解されうるという。そこで，マレーシアを日本と比較してみよう。日本は比較的穏やかな気候で，極端な天気になることは稀である。それゆえに台風など極端な天気に翻弄されがちであり，気にしてしまう。また，日本人は島国に暮らしているため，不和が起きた際に大陸とは異なり他の土地に逃れることが難しかった。そのため相手を気遣い失礼のないようにすることが必要であり，協調性を重んじる傾向にあるという。日本人である私にもこの傾向があるため，私はスコールの際や普段のマレーシアの人々の様子に驚いたのだろう。一方，マレーシアでは突発的か

つ予測不可能にスコールが生じることが普通であり，もはやその天気の変化を気にしない。気にしないのは他人に対しても同様である。マレーシアでは個々人のすることを認めることで尊重しているように見えた。天候に対する態度が他人に対する態度にも反映されているようだ。日本においてもマレーシアにおいても，他人を尊重していることは同じだろう。しかし，その尊重のありかたが異なっている。日本では他人との協調性を重んじることで他人を尊重する。他方，マレーシアでは他人のことを気にしすぎないことで他人を尊重する。この違いは，文化ないしそれの基盤となる天候に起因していると言えるだろう。

まとめ

本稿では，マレーシアの人々の気質と天候の関連性について考察した。あくまで人々の気質に影響する要因の一つとして可能性を提示したのであり，環境が人々の気質を決定すると主張したいわけではない。しかし，日本とは異なる環境に暮らすマレーシアの人々の振る舞いは，自然現象や人々にどう向き合っていくのかの新たな視点を提示してくれた。思えば，今まで他人やどうにもならないことを気にしすぎていた面が私にはある。マレーシアの人々の態度を見習うことで，良い意味で他人やどうにもならないことを気にしすぎることなくこれから過ごしてみたく思う。

参考文献

和辻哲郎，1979，「風土」，岩波書店.

マレーシアの喫煙事情

文責：Taiyo S.

はじめに

私は本研修のはじめ，クアラルンプール国際空港に到着する際に，「タバコ広告の記載された雑誌は没収されます」というアナウンスを聞き驚いた。マレーシアは発展途上国でタバコの規制はあまりされていないと思っていたため関心が湧いた。このレポートでは自分が目で見たマレーシアの喫煙事情を，日本と比べて考察してみたいと思う。

マレーシアと日本の喫煙

マレーシアでは道路や公園などの公共の場所での喫煙は禁止されており，2019 年からはすべての飲食店において全面禁煙となる法律が定められている（LIBRARY OF CONGRESS 2019）。ところが，マレーシアの街中を歩いていると路上でタバコを吸っている人や，飲食店のテラスで吸っている人を多く見かけた。クアラルンプールなどの都会にもいたが，ジョホールバルなどの田舎の方により多く見られた。日本も条例でほとんどの地域が歩きたばこ，路上喫煙が禁止になっているが，同じように路上喫煙をしている人が多くみられる。喫煙者の数はマレーシアの方が日本よりもはるかに多く見られたが，世界保健機構の調査によると喫煙者の割合がマレーシアは全国民の 22.5%で世界 68 位，日本は 20.1%で世界 89 位という結果で大差は見られなかった（WHO 2023）。これは，マレーシアでは日本の喫煙所のような区切られた喫煙可能スペースが 1 つも見えなかったことが一つの原因になっていると考える。マレーシアでは，左写真のようにポールが立っていて，仕切りはないがポール付近が喫煙所とされているスペースや，右写真のようなごみ箱と灰皿が複合されたものの周りが喫煙所とされているものが多かった。

喫煙所の看板

ゴミ箱と灰皿のハイブリット

マレーシアではイスラム教徒が約 60%を占めている。イスラム教はタバコが禁止されているイメージであったが，現地のイスラム教徒に聞くと禁止行為ではなく，多くのイスラム教徒が吸っているとのことだった。イスラム教では，日本人がストレスを発散する方法の 1

つである飲酒が禁止されているため，ストレス発散のためにタバコを吸う人が多いのではないかと考える。また，最近ではタバコよりも害が少ないベイプを吸う人が増えているそうで，日本でも同じような流れがみられる。

マレーシアと日本の喫煙の未来のために

マレーシア政府は 2005 年以降に生まれた世代に，生涯にわたりたばこ製品の販売を禁止する施策を出しており，将来の国全体での全面禁煙に向けて進んでいる（CNA 2022）。マレーシア現地の人に聞いたところ「数年前はマレーシア人のほとんどがタバコを吸っていたが，最近では喫煙者が減ってきている」と喫煙者の減少がみられている。しかしながら，まだマレーシアでは前述したように飲食店での禁煙や路上禁煙も守られていないのが現状である。マレーシア政府はより警備を強化し罰金を取る，罰金の額を増やし恐怖心を煽るといった，より実践的な取り組みをした方が良いと考える。日本でも望まない受動喫煙を減らすために喫煙所が多く減らされているが，それによって路上喫煙が増えて逆効果になっているため，喫煙所を適正個数作った方が良いように思う。両国ともこのままでは何も進展せずよりよい未来が待っていないため，喫煙問題により包括的で効果的な対策を講じた方が良い。

おわりに

マレーシアでは国内でのたばこの廃止に向けて政府が様々な法整備，施策を行っている。しかし，現状ではその法を守らず路上喫煙や飲食店内での喫煙を続ける者がたくさんいた。日本でも路上喫煙をする人は後を絶たず良い状況とは言えないだろう。双方の国も国民の姿勢を正しそれぞれの国の未来をよりよくするためにも，より実践的な取り組みを行うべきである。

参考文献

Library Of Congress, 2019, 「Malaysia: Ban on Smoking in All Eateries Comes into Effect」, (2024 年 3 月 26 日取得, https://www.loc.gov/item/global-legal-monitor/2019-01-17/malaysia-ban-on-smoking-in-all-eateries-comes-into-effect/)

WHO,2023, 「World Health Statistics 2023」, (2024 年 3 月 26 日取得, https://data.who.int/)

CNA, 2022 「Malaysia to introduce law to ban smoking for people born after 2005: Khairy」, (2024 年 3 月 26 日取得, https://www.channelnewsasia.com/asia/malaysia-law-ban-smoking-generation-born-after-2005-khairy-2504306)

食事から見るマレーシアの多様性

文責：Nanaho T.

はじめに

本研修に参加してマレーシアで生活する中で，様々な施設への訪問や SDGs 関連の講義や発表，現地のバディとの交流などを通じて多くのことを学び，新しい発見を得たが，特に印象に残っているのはとてもおいしかったマレーシアでの食事である。マレーシアという国を説明する際に「多民族国家」という言葉がよく登場し，渡航前からマレーシアの多様性について学んでいたが，現地に行って初めて，身近な食事も多民族国家の影響を大きく受けていることがわかり，興味をもった。結論から述べると，マレーシアの食事や食文化は多様性と融合性を通じて国の文化と歴史を象徴していることがわかった。

食事中の会話

本研修では，基本的に現地のバディと一緒に食事をとっていた。その食事中の会話の中でマレーシアの多文化を実感する出来事があった。マラッカでラクサという，スパイスやハーブなどの味付けがされているカレー麺を食べたときに，私は辛すぎて泣いてしまったのだが，バディは涼しげな顔で食べていた。「やっぱりマレーシア料理の辛さに慣れているのだね」と言ったら，「ラクサには色々な種類があって，これはニョニャラクサといって，正確にはマレーシア料理ではないよ」と言われた。ラクサに色々な種類があることも知らず，また，有名なマレーシア料理のひとつだと思っていたため，これが正確にはマレーシア料理ではないと初めて知り非常に驚いた。

ラクサ

マレーシアの多民族社会と食文化

マレーシアは多民族国家であり，マレー系約 70%，中華系約 23%，インド系約 7%と異なる民族が共存する独特の社会構造を持っている（外務省 2024）。食文化は，この多様性を反映しており，マレー，華人，インド人などの民族がそれぞれ独自の料理を持っている。

たとえば，マレー料理はスパイスを多用し，ココナッツミルクを使った料理が特徴的である。下の左の写真のナシレマはマレー料理の一例で，ココナッツミルクで炊いたご飯にチリソースを混ぜ具材を盛りつけた料理である。一方，中華料理は漢方や薬草を用いるものや焼き物，炒め物が多く，麺や点心が有名である。下の真ん中の写真は，漢方や薬草の入ったスープで豚肉を煮込んだものである。また，インド料理はカレーやナンなどが代表的であり，スパイスの効いた料理が特徴的だ。下の右の写真はロティチャナイという小麦粉を薄く延ばして焼いたものでカレーにつけて食べることが多い。
これは，移民や交易の歴史，そして異なる文化が融合した結果であり，食事を通じてその多様性が明確に表れていて，それぞれの民族が持つ独自の食習慣や料理がマレーシアの食事を豊かにしている。

マレーシアの食べ物

宗教と食文化

また，マレーシアでは信仰している宗教もさまざまであり，イスラム教が 64%，仏教が 19%，キリスト教が 9%，ヒンドゥー教が 6%，その他 2%である（外務省 2024）。宗教は食文化に深く関わっており，イスラム教徒がハラール食品に従う一方，中華系やインド系の仏教，ヒンドゥー教の信者もそれぞれの教義に基づいた食事を実践している。この宗教的な背景によって，マレーシアの食文化に多様性をもたらしている。また，実際にバディとご飯を食べるときはそれぞれ自分の食べたいものを食べ，お互いの信仰や考えを尊重し合っている姿が見受けられた。

歴史的な影響と食の融合

マレーシアは，様々な植民地支配や交易の影響を受けてきた歴史がある。ポルトガル，オランダ，イギリスなどの植民地支配によって，それぞれの文化や食の要素が持ち込まれ，マレーシアの食文化に大きな影響を与えた。特に，15 世紀ごろマラッカ王国の成立後に交易が拡大し，交易に関わる中華系の商人を中心にマレーシアに移住し，定住した。その後も 19 世紀にイギリスの統治が本格化して大量の中国人労働者が流入し，各地に移住し定着した（武蔵野学院 n.d.）。マレーシアでは，中華系と他の民族との混血の子孫を「ババ・ニョニャ」と呼ぶ。そこから Nonya 料理と呼ばれる，中国料理とマレー料理を融合させた料理のジャンルができた。たとえば，バディとの会話で出た「ニョニャラクサ」もそのひとつで，中華料理をベースにマレーシアの香辛料やハーブで味付けをした料理である。このように，

マレーと中国の文化が融合した食事はさまざまあり，これはマレーシアの多様性と融合の象徴といえる。

おわりに

マレーシアが多文化国家であることは渡航前から知ってはいたが，実際に研修に参加して毎日食事をとる中で，マレーシアの食事や食文化は，異なる民族や宗教，歴史的背景が相互に影響し合いながら形成され，国の文化と歴史の象徴となっていることを実感した。マレーシアの食が持つこの多様性と融合性をより深く理解し継承していくことは重要なことである。私たち日本人が直接的にマレーシア料理に深く関わることは少ないが，このように様々な要素が組み合わさってできた食文化が存在することを理解することで，異文化間の理解や交流を促進する役割を果たすのではないかと考えた。

参考文献

外務省，2024，「マレーシア基礎データ」，（2024 年 3 月 25 日取得 https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/malaysia/data.html）．

武蔵野学院，「マレーシアにおける華人の移住と定住の歴史過程」（2024 年 3 月 25 日取得，https://www.musashino.ac.jp/mggs/wp/wp-content/uploads/2022/03/38a9566f2eefc1b83d384b1def37a650.pdf）．

外に出て初めて気がつく「当たり前」

——三和土の有無を通して——

文責：Yuka B.

テーマ設定のきっかけ

留学前は気にしていなかったが，現地に行ったからこそ気がついたことを本稿のテーマにした。それは，家の中において靴を脱ぎ履きする場所としての三和土(たたき)についてである。マレーシアも日本と同様，家では靴を脱ぐ文化があるが，三和土の無い家が多いという。そこで研修の経験も踏まえながらその理由を考察していく。また本稿では「玄関の土足で入る部分」（東建コーポレーション 2024）を三和土と表記する[1]。

今回滞在した場所

本研修で滞在したのは，ホテル 2 か所とホームステイ，学生寮である。日本でもホテルの部屋に必ずしも三和土があるわけではないため単純にマレーシアの文化としてこれらを比較できないが，三和土があったのはクアラルンプールのホテルのみである。このホテルは外国人観光客が多い立地のため，マレーシア以外の文化に配慮したのではないかと考える。マラッカのホテルは床が一面タイル張りだったため室内も靴を履き，ククップのホームステイでは屋外に靴を並べ，学生寮では室内のシューズラックに靴を置いて過ごした。

Kukup の滞在先の玄関(撮影日 2024 年 3 月 2 日)
ガラス張りのドアの外に靴を置いている

[1] タイル張りなどの場合も三和土と言ったりする。（東建コーポレーション 2024）

一般の家庭はどうなのか

6 人のバディに各自の自宅について質問した。そのうち 1 人は三和土があると答えたがそれ以外の 5 人は三和土のない戸建てに住んでいるとのことであった。日本で暮らしてきた私からすると靴を外に置いておくことに驚いた。そのような私の反応を見てバディは続けて「マレーシア人は靴が外にあっても気にしないし，誰も盗らない。盗るのは犬だけ！」とも話した。またマレーシアは雨が多いが，屋外に置いた靴が濡れることは気にならないのかという質問に対しても「そのうち乾くし，あまり気にしない」と答えた。さらにマレーシアの戸建ては一般的にガレージ付きで，ガレージの横に置く場合が多いことも教えてくれた。一連の話を聞いて，考え方や行動になぜ違いがでるのかが気になった。それまで家で靴を脱ぐか脱がないかの二項対立で考えており，靴を脱ぐなら家の中に靴を置くものだと思っていたためどのような要因が，マレーシアと日本の文化に違いをもたらしているのか考えることにした。

考察：なぜマレーシアには靴を脱ぐ場としての三和土がないのか

マレーシアには三和土が無い場合がある理由を考察し，気候・歴史 2 つの観点からまとめるが，以下に述べるのはあくまで私の推測の域を出ないものである。まず気候面では，雨量や気温が関係していると考える。マレーシアは一年に約 5～6 か月の雨季が存在するが（マレーシア政府観光局 2024），2020 年におけるマレーシアの年間降水量は 2875mm である（GLOBAL NOTE 2023）。同年の年間降水量が 1668mm の日本(GLOBAL NOTE 2023)に比べて長期的に頻繁に雨が降るならば，毎回濡れることを気にしていては生活に支障がでるため，気にせず屋外に置くのだろう。加えてマレーシアは平均気温が約 27℃で一年を通して気温変化はあまりない（マレーシア政府観光局 2024）。つまり，どの季節でも濡れた靴が乾きやすいのである。次に歴史面からの考察である。マレーシアの伝統家屋に暮らす人々は家に入る前に足を水で洗う習慣を持っていた（The Malay Cultural Village 2024）。その名残として，彼らは玄関の前で靴を脱いでそのまま外に置いておくことに馴染んでいるのではないだろうか。

まとめ

渡航前授業でマレーシアについて様々な情報を調べたが，実際に現地に行ったからこその気付きや得られた着眼点があり，研修を通して体験することの有意義さを実感した。渡航前に個人で情報収集する際はインターネットを利用していたが，インターネットで見つかる情報は観光地や食事，一般化したマレーシア人の人柄など表面的なものが多かったと研修後の今となっては思う。もちろんブログなどを通して現地に在住している人の声も聞けるが，やはり自分の肌で感じたマレーシアの方がはるかに魅力的であった。また本稿で取り上げた三和土のように，渡航前は当たり前だと思って事前に調べなかったことが現地に行って当たり前でないことに気が付くなど自分の思考の狭さを実感した。現代はインターネ

ットで多くの知識を調べられるが，あくまで検索できるのは自分の思考の範囲内の事柄である。それを意識してこれからの大学生活でも様々な経験を重ね，思考の幅を広げていきたい。

参考文献

GLOBAL NOTE，2024，「世界の年間降水量　国別ランキング」（2024 年 3 月 27 日取得，https://www.globalnote.jp/post-816.html）

マレーシア政府観光，2024，「マレーシア基本情報/旅の基本情報」（2024 年 3 月 16 日取得，https://www.tourismmalaysia.or.jp/basicinfo/02_travelinfo.html）

The Malay Cultural Village，2024 年 2 月 26 日　ツアー内容より

東建コーポレーション，2024，建築用語辞書　（2024 年 3 月 16 日取得，https://www.token.co.jp/estate/useful/archipedia/word.php?jid=00016&wid=29753&wdid=01）

採光デザインを通じたSDGsの実践的取り組みと生活の快適さの両立

文責：Mai M.

マレーシアでの研修を経験し，私は自分自身にとって重要な気づきを得た。特に，現代社会における持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）達成への道のりに必要なアプローチに関する理解を深め，それらの取り組みに対する創造性を実感することができたことが印象的だった。SDGsをテーマにした研修と聞けば，この感想はよくあるものに思えるかもしれない。しかし，マレーシアの大学やジョホール州政府の施設を訪れた際，目の当たりにしたのは，ただの建築物ではなく，SDGsへの洞察と創造性が融合した採光デザインだった。自然光が室内を照らし出し，それによって生まれる明るく快適な空間に，私は深く感銘を受けた。

この体験を通じて最も私にとって価値のある学びは，SDGsの達成を目指すことと，私たちの生活の快適さを向上させることが同時に可能であるということを知り得たことだったと思う。採光を活かした建築デザインは，SDGsを意識するだけでなく，利用者の快適性や建築の美しさも追求していた。このような創造的な取り組みは，SDGsの目標達成を目指しながらも，生活の質や美学を損なわずに実現するためのアイデアに満ちていた。このエッセイでは，見学の中で直接目にした採光の工夫が，どのように研修で学び得たSDGsの目標と生活の質の向上に寄与しているかを，具体的に紹介していく。

1. 採光の特徴，有用性と問題点

そもそも採光とは何か。採光とは，建物内に自然光を採り入れることである。この自然光を利用することで，人工照明の消費エネルギーを減少させる省エネルギーの効果が期待できる。加えて自然光が，物の色の見え方に影響を与える演色性をもつこと，人の生体リズムを整えることができることから，建物を使用する人の快適性や知的生産性を向上させることができる（菊池ら 2009）。これらの長所は，SDGsの目標7「エネルギーをみんなに，そしてクリーンに」に当てはまったり，人々のQuality of Life (QOL)を向上させるというThe United Nations Environment Programme (UNEP)の定めるSustainable lifestylesの形に添っていたりする（UNEP n.d.）。一方で積極的な採光をすると，その日射による発熱を考慮し，空調により温熱環境を整えるためにエネルギーを消費する（菊池ら 2009）。またガラスを多用したビルなどの建物の増加で，光が眩しすぎる空間があるという問題もある（大和ハウス工業株式会社 n.d.）。

2. 研修で知り得た採光の具体例

最初に，クアラルンプール郊外にある Xiamen 大学マレーシア分校の図書館訪問は，SDGs の目標達成と生活の質向上への貢献における採光の価値を体感した絶好の機会だった。この図書館では，天井窓と吹き抜けを巧みに活用しており，自然光が建物の各階に届くように設計されていた（写真 1）。昼間，この自然光により人工照明の必要性は減少し，エネルギーの節約に直結している。これは SDGs の目標 7「エネルギーをみんなに，そしてクリーンに」への明確な寄与である。

さらに，吹き抜けに設置された勉強スペース（写真 2）では，学生たちが自然光の下で学ぶことができる。ここでは，天井の窓からの豊富な太陽光により，快適で明るい勉強環境が提供されていて，これは生活の質，特に学生の勉強へのモチベーションや知的生産性の向上に貢献しているだろう。一方，図書館の本は，直接太陽光が当たらない適切な環境下で保管されており，空調によって温度や湿度も適切に管理されている。これにより，資源の保護という別の SDGs の側面にも貢献している。

このように Xiamen 大学マレーシア分校の図書館は，採光を通じて SDGs の目標達成と生活の質の向上の両方を同時に推進している素晴らしい例であった。自然光を最大限に活用することで，エネルギー消費を削減し，快適な学習環境を提供することが可能になっていたのだ。

写真 1

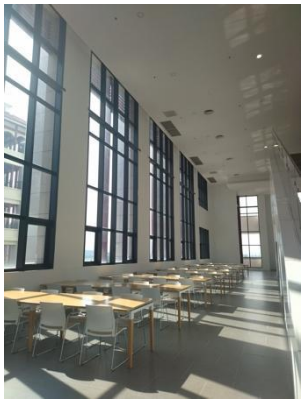


写真 2

次に，ジョホールの州政府機能を担う施設である KOTA ISKANDAR を挙げる。この建物は，州議事堂や政府官庁などの建築美が，現代イスラム建築を象徴するものであるとされている（マレーシア政府観光局 n.d.）。特に，建物のデザインは，アート性と機能性が見事に融合していて，採光を通じてさまざまな利点をもたらしている。

まず，写真 3，4 に写っている壁は，建物の内外を仕切る役割を果たしていた。この壁は，外部からの自然光を効果的に取り入れると同時に，雨水が内部に侵入しないようにする工夫がなされていた。空気口となる穴に，室内から室外にかけて傾斜がつけられているこのデ

ザインにより，外の雨粒が斜面に当たって弾かれ，外で雨が降っていても室内に雨が入らず，内部の湿度が適切に保たれるのである。

また，ジョホール議事堂の天井窓（写真 5）も，デザイン性と機能性を持っている。この窓は，ジョホールの特産品であるマンゴーをモチーフにしており，同時に議事堂内に豊富な自然光を取り入れている。ただし，窓が天井にあるために，自然光が過剰に入り込み，不快感や室内の温度上昇の可能性がある。しかし，最新技術が導入された二重窓により，余分な光や熱を反射させることで，快適な環境を維持する工夫が施されていた。これにより，生活の質の向上とともに，エネルギーの効率的な利用が促進され，SDGs の目標達成に貢献していた。

写真 3

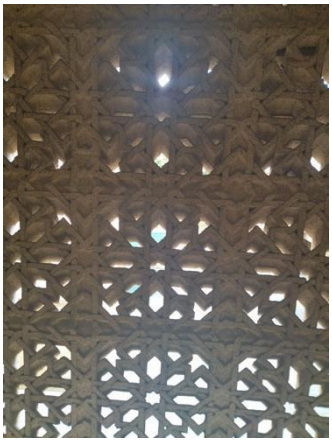


写真 4

写真 5

3. まとめ

今回の研修を通して得られた貴重な経験の中で，特に自分の財産となるのは，SDGs の実践的な取り組みを身近で感じられたことだと考える。SDGs の採光はその一例であり，人々の生活の快適性や建物の美しさを追求しつつ，同時に SDGs に真摯に向き合うことができる取り組みである。SDGs など未来への社会のために，現代を生きる自分たちが我慢しなければならないという義務感に縛られるのではなく，持続可能な未来を構築するために採光が持つ潜在的な価値を再確認し，その実践が身近で，環境面だけでなく日常生活においてでも良い影響をもたらすことを実感することができた研修であった。

参考文献

菊池 卓郎，樋口 祥明，井川 憲男，2009，「採光が省エネルギー効果と室内環境に与える影響に関する計算検討」『日本建築学会環境系論文集』74(636): 133-139（2024 年 3 月 4 日取得，https://www.jstage.jst.go.jp/article/aije/74/636/74_636_133/_pdf/-char/ja）.

United Nations Development Programme (UNDP), 2024," Sustainable Development Goals", (Retrieved March 4, 2024, https://www.undp.org/sustainable-development-goals).

The United Nations Environment Programme (UNEP), 2024, "Sustainable lifestyles", (Retrieved March 4, 2024, https://www.unep.org/explore-topics/resource-efficiency/what-we-do/sustainable-lifestyles#:~:text=Sustainable%20Lifestyles%20are%20considered%20as%20ways%20of%20living%2C,all.%20Empowering%20people%20to%20live%20better%20and%20lighter).

大和ハウス工業株式会社，2024，「いつでも，どこでも然光があふれる，心地いい建物」，総合技術研究所，研究員のセカイ，（2024 年 3 月 4 日取得，https://www.daiwahouse.co.jp/lab/story/02/）．

マレーシア政府観光局，2024，「ジョホール」，エリア情報，（2024 年 3 月 21 日取得，https://www.tourismmalaysia.or.jp/area/johor_01.html）．

なぜ日本人は長期滞在先としてマレーシアを選ぶのか

文責：Masahiro M.

はじめに

本研修に参加するにあたり，海外渡航経験がほとんどない筆者にとっては，現地の生活にうまくなじめるかという点は一つの懸念事項であった。民族構成や宗教，文化や慣習など，日本とは大きく異なる要素が多かったためだ。しかしながら，3 週間マレーシアで生活を送るなかで，マレーシアは予想以上に「過ごしやすい」国であったと筆者には感じられた。そして，私は帰国後，長期滞在希望国ランキングにおいて，2006 年から 2023 年に至るまで，マレーシアが首位を取り続けていることを知った（ロングステイ財団 2023）。私だけでなく多くの日本人もまたマレーシアを「過ごしやすい」国だと考えたのであろう。そこで，このエッセイでは，なぜ多くの日本人が長期滞在国としてマレーシアを希望しているのかについて，自身の体験を踏まえながら考察していきたい。

様々な要因に関する考察

筆者がマレーシアで生活を送るなかで，「過ごしやすい」と感じられた要素のうち，日本人によるマレーシアでの長期滞在を主に後押ししていると考えたのは，物価，言語，治安の３点である。このセクションでは，これらの３つの要素についてそれぞれ説明しつつ，長期滞在者の誘致のためにマレーシアが行っている政策についても確認していく。

筆者がマレーシアでの生活を送るなかで，特に印象に残ったのは物価の安さである。マレーシアの為替レートは 1RM＝約 32.1 円（2024 年 3 月 26 日時点みずほ銀行参考相場）となっており，日本の物価のおおよそ 3 分の 1 程度である。マラッカ滞在時に，マレーシアの伝統的な朝食であるカヤトーストを食べるために地元のお店を訪れたのであるが，そこでの出費がドリンク付きで 2～3RM ほどで済んだことには驚きであった。このような物価の安さは費用を抑えてくれるという点で，長期滞在には好条件であると言える。

つづいては言語について取り上げたい。マレーシアの公用語はマレー語であるが，観光地やビジネスシーンなど英語も多くの場面で用いられている（マレーシア政府観光局 2024）。実際，レストランの店員やグラブ（民間による配車サービス）のドライバーに至るまで英語での意思疎通が可能な場合が多く，商品の説明文などもマレー語に加えて英語表記も合わせて記載されているなど，日常生活のさまざまな状況において，英語で対応が可能であることが印象的であった。言語が日常生活と切っても切り離せない関係にある以上，言語は「過ごしやすさ」の重要なひとつの要因と言えるだろう。

治安の良さも現地で安心して生活を送るうえでは，重要な要素となる。世界各国の「平和度」を測る指標である世界平和指数（GPI）をみてみると，マレーシアのスコアは，163 か国のなかで 19 位であり，アジアの中ではシンガポールや日本に次いで 3 位という結果が出

ている（IEP 2023）。また，外務省の危険情報を見ても，サバ州東部の一部地域を除き，主要都市を含めたほとんどの地域では危険レベルの設定はされていない（2024 年 3 月 26 日現在）。このようなことを踏まえても，マレーシアの治安は比較的良いと言えるのではないだろうか。実際，私が滞在した経験からも，犯罪に巻き込まれるような危険を感じることはなかったうえ，一度レジャー施設に腕時計を忘れたことがあったが，無事に盗られることなく戻ってきた。

マレーシア政府が観光省に大きな予算をつけて，ロングステイ査証により中国や日本などの富裕層の誘致に努めていることも，日本人のマレーシアの長期滞在を促す大きな要因として考えらえる（古川 2013）。この具体的な政策が MM2H（マレーシア・マイ・セカンドホーム）プログラムである。このプログラムは，マレーシアでの長期滞在希望者は，年齢や資産などの所定の条件を満たし申請が許可されれば，長期滞在ビザが発行されるというものである（古川 2013）。2021 年の同プログラムの改正により申請基準が厳しくなったものの，日本人のマレーシアでの長期滞在を後押ししたことは十分に考えられるだろう。

まとめ

以上述べてきたように，多くの日本人がマレーシアを長期滞在先として選ぶ背景には，物価，言語，治安という側面から見た「過ごしやすさ」と，MM2H プログラムによる長期滞在ビザ取得の容易さが，主な要因として存在すると考えられる。この他の要素に関して少し触れると，マレーシアは熱帯雨林気候ということもあり，暑さに関しては滞在するうえでネックになることも考えられるが，日本の真夏ほどの暑さではないため，個人的には比較的過ごしやすく感じた。一方で，食事に関しては，辛いもの・甘いものという両極端に感じられることが多く，個人経営のお店などを中心に衛生面に不安を抱く面も否定できないため，辛いものが苦手な人や潔癖症な人などにとっては苦労が多いと言えるかもしれない。このように，多面的に見れば，やはり人によって一長一短はあるだろう。また，最近の状況を見てみると，2023 年 12 月には，マレーシア観光芸術文化省によって，2021 年度の改正により条件が厳しくなった MM2H プログラムが見直され，条件緩和が発表されることがあった（EdgeProp 2023）。このことや先に挙げた過ごしやすさの諸要因を踏まえると，やはり日本人によるマレーシアでの長期滞在の動きは，今後も維持または促進されるのではないかと思われる。

参考文献

EdgeProp,2023,“ Govt to review MM2H’s terms and conditions” (Retrieved March 26,2024, https://www.edgeprop.my/content/1905909/govt-review-mm2h%E2%80%99s-terms-and-conditions)

IEP,2023,“GLOBAL PEACE INDEX 2023” (Retrieved March 26,2024, https://www.visionofhumanity.org/wp-content/uploads/2023/06/GPI-2023-Web.pdf)

外務省，2024，「危険情報詳細」，外務省海外安全ホームページ（2024 年 3 月 26 日取得，https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pchazardspecificinfo_2024T019.html#ad-image-0）

古川彰洋，2013，『ツーリズムの視点で「ロングステイ」を概観する――滞在型観光により，国内地域活性化を』，JTB 総合研究所公式ホームページ（2024 年 3 月 26 日取得，https://www.tourism.jp/tourism-database/column/2013/11/tourism-longstay/）

マレーシア政府観光局，2024，「マレーシア基本情報」，マレーシア政府観光局公式ホームページ（2024 年 3 月 26 日取得，https://www.tourismmalaysia.or.jp/basicinfo/01_gaiyo.html）

みずほ銀行，2024，「外国為替公示相場」，みずほ銀行ホームページ，（2024 年 3 月 26 日取得，https://www.mizuhobank.co.jp/market/quote/index.html）

ロングステイ財団，2023，『「ロングステイ希望国・地域 2023」トップ 10 を発表』，ロングステイ財団ホームページ，（2024 年 3 月 26 日取得，https://www.longstay.or.jp/newslist/open/entry-4317.html/tpl/entry_responsive_os.html）

次回研修者のための Q&A

文責：Taiyo

＜この研修に応募した理由は？＞

応募理由は参加者によって様々である。自分の英語力を試したいから参加した人や，海外に行ったことがないから興味があって参加した人，SDGs について学んでみたいから参加したい人などがいた。どんな理由でも参加したい熱量があればぜひ参加して欲しい。

＜どのぐらいの英語力が必要か？＞

一橋に入学できる英語力があれば十分である。筆者も出発前には現地の人と英語でコミュニケーションが取れるか不安だったが，話したい気持ちとパッションで困ることなく会話することができた。わからない単語やスラングはバディや他の参加者が教えてくれるので安心してよい。研修前にオンライン英会話に入会した人もいるので，不安な場合はやってみると良いと思う。

＜料理はどうであったか？＞

食べたことのない味や食感の食べ物を食べることができてとても良い経験になった。筆者は辛い食べ物，脂っこい食べ物が苦手で行く前は非常に不安だったが，バディが辛くない食べ物，ヘルシーな食べ物を教えてくれるので心配する必要はない。

＜お金はどれくらい必要か？＞

カードと現金合わせて 5~8 万ぐらいあれば十分であるが，お土産をたくさん買う人はもう少し持って行っても良い。現金は割と多めに持って行った方が良い。現地では割り勘をする機会がたくさんあるので現金をそれなりに多く持っていくと困ることはないが，持ち歩くと危険なのでキャッシュカードの準備をしておくとなお良い。

＜スマホのネット接続はどのようにしたか？＞

eSIM を日本で買っていくのが良いと思う。参加者の中には Wi-Fi ルーターを借りている人や，ドコモの ahamo のプランを契約していて海外でも携帯が使える人，現地に着いてから SIM を買っていた人がいた。日本で SIM を買うのが一番安上がりで心配なく使えるのでオススメである。行きたい観光地を調べる際，Wi-Fi のない環境でスマホを使うこともあるので，ギガが少ないと困るが，20 ギガあれば充分である。

＜現地の治安は？＞

気にせず過ごすことができるほど治安が良い！どこに行くにしてもバディと一緒に行動するため，問題も特に起きない。フリータイムがあるので，マレーシアに着く前から行きたい場所をリサーチしておくとよい。

＜現地で泊まった宿はどうであったか？＞

クアラルンプール，マラッカではホテルに泊まった。2 人 1 部屋で非常に清潔であり，エアコンからの水漏れがあったこと以外は文句無しである。ジョホールバルでは Scholar's Inn と呼ばれる学生寮に 2 週間泊まる。4 人 1 部屋で十分の広さがあり，トカゲや猿などの生き物もいたが非常に快適であった。水，インスタントコーヒー，マグカップ，コップ，電気ケトル，冷蔵庫，石鹸，タオル，トイレットペーパー，箱ティッシュなどはあるがドライヤーや電子レンジはないので注意をしてほしい。

←Scholar's Inn の部屋の写真

＜持って行った方がいい，忘れがちなものは何か？＞

A. 以下のものを持っていくとよい。

- トイレットペーパー：宿にはトイレットペーパーがあるが，レストランや街中にある公衆トイレ，学校内のトイレにはトイレットペーパーがないことが多いのでこのアイテムは必須である。

- ビーチサンダル：宿ではシャワーとトイレに段差がなく，トイレも水浸しになっていることが多いため，サンダルがあると足が濡れずに済む。

- ドライヤー：泊まる宿にはないと思っておいた方が良い。

- ウェットティッシュ, ポケットティッシュ：外食をする時に提供されることは基本的にないため，自分で持っておくとよい。

- カードゲーム：後半の 2 週間は暇な時間が多い。そのためトランプや UNO などのカードゲームを持っていくと，有意義な自由時間を過ごせるだろう。

- 洗濯ネット：コインランドリーで洗濯する時に友達と一緒に回すことがあるので，ないと洗濯物が混ざってしまい困る。

- インスタントのご飯, 味噌汁：夜に小腹がすいた時に食べることができる。また，バディに日本食の紹介で食べさせている人もいた。

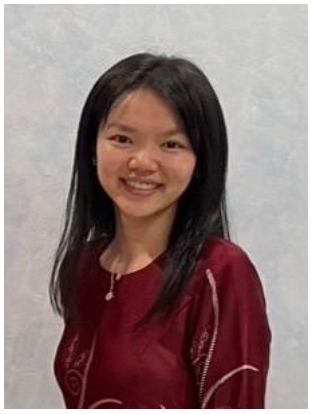
- 使い捨ての割りばし, スプーン：テイクアウト用に持っておくと便利。

これ以外にも虫よけスプレーや日焼け止めなどあった方が良いものもあるが，大半のものは現地（コンビニや EON など）で調達できるので安心してほしい。

バディ紹介

Jun Kiat

しっかり者で面倒見の良いバディのリーダー。どんなに疲れていても日々の連絡を欠かさず，私たちの研修を支えてくれた。常に手にスマホを持っており予定や時間を確認してくれているのかと思いきや，見ていたのは猫ミーム…！猫といえばキュウリを見て飛び上がる猫の動画が有名だが，彼もキュウリが苦手。



Yan Yee

かっこいいとかわいいを兼ね備えた Yan Yee。博識であり，マレーシアの歴史や文化を聞けば丁寧に教えてくれたり，プレゼンで役立つ資料を共有してくれたり，頼りになるお姉さん的存在。前回のリーダーということもあり，JK を陰で引っ張っていた。そんなかっこいい姿とは裏腹に，恋バナで誰よりも楽しそうにするなどかわいい一面もある。

Ying Ying

とても優しいスマートガール！マレーシアに関する質問や，プレゼンの準備の時に相談などに丁寧に答えてくれて，本当に感謝している…！そんな頼りになるキュートな笑顔を見せてくれる彼女は，誰よりも暑さや辛さに強い！？東南アジアの辛い名物料理，ラクサを辛くないと言って食べていた。

Bay

高身長で笑顔が素敵なナイスガイである。同じ班のバディである Ying Ying が躓いたときすぐに手を差し伸べ，ティッシュを渡す紳士的な一面もある。だが，私が日本で英語を教えているといったら大爆笑し，私の英語力を間接的に馬鹿にするユーモアも備えている。

Umar

敬虔なイスラム教徒である Umar。センター分けがきまっていて，礼拝で毎回シャワーを浴びるのにも関わらずなぜか綺麗にセットされている。冗談を言うのが大好きで，私たちをいじっている時の少年のような無邪気な笑顔がたまらなく可愛かった。

Chai

普段は超絶多忙な生活を送っているという彼女，コメントの辛辣さはおそらくバディ 1。その辛辣さにはまる人も。一方，優しい人でいつも私たちを気にかけてくれ，困ったときは的確なアドバイスをくれた。Cultural night での民族衣装姿はとても似合っていて素敵だった。

Goh

スーパーシゴデキリーダーでめちゃくちゃ返信が早い&丁寧なことで有名。観光地でプロレベルのガイドをしてくれたり，日本語や日本文化（なぜ知ってるのか謎なレベルも含む）にも造詣が深かったりと莫大な知識をもつが，I know everything とおどけるユーモアも待ち合わせている。

Kam　Man

みんなに愛されているコミュ力女子 Kamman。みんなでいる時に Kamman がいると話題に困ることなくみんな助けられた。特に恋愛話が大好きで数えきれないほど恋愛の話をした。何回か彼氏とデートに行くため姿を消していた。

Hadif

こちらのお願いに嫌な顔せずいつも付き合ってくれた優しいクールガイ。人見知りな面もあり，最初は会話に積極的ではなかったが，徐々に打ち解けてくれたのが個人的に嬉しかった。また，彼がおすすめする食べ物は基本美味しいということで定評あり。

Chun Keat

みんなに CK と呼ばれていた。バディの中で最年長という噂もありクールガイだが，意外とお茶目な 1 面がある。ジョホールバル最終日のディナーでは豪快な乾杯に巻き込まれそうになっていた。とても賢く，コンピューターに強い。

編集後記

- ここまで報告書を読んで頂きありがとうございます。私は本研修を「英語の能力を上達させる機会」という位置付けで渡航前授業などに臨んでいました。しかし実際にマレーシアに到着し，3週間住むことによって，コミュニケーションにおいて言語の壁だけでは説明できない困難も存在することを痛感しました。宗教の違い，マナーの違い，つまり大きく言えば文化の違いは，参加者それぞれの原稿からも読み取れると思います。そのような壁に直面することで，今後社会で生きていく上でコミュニケーションの場において必要となる理解力を養うことができました。この場をお借りして研修に関わった全ての方にお礼申し上げます。また，この報告書が本年度の当プログラム関係者の皆様にとって，あるいは次年度以降の参加者にとって，参考や理解の手助けとなれば幸いです。(編集責任者　Kodai. K)

- マレーシア独特のダイナミックさを，様々な人との交流や現地での生活を通して肌で感じられたことは非常に貴重な体験となりました。私を含めすべての参加者にとって，異文化交流について深く考える良い契機になったと思います。毎日が新しいことで溢れていた刺激的な3週間でしたが，報告書の作成を通して学びを整理したり深めたり，新たな考えに思い至ったりできました。最後に，本研修に関わりより良いものとなるように尽力してくださった皆様方に深くお礼申し上げます。(Junka. K)

- 報告書の作成・編集は，密度の濃い充実したマレーシアでの日々を振り返る良い機会となりました。日本人参加者との共同生活やバディとの交流，多民族社会マレーシアの様相を肌で感じた経験は，自身の視野を広げ，自己成長するうえでの好機となっただけでなく，最高の「ワクワク感」をもたらしてくれるような日々でした。報告書と通じて，このような側面が少しでも伝わっていただければ幸いです。最後に，本研修に関わった全ての方にこの場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。（Masahiro. M）

- マレーシアで出会った人々や感じたこと，学んだことはどれも日本ではなかなか経験できないことばかりでした。多様な文化や宗教，価値観を感じることができ，非常に刺激的なものとなり，今後の私の人生にも影響を与える経験ができました。この研修に関わったすべての皆様に感謝したいです。本当にありがとうございました。(Nanaho. T)